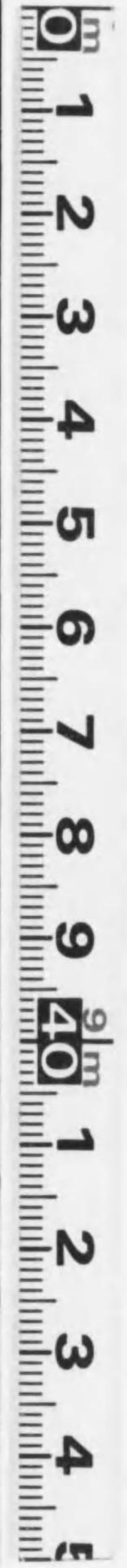


049-Sh53-37  
1200500724485

049  
SH53  
3



始







持久戰時代

049  
SH53  
3



京東  
房書一第





## 序に代へて

昨年の暮は滿鮮の旅から引つづき暮から正月へかけ、臺灣及び海南島を経て中支へと飛びあるき、爲に隨筆集は發行の機を失し、歸來帝國議會の開會と巡遊の雜文起稿及び報告講演などに逐はれ、いよいよ原稿をとりまとめて見ると、昨冬旅行前のところで打ち切りても、紙數は猶豫定より超過することとなつた。

昭和十四年は中央物價委員會滿洲開拓民審議會等くさぐさの委員會がつづき、暑中も休みなしであつた。しかし初秋には新京に開かれたる日滿華交驩競技會に臨み、爲にかねての宿志であつた日本海航路により滿洲へ渡る機會を得、更に歸途は釜山より對馬壹岐を経て、日本八十五ヶ國のすべてに足跡を印する事となりしは、かさねがさね惠まれし次第である。

此間汪新政權樹立せらるるに至りしも支那事變は舊の如く多事多難であり、さ



らに歐洲の天地風雲急をつけ戦塵高くあがる事となつた。篇中處在觸るるところは多くはその端を此重大時局に發せざるはない。東都における委員會などの席上でも、鮮滿臺支の旅の窓にも、寄るとさはると口にさるる事は時局の重大性であり、その收拾の困難なる事である。時局の動きはいはゆる複雑怪奇である、いかに變轉してゆくか分らないが、容易に解決されない、まだまだ長つづきする、少くとも持久戦といふ覺悟の必要であるといふ事は絶對である。本書題して持久戦時代といふ。

昭和十五年六月

盟友 岡實、津村秀松、松波寅吉 諸兄を相次で失ひたる

下村海南識

目次

第一篇 南船北馬篇

日滿不連絡線……………一五

一 日滿間の四つのルート……………

二 閉却されてゐる最短ルート……………

三 日滿不連絡線の真相……………

四 日本五港の一とうたはれた新潟……………

五 證讀さるべき日本海の旅……………

六 清津羅津と京城新京ルート……………

七 新潟敦賀の築港と對馬海峡陸道……………

朝鮮の歌……………三〇

滿洲拉濱線水曲柳の歌……………三二

滿洲拉濱線小城子の歌……………三四

對馬と壹岐……………三六



一 積年の宿願	四五
二 出かけて見れば簡単な旅	四五
三 小なりと雖も壺州	四五
四 馬の對馬、牛の壺岐	四五
對馬の秋	四五
和漂	四五
對馬の歌	四五
壹岐の歌	四五
白髭明神	四五
一 高麗の郡	五七
二 高麗の歸化民	五七
目黒の不動	六二
阿彌陀ヶ峰と靈山	六六
上 阿彌陀ヶ峰	六六
洛東靈山	七二
下 靈山	七二
三 高麗神社と勝樂寺	六二
四 高麗歸化民の後	六二

## 第二篇 時局漫語篇

新しき東亞建設の道	七九
一 地球は狭くなる	七九
二 不自然な巴里條約	七九
三 プロツク對立時代	七九
四 東亞建設と西亞建設	七九
五 人と詞と心	七九
アメリカへの放送	八九
一 在歐同胞の故國を思ふ情	八九
二 在米同胞の故國を思ふ情	八九
三 明治神宮國民體育大會	八九
四 國際スポーツ親善	八九
五 人的資源物的資源不足憂	八九
曹達水	九五
木炭と風呂	九七
醬油問答	101
一 醬油の樽代	101
二 醬油のビレ詰	101
三 仕入れの思惑買ひあふり	101



本多博士と鐵・・・・・・・・・・・・・・・・一〇七

店先き・・・・・・・・・・・・・・・・一一一

一 積極的な熱

二 眞面目な態度で

三 サービスいろいろ

四 人間完成の途

科學より見た日本精神・・・・・・・・一五

一 素手と機械

二 來るべき機械化世界

三 波蘭は何故負けたか

四 東西科學界の展望

五 科學より見た日本精神

外國語の學習・・・・・・・・一二一

郵貯五十億・・・・・・・・一二三

淺間丸・・・・・・・・一二七

支那事變の意義と覺悟・・・・・・・・一三一

皇紀二千六百年を迎へて・・・・・・・・一三七

伸び行く日本・・・・・・・・一四一

第三篇 厚生放言篇

優生問題・・・・・・・・一四七

上 斷種か不妊か優生か

中 現に附議されてる優生法案

下 癩は傳染病なり遺傳ならず

癩と社會問題・・・・・・・・一五二

一 優生制度案と癩疾患

二 癩は傳染病―遺傳でない

三 癩患者の願ひ、癩の國日本

四 癩療養所に對する註文

歌人明石海人と看護婦和久井さん・・・・・・・・一五九

上 癩者の遺味

中 明石海人の臨終

下 女神和久井さん

阿片とコレラ・・・・・・・・一六七

厚生茶話・・・・・・・・一七〇

スポーツと戰闘・・・・・・・・一七四

上 イートンの校庭

下 サレー軍の突撃蹴球



日本一健康児・・・・・・・・・・・・・一七八  
 自動車漫語・・・・・・・・・・・・・一八二  
 柔道と拳闘・・・・・・・・・・・・・一八八  
 上 柔道選手権大會  
 下 拳闘、對米選手豫選大會

神宮體育大會・・・・・・・・・・・・・一九二  
 甲子園の思ひ出・・・・・・・・・・・・・一九六  
 感謝の一念・・・・・・・・・・・・・二〇〇  
 戦時下の結婚徳義問題・・・・・・・・二〇二  
 大日向村と滿洲移住・・・・・・・・二〇六  
 一 東京から出かけて来た  
 二 信州佐久の大日向村  
 三 分村移民の計畫されたわけ  
 四 あきらめの好い日本人  
 五 滿洲移民の必然性  
 六 なぜに滿洲移民が急務であるか  
 七 滿洲移民のさまざま  
 一〇 事實と小説と脚本と  
 一一 移民國策の意義  
 一二 滿洲の天候と溫度  
 一三 移民村の病院  
 一四 醫師看護婦より産婆  
 一五 滿洲の廣さ平らさ  
 一六 松花江の長さ大きさ

八 分村移民の元村新村  
 九 小説の大日向村  
 一七 吉林の水電六十萬キロ  
 一八 日本の國策  
 大日向村の歌・・・・・・・・・・・・・二二一  
 民族偶語・・・・・・・・・・・・・二三三

第四篇 白雲流水篇

蒙自ばくげき行の歌・・・・・・・・二三九  
 武人牢獄の歌・・・・・・・・・・・・・二四〇  
 一 藝と蜘蛛の歌  
 二 燕渡り鳥の歌  
 三 易者口入人の歌  
 四 軍人齋藤潤  
 五 退職軍人の歌  
 六 五・一五事件、二・二六事件  
 七 牢獄に下る歌  
 八 歌に生くるもの

歌心・・・・・・・・・・・・・二六一  
 大谷尊由さん・・・・・・・・・・・・・二六四  
 岩永裕吉・・・・・・・・・・・・・二六八



松木幹一郎君 . . . . . 二七三

一 小引 . . . . . 二七三

二 郵務課長の松木君 . . . . . 二七三

三 廣島局長の松木君 . . . . . 二七三

四 大正時代の松木君 . . . . . 二七三

岡實と僕 . . . . . 二八五

一 向陵及び赤門時代 . . . . . 二八五

二 彼と我との結婚 . . . . . 二八五

三 農商務の酒豪連 . . . . . 二八五

四 簡易保険と工場法と米騒動 . . . . . 二八五

津村素雨と僕 . . . . . 三〇一

上 學友津村秀松 . . . . . 三〇一

津村素雨逝ける日 . . . . . 三〇八

滿洲移民宣傳の暮 . . . . . 三一六

代々木の御苑 . . . . . 三一六

書齋漫語 . . . . . 三二〇

五 臺灣電力の松木君 . . . . . 二七三

六 平河亭の松木君 . . . . . 二七三

七 終りに . . . . . 二七三

五 四月會の話 . . . . . 二八五

六 巴里會議勞働會議國際聯盟 . . . . . 二八五

七 毎日の岡と朝日の下村 . . . . . 二八五

八 盟友岡實兄逝く . . . . . 二八五

下 盟友津村秀松 . . . . . 三〇一

有樂座の半日 . . . . . 三二二

一 傷病將士の慰安 . . . . . 三二二

二 林芙美子さん . . . . . 三二二

僕の映畫の思ひ出 . . . . . 三二八

映畫と動物園 . . . . . 三三〇

座談會 . . . . . 三三三

築地の同氣俱樂部 . . . . . 三三七

玉川樓事件 . . . . . 三三九

二直角の靴 . . . . . 三四七

昭和十四年身邊雜話 . . . . . 三五二

三 馬海松と綠波 . . . . . 三二二

四 菊池寛君の挨拶 . . . . . 三二二

### 第五篇 時事解説篇

乳幼児を生かせ . . . . . 三六一

一 多産多死の日本 . . . . . 三六一

二 乳幼児死亡率の高い日本 . . . . . 三六一

三 時局に直面したる人の需給 . . . . . 三六一

四 事變に伴ふ出生数の激減 . . . . . 三六一







第一篇 南船北馬篇



## 日滿不連絡線

### 一 日滿間の四つのルート

不連絡線といふ詞があるから不連絡線といふ詞もあつて差支へが無い。現に日滿不連絡線なるものがある。

時局に直面して至急に決行さるべき國策が少くない。しかもとかく足取りが鈍い、その重なるものに日滿不連絡線がある。

今や内地滿洲相互の重なる地點間に動く人も物も夥しいものである、お客は猫も杓子も押すな押すなとばかりに東海道線山陽線と、あの忙しく眼の廻はるルートを追ひ關釜間を渡り、さらに釜山から朝鮮を縦に通りぬけて奉天新京哈爾濱へと北上しつつある。

それならば外にルートが無いかといへば海路大連を経由する線路と敦賀又は新潟から北鮮の清津又は羅津を経由する線路がある。しかし東北北陸方面の開拓民その他北滿の佳木斯牡丹江方面



に志す者を除いては日本海航路は殆んど眼中におかれてゐない。しかし東京新京間の距離から見れば、

	東京新京間	内海路	所要時間	賃金
釜山經由	二八六八 <small>キロ</small>	二四〇 <small>キロ</small>	五五時	四〇、六〇
大連經由	二九四八	一一五〇	往七五復八一時	三九、一〇
新潟經由	一九八一	九〇〇	七〇時五五	二九、五六
敦賀經由	二〇四八	九〇〇	七一時三五	三三、一三

となつてゐる。此表を見れば日本海航路は距離に於て釜山經由に比し約三分の一短かい。しかも世間から忘れられてゐる、否知られてゐないのは何んといつても

海上に於て約四倍のびてゐる。

その間の航海回数が少ない、三日おき位である。

この二つが重點である。しかし海上の距離は短縮出来ずとも速力を早め回数を増すことができる、又さうなれば必らずお客がついて来るのである。

今や日本と朝鮮臺灣滿洲支那間の交通が著しく頻繁となり、特に東海山陽の鐵道省線は飽和點を超え、爲に乗客も貨物もはげ切れなくなつて來た。中央物價委員會では低物價維持の一策とし

て屢々運賃問題が討議される。しかし何んとしても現状では乗客貨物をハキコナス事が出来ない、設備擴充の外に、配船配車等諸改善の餘地があるといつても、それ位では追つ付かない。だから乗客貨物の運送に付てもそれぞれに順位を付するといふ事まで考へられてゐる。今後の日本と大陸間の推移を思へば、東海山陽朝鮮の各線路につきて、その能率をあげるべく最善の努力が拂はるべきであるが、結局はそれだけで追つ付かない。それだけに日本海航路に對する關心が深くなるばかりである。

## 二 閉却されてゐる最短ルート

對北鮮對滿さらに北支沿海州シベリア等に想到すれば、今日まで此ルートのかへりみられなかつた事は不思議な位で、滿洲事變以來でも此線路の設備が充實されて無いばかりに少からぬ不便不利をかもしつつある。今や此ルートの擴充はますます急なるものがある。少くとも今日の三日に一度の船便は日便となり、さらに關釜間の如く一日二回便位にまで増便されなければならない。

郊外電車などは敷設して相當の歳月を経ると、沿線に學校や工場を誘致し住宅が増築されいつかソロバンが持てるやうになる。しかし日本海の航路は増便すればすぐに右から左と乗客はついてくるのである。同時に飽和線を超えてゐる山陽東海線の緩和となるのである。しかし我等はそ



うしたソロバンに合ふ合はぬといふ問題のみによりて主張するのでは無い。

日滿一如とか新東亞建設とかいふ旗印を實現せしむる爲には、何んとしても國民をあげて大陸の空氣となじませねばならぬ、下關まで西下し、さらに海を越え、朝鮮を縦に通らぬけて、はじめて滿洲に入るといふ廻りくどい遠々しい感じを無くしなければならぬ、それには更に別に便利な近いルートがある。それも二日とかからない一日半で東京より新京へ！ その料金も僅に二十圓位ですむといふスローガンが行き渡れば、東海關東北陸東北の人々は滿洲行きは九州行きより近い感じとなるのである。ましてや此ルートは單に新京奉天哈爾濱それからシベリア經由の現幹線ばかりを對象とはしない、將來は北支蒙疆から中央アジアを経て歐洲列國へ通すべき國際ルートともなるべきものである。

さうした觀點から此航路について、かねて深い關心を持ち長い歳月を通じ筆に口にしてゐた。それは私の亡父が日清戦役直後から日本海沿岸への定期航路開設を唱道遊説してゐた時から端を發してゐる。それで多くの要人には意見を述べたばかりではない、親しく本航路の試乗をすすめてゐた。ところが肝心の自分は鮮滿のかへり路はいつも歸京がいそがれる。そこへ船が三日目四日目といふので聯絡が悪く未だ宿志が果たされ無かつた。今次は渡滿の往路に此ルートをとりに漸くに日滿不連絡線の旅を體驗する事ができたのである。ここにその不連絡の實況を報告する事

になつた。それは一日も早く立派な連絡線としたいからである。

### 三 日滿不連絡線の真相

現状では上野を夜十時半に立ち新潟に翌朝七時につく、それから對岸行き船出までは上野新潟間の汽車の時間だけ又新潟で待たねばならぬしかけになつてゐる。朝九時すぎの上野發急行に乗ればよいではないかといふが、汽車の新潟着が午後四時で船の新潟發が一時間お先に出航する、烟りだけあとに残す事になつてゐる。なにも遠いドパー海峡連絡線のためしをまつまでもなく、大連線臺灣線さらに關釜や青森函館間などの例を見ても、船から汽車へ汽車から船へと右から左へ乗り換へが出来るのが常例である。ところで新潟では汽車の着く一時間前に船がお先へ出航してゐるのである。しかも關釜間は一、二回の便があり新潟は三日に一度の便である。これほど入念に東京方面のお客の不便を圖つてゐるのは珍らしい、不連絡といふ詞もかかる時に使はれなくては使ふ時が無いのである。

僕の上野を立つた日に、新潟では日本海經濟聯盟の會合が開かれ、僕の着いた日には會長の大藏公望、交通協會理事長の中川正左兩君が残つて居た。僕も一處に新潟鐵道局に招かれ、局員諸君の前に三人それぞれ一席辯じ立てたが、僕は上記のやうな意見につけ加へて



新潟鐵道局管内には羽越岩越北陸等の線路もあるが、上越線は國際線路として一番重要性を持つてゐる、現状では東京からの御客が少ないからと云ふかも知れないが、之れでは少ないからでは無い、少くなるやうにしてゐるのである。三日に一遍でこれ位しかお客が無いといふのではない。三日に一遍だから問題にされない、考慮に入れられないのである。日便にすればさらにお客が澤山に流れ込んでくるのである。さうして東海山陽線の飽和状態が幾分緩和されるのである。よしんばさうでなくともさうなるやうにせねばならないのである。上越線は今すぐに東海道線並にスピードアップ出来ぬまでも一時間や三十分は短縮できよう、それも出来ぬとしても朝の九時十分發は一時間前後ダイヤの變更はできるはずである。又之と相應じて船の方でも對岸まで九百キロの航路である。現在は十二ノット位しか出でてゐない。新潟の港は暗くなると出入がむづかしいといふ事だが、三時發を三十分や一時間位は、時間のくり下げはできるはずである。これはソロバンから營業から割出されても異論が無いはずである、況んや新東亜建設の國策にそふのである。

#### 四 日本五港の一とうたはれた新潟

大體鐵道局でさうした意見を洩らした次第である。事實東京新京間を往復する朝野の要人はもとより一般民衆にとりて、約八時間の新潟での待ち合せは迷惑至極である。その迷惑を辛抱して僕は新潟經由で滿洲に入る事にした、もともと此線路視察が目的であるからである。大藏中川兩

君はじめ中村知事玉置鐵道局長白勢商工會頭など有志の諸君は港灣視察案内の爲め、僕の見送りかねてサイベリア丸の舷上に集まり、地圖を圍みて港灣改築計畫につきいろいろ説明されたが、新潟港の現在將來につき述ぶるに當り、ここに新潟港の昔話を述べる。話は僕の學生時代四十餘年の昔にさかのぼる。

日清戰役前後から亡父下村房次郎は日露の交通日本海の定期航路開始の運動をはじめ、北海道から山陰にいたるまで日本海沿岸に遊説をつづけてゐたが、遂に實現を見る事となつた。當時東京帝大の學生であつた僕は、明治二十九年の夏青森から函館に渡り、日本海定期船に搭乘浦港に志したが、その折新潟をはじめ海から見舞うたのである。當時の信濃川は河港は砂に塞がれて一千噸の愛國丸は疊を布けるが如き夏の海に沖合はるか碇をおろしてゐる。はしけに乗つたがそれだけでは用が足りない、舟子の背に負はれてはふり上げられたのが、日和山の砂濱である。風なき夏の晴天に軽い風呂しき包み一つ手にした青年は、あとよりつづく荷物をかかへた老人や婦人を見、冬の海雨の日を思うて、これが學校の地理の試験に出くわした日本五港の一なる新潟であるのかと、そぞろ期待のあまりにも裏切られたる感激に浸りつつ砂濱を通りぬけ、古町の櫛清といふ旅店に入つた古い古い思ひ出がある。

それから十餘年の歳月が流れて、信濃川改修の爲めには明治四十年以降大正十五年まで二十ヶ



年に互り三千萬圓の經費を投ぜられ、大河津の分水事業と信濃川河口改修工事が竣功し防波導水堤も出來上る。その後縣の事業として二百數十萬圓を支出し港内の浚渫港灣施設の整備改善につとめ、ここに二十二隻十萬三千五百噸の船舶が同時に繋留荷役せらるる事となつた。現に四千何百噸のサイベリア丸が岸壁に横付けになつてゐる。四十餘年間の出來事として、それが驚くべき急速の進歩であるのか、それとも存外春日遅々たるものであるか、それは見る人の意見に任ずとして、日滿一如が叫ばれ新東亞建設の聲がやかましくなつた今日では、日滿間をより強くより親しく結びつけるには、こんな事位では御役に立たないのである。よしんば十四年度から六年繼續事業として大枚？ 三百萬圓一年ただの五十萬圓位で防波堤を新設して見ても、そんな事では追つ付かないのである。昭和十三年の統計が輸移出入

百七十一萬噸 一億二千三百萬圓

で前年に比して四割近い増加を示し、乗降客が三萬六千人で前年の三倍強となれるを見ても、現在の設備では既に手一杯である。今日でも河口の出入は霧深き夏、風多き冬は船の方で難んじてゐる。隔日定期となつても港内のゆとりがとりにくくなつてゐる。船便はいつでも増せる、新船も次々にできうるが、港灣は相當の歳月を要する。新潟港の擴大は國庫支辨で急速斷行すべき國策の一つである。

## 五 禮讚さるべき日本海の旅

サイベリア丸は夏の海をしづかに北へとほしる。北滿北鮮への乗客もあらうが、移民の先遣隊後続の本隊、移民の視察團で押し合つてゐる。婦人たちのカーキのモンペイに編上げ靴は見た感じがよい。さうした乗客で二等も三等もギツシリである。しかし一等客となると食卓を圍む者は滿支の會議に参加するお醫師さん二人、それはいづれも北陸の人であり、東京からは此ルートを特に視察する爲めの陸軍の將校と僕と二人にすぎない。特に此航路に關心を持つもので無ければ乗れぬやうな仕かけになつてゐるから止むを得ないのである。

しかし夏の海の旅ほど四六時中清淨無垢な大氣の中で、靜かなのどかな天候から恵まれるものは無い。前に見横に見た佐渡ヶ島もそのうしろ姿をかくしてしまふ。まんまるな月はいつのままにか眞上から銀波をなげてる。内地の政變や歐洲大戰などであわただしかつた東京のシヤバからまるでかけはなれた別世界の雰圍氣につつまれてのんびりと舷上をそぞろあるく。ラヂオでは颱風が奄見大島から九州を襲ひつつありと聞くと、ここは靜けき船路にあくる丸一日をおくり三日目に朝早く北鮮の清津につく。六時につくから七時何分とかの汽車で直行すれば、その夜に新京につくことができる。此朝は運悪く船は岸壁についたが一時間足止めを喰はされた、昨夜、早産の



まだ二月にしかならなかつた乳兒が船中で亡くなつた。検査の外に検屍があつたからである。かうした不時の出来事があつたのだから止むを得ないとはいへ、岸壁についての一時間の足留はかなりこたへる、一分にみたぬゴーストツプで車の止められてる時を思ひ合はすればよい。しかしこれは船中に醫師を配屬する事によりてわけなく解決される。昨今は醫師拂底であるから無理な注文かは知らぬが、これが日便にでもなれば猶の事航海中に検査なり又診察なり手當なり検屍もさるべきである。こんな事は明日からでも改善しようと思へばできるのである。

此機會に一言しておきたい事は、冬の日本海は荒れるといふ事である。いかにも、夏と冬ではかなり違ふ。しかし海の荒れる事と船のゆれる事は別である。吾々は學生時代には熊野灘遠州灘が荒れるといつた。玄海灘が荒れるといつた。しかし、それはその頃の小さい船の旅で評判になつたのである。今日では問題にならなくなつてゐる。日本海は今日ですつと纒子になつて港もよくない。船は小さい、それでは荒れてゆれもしよう。何萬噸といふ船が通ふやうになれば、そんな噂は薄れてくる。無くなりましょう。その荒れるといふも、寒い冬のある一と時の話である。海陸の聯絡がよく船さへ大きければ、船の旅は汽車に較べてどれだけ愉快で衛生的だか分らない。

## 六 清津羅津と京城新京ルート

順序として北鮮の二港清津と羅津につき簡単に附言する。清津港も又あまりに狭い、そこへ漁船が多いから僕等の時も岸壁に既に三隻横付けになつてゐる、そこへサイベリア丸は漸く大小の汽船漁船などの間をぬけて餘されたる岸壁一杯に漸く横付けになつたが、近き將來新潟から敦賀から三日おきの船が二日おきになつたなら、はやこの港の現状では賄ひ切れない。清津は羅津のやうに廣くはない。いづれにしても擴張といふ事が考へられる。それは北鮮一帯の産業が著しく開發されつつある。清津羅南間も工場地帯として多大の發展を見つつある。さらに北鮮一帯の工業の發展は驚くべきものがある。一面城津港の開發を計畫されてゐるが貨物集散港としても清津は更に擴大するべきである。さらに此航路が改善されると清津から京城への線路も之に伴うて大に充實され、金剛山から北鮮一帯へかけ、清津を経て新潟經由東京へ、又敦賀經由阪神への交通路發展の將來が矚目される。

現状にても清津では配船がむづかしい、それだけでも之にとされる羅津といふ大きな港の開發される事は當然すぎる。さらに滿洲へ向つては羅津は清津に比して十一キロ短かい。羅津はとも雄大でありしかも處女地未開地である。數年前殆んど二三軒の家位しか見えなかつた羅津は今



やすつかり面目を一新しつつあるが、將來を遠觀して大きなスケールで理想的な港市をつくり上げてべきである。羅津清津間は約一百キロ現在バスが通つてゐるが此間の鐵道連絡は急務である。

清津は西から羅津は東から共に滿洲の圖們につながる。圖們は牡丹江佳木斯線と吉林新京線との分岐點である、之から吉林への線路は約五百三十キロであるが、工事の改良により相當線路の延長はちぢめられうるはずである。結局新潟經由新京線は

一、上野新潟間 四三〇キロ

二、新潟羅津間 八六一

三、羅津新京間 六八〇

となる。現に理想案は一日半三十六時間にスピードアップするといふ事になつてゐるらしいが、とりあへず、現在のところ汽車のスピードを東海道線の急行並一時間六十キロとする。(七十キロ近い特急もあり、又滿洲では奉天新京間の如く九十キロ近い特急もあるが先づ平均六十キロとして)前掲の汽車便は合計一千百十キロ、此經過時間十九時間。之に對し船便は關釜間の一時間三十二キロに準ずる事とすれば二十七時間となり、船車合計四十八時間のスピードアップは必しも無理な注文でないはずである。

同じやうに大阪より敦賀經由は航路と滿鮮の汽車便は大體東京新潟の場合と相同じく、大阪

敦賀間は上野新潟間より二百七十二キロ短いから、上記の四十八時間よりさらに約三時間半の短縮を見る事ができる。

大阪釜山新京線は二千三百二十八キロ、敦賀經由は千七百キロである。又、大阪敦賀間の省線は現に敦賀米原間に線路増設改良工事が企てられてゐる。

### 七 新潟敦賀の築港と對馬海峽隧道

いづれにしても、過去の經過を統計の數字に徴し、將來滿洲の五ヶ年計畫及び滿洲開拓民の移住等を思へば、今後の彼我交通量の激増は驚くべきものがあらう。一方で東京下關間に更に新線路建設といふ事が問題となつてゐる。又關門間地下線の竣功に次で起るべき問題は福岡壹岐對馬釜山間の地下線工事である。それらも存外早く現實化されるであらう。又されなければならぬが、それにしても相當の歳月がかかる、又さうした計畫のいかに推移されるとを問はず、對岸への交通路はその數に於て増し、その質に於て充實され、多々益々辨ぜられるべきである。それには京阪及名古屋方面を背景とせる敦賀と東京方面を背景とせる新潟との築港を急務とする。敦賀は風當りが強い、といつて防波の突堤をつくるべくあまりに海が深すぎるといふ。敦賀港の西岸に沿うて常官灣がある。四十餘年前亡父に隨行して親しく實地見分の一行に加つた事もあるが、之も



大きく見れば大敦賀の一部と見られぬ事が無い。そのいづれによるべきが上策であるかは専門家の意見にまつ外は無い。一説には若狭の小濱方面に良港があるといふ。しかし之には京阪神方面への交通路が問題になる。いづれにしても此あたりに近畿と名古屋方面を背景とせる良港をつくり上げねばならない。

又新潟の方にしても河口は猶上流から砂を流し、海からは砂を吹き上げるといふ。現在の河口は水面はまだ相當餘裕がある。要は水深と出入の便否にある。北に遠からぬ阿賀川も検分したが素人の僕には専門的な事は分らない。只新潟は信濃川阿賀川の中間地帯に極めて有利な工場地帯を備へてゐる。いづれにしても新潟方面より關東へ、敦賀方面より近畿東海へ、此二つのルートは完成せねばならぬ事は絶對である。さらに僕は歐洲ではかなり人工的な多くの港を見た。日本でもあの臺灣東海岸の砂濱花蓮港に今や立派な築港ができた。やつて、出来ない事は無い。此二つの港の完成と對馬海峡の地下隧道が、日本と大陸を結ぶ大動脈である。

少くとも現状にありても又近い將來を見ても、此動脈の完成は内地鮮滿間の激増して止まざる交通量を緩和する方策であり、又實に日滿——朝鮮支那へも——一如の思潮をもち上げるものであり、新東亞建設の主旨を現實化する大きな必然的解決の國案である。

附記 今次僕は渡滿の途次偶々日本海經濟聯盟會議が開かれし直後に新潟に入り、中村安次郎知事より午餐をイタリヤ軒に招かれ、次で君は大藏中川諸兄と共に僕をサイベリヤ丸に送り、君は舷上に土木部長の説明を補足して大に新潟港の改築を論じたのであつたが、舷を下りて官邸への車中俄かに發病し、遂に不歸の客となりしは新聞紙にて報ぜるが如くである。誠に人事無常といふ外ない。ここに故人へ追悼の微意を表する次第である。

(日本評論、十四年十一月號)

### 吉林ダム

湖岸に町生れ港開かれて

白頭山さして船はのぼらんといふ

山の峽に琵琶湖に似たる湖生れ

滿洲の地圖を塗りかへんとす



## 朝鮮の歌

清津より羅津への途上富居驛

支那繻子とミルクキヤラメルと仁丹と

箱ならべあり華商永福號

この村の家は十あまりその中の

二軒までは中華料理店

羅津灣

はてしなき草山のつづきここに

松少しあり丈に足らねど

釜山郊外海雲台コース

(球友大橋竹次郎君海雲臺コースにてプレイ中發病シクラブハウスにて長逝す)

球飛んではろかに白し歩みゆけば

潮騒の音冴えて聞こゆる

亡き友の逝きにしはここかころと

球のころがりがかなしみ新なり



滿洲拉濱線水曲柳の歌

滿洲の秋をむかへて垂穂田に

伊那人つどひ伊那節うたふ

背戸の厠かはやにかがみてあれば首筋に

さやるものあり南瓜かぼちゃの小づる

背戸の厠かはやの中に圍みて南瓜胡瓜かぼちゃきゅうり

茄子唐黍百日草の花

唐黍の穂花は素枯れかぼちやの花

咲ききらず咲きて秋老あきけにけり

幅太の廣葉の煙草わら屋根の

上までのびて小さき花もてり



滿洲拉濱線小城子の歌

滿洲馬は小さけれどもわが乗れば

眼の下に見ゆ滿洲家屋

ぬかるみを滿洲小馬のたどしき

鞍上人あり鞍をつかまへて居り

尺に足らぬくぼみの前に滿洲小馬

小首か上げて動かざりけり

ぬかるみに脚をとられて滿洲馬

もがけど抜けず嘶きにけり

馬の耳に御苦勞といつてもはじまらず

首筋たたいて別れけるかも





## 對馬と壹岐

### 一 積年の宿願

對馬と壹岐。

關釜間の連絡船に、臺灣支那南洋歐洲方面への航路に、いつも島影を、右に左に望みながら、親しく其土を踏む機會に恵まれにくい島に對馬と壹岐がある。

煙霞放浪天下をまたにかけてゐる筆者は、朝鮮の各道も臺灣の各州も、さては内地の國づくしにあげられてゐる國々まで二ヶ國を除いては足跡を印し、なほ至る所講演まで試みざるは無く、我ながら自分の健康と宿命に感激を覺えてゐる。

内地の國々も明治三十一年に大學を出ると、すぐ臺灣から沖繩列島をめぐつた。大正の十年朝日新聞社に入社してから、先づ未踏の國々に足を入れるべく機會をねらつてゐた。佐渡、隱岐、美作、土佐、淡路、若狹、飛騨などの國々から伊豆大島、八丈島、奄美大島、天草列島にまで放

浪の旅をつづけたが、さて對馬壹岐はいつも氣にかけてゐるが、その機會に恵まれない。

滿洲の旅には日本海航路をと念じながら、それも實現されない、對馬壹岐は歸り路でいそがれて、いつもその機を逸する。此夏は南洋の旅を念じながら物價委員會にしばらくして宿願がはたせない。昨年旅したる滿洲へ、日滿華の競技大會が開かれるので歳を重ねて出かける事となつた。其往路に日本海航路かへり路に對馬壹岐めぐり。此度こそは積年の願ひがかなつたのである。有りがたい事である。

### 二 出かけて見れば簡単な旅

前書が長くなつたが、對馬壹岐は日本内地と朝鮮支那との昔からの交渉のあとをしるのぶべく、そこに幾多の舊跡もあり懐古史實がある。徳川時代は暫く措き、日韓合邦の前後を通じいかに推移していつたか、同じ孤島でも佐渡や隱岐とどうちがつてゐるのか、僕は現に朝鮮人問題を取扱つてゐる中央協和會の事業にも關係してゐる。その朝鮮と隣り合せの對馬の人々にも遇つて見たい。僕の存命中どうなるのか分らないが、遂には來るべき對馬隧道の起工竣工を豫期して、一應は現地も視察しておきたい。さうした數々の思ひを胸にうかべて、釜山を船出し對馬から壹岐を経て九州博多に上陸した。出かけて見れば誠に簡単な旅であつた。夕に釜山をあとに夜十時頃對



州上島の比田勝に、次で夜深く下島の嚴原に上陸する。一泊してあくる一日を見物と講演と宴會に、その夜嚴原をあとに夜深く壹岐蘆邊に上陸一泊、あくる朝から島内を駈けめぐり、講演あり宴會あり夜深く郷の浦を船出すれば、夜明けには博多港に着いてゐる。之は釜山から博多行の場合であるが、博多からなれば同じ船が午後博多を出て夕壹岐に夜嚴原につく。同じ船が夜おそく又引かへして嚴原をあとにし、壹岐を経てあくる朝は博多に引きかへす。對馬、壹岐、博多その間船路はそれぞれ四時間足らずであるから、存外簡單にすむのである。しかも嚴原と壹岐の郷の浦では船が棧橋につく。(壹岐では蘆邊、勝本、郷之浦と交替に寄港する)

三 小なりと雖も壹州

對馬の面積七百二平方キロ壹岐の面積百三十八平方キロといつて見ても何等の感銘が起らないから、日本帝國內で名の知れてる島々を面積順にならべて見ると次の如くなる。

濟州島	一、五二〇平方キロ
沖繩	一、二二〇
佐渡	八五七
天草	七九一

奄美大島	七一八
對馬	七〇二
淡路	五九〇
屋久島	五〇〇
種ヶ島	四四七
ボナベ	三七五
バラオ	三七〇
隠岐	三四八
五島福江	三二六
平戸	一七一
小豆島	一七〇
周防大島	一五八
壹岐	一三八
澎湖島	一三六

對馬は天草や奄美大島より少々小さい、壹岐は小豆島や周防の大島より小さい。同じ島でありながら、九州付近により大きい平戸がある、五島は福江その他數多い島々から成つてゐる。しかし



天草や奄美大島などは國といはれなくて壹岐だけ國づくしの中にはいつてゐる。何よりおもしろくうれしく感じる事は對馬で對州タイシユウ・タイシユウといふ詞を聞くが、これ以上に壹岐で對州イシユウ・イシユウといふ詞を聞く。わたしたちは一人前である一國であるといふ意識がまさまざとイシユウの詞によりてニジミ出てるのである。

#### 四 馬の對馬、牛の壹岐

對馬と壹岐、呼べば打應ふる兄弟の島であるが、二つの島はかなり互に右左とちがつてゐる。それだけに二つの島は道順であるから同時に興味を以て見物する事である。

先づ對馬はその面積が壹岐の五倍強であるが、壹岐の人口は四萬を越え對馬の人口は五萬かつかつである。一口にいへば對馬はデコボコの山だらけで榮螺の背中のやうな島であり、壹岐は全島起伏あれども勾配ゆるく、先づ平地並に近い。だから壹岐には二町十村あり對馬には一町十二ヶ村しかない、それで壹岐には十四の小學校と七つの分教場があるが、對馬には之に二倍半の三十六の本校と二十一の分教場がある。處によると戸數五百に充たぬ村に五つの本校がある、もともとお互に合同する氣分にも缺けてゐるらしいが、それにしても地況がいかに不便不利に出來あがつてゐるかが分る。

對馬は面積に於て奄美大島や天草に似てゐるがそれほど高い山があるわけでない、只岩角瘦せていかにも勾配が急で削ぎ立つてゐる。だから壹岐では自動車で島中の町役場を一日中にかけて廻れるが、對馬では自動車の通ふ處は極めて短かくあとは小舟で縫つてゆくか、徒歩又は馬背による外は無い。

島國のならばしとして男子は漁業で家を外にする、女子は内に能く働いてゐる。對馬では野をよぎる馬といふ馬は女が手綱を取つてゐる、對馬では牛は中々見られない。壹岐では牛といふ牛は女が手綱を取つてゐる、壹岐では馬は容易に見られない、全島四五頭しか無いといはれてゐる。

#### 五 對馬の今と昔

地勢礧礧山瘦せて岩角秀で、その山奥に朝鮮人がはいり込んで炭焼きをする、朝鮮人は相當お金をかせいで故郷にかへる、あとの山はやせるばかりですといふ、つまり、島人はあまり勉強しないのですと地方の人はこぼしてゐる。嚴原の町も、藩主宗家の城跡も影を止めず本邸も別邸も姿を残してない。ことにトロールや石油發動汽船の世の中になると、一々嚴原を足場としたのも昔話となり、今はみなみな漁場から博多門司下關へ直航してしまふ。嚴原はあふりをくつて昔日の景氣が無いといふ。對馬といへば連想された竹敷も、海軍の要港部として日本海海戦前後よく



話題に上つたものであるが今は日本の国防線がすつと遠く大きく南下して要港部も引拂つてしまつてる、四五十戸の漁村となつて、遊廓があつたといふ場所も枇杷畑となり、要港部の建物といふ建物は姿を無くして、只赤煉瓦の煙突が一本残されてる。

どうも不景氣な事ばかり筆にしてすまないやうな氣がするが有りやうが昔にくらべていささか下り坂になつてる。それで對馬の地を踏む者はそこにいろいろの史蹟をしのび、風光を賞すべしといふ事になる。

## 六 對馬の淺海灣

對馬の風光は龜阪の地點より下縣の半から淺海灣さらに上縣全島を見はるかすながめを第一とする。

淺海灣は水面七千町步南北三里五町東西三里二十町、周回五十七里、島嶼の數五十八、水深は四尋乃至四十一尋に及び、竹敷港もその灣内の數多いクボミの中の一つである。僕は大體天草千崑峯からながめた天草松島に似通うてゐると思ふが龜阪からの眺めはかなりはなれてゐるから陸前の松島及び天草松島の四大觀などより見るながめよりはさらに雄大である。嚴原より程遠からず自動車はきくから龜阪よりの眺望は逸してはならない。猶暇あれば竹敷までドライブして昔を

しのぶもよく、又小茂田の濱までドライブして宗助國が戦死したる元寇の跡を弔ふもよく、今日では車が通はないがさらに南下して佐須村に安徳天皇御陵墓の参考地がある。郷土學や史蹟に興味ある人は此あたりまでのして田舎の旅をつづけられるも一興である。

## 七 壹岐の嶽の辻

壹岐の島は小さい、そしてなだらかである、車で全島めぼしいところはドライブして一と通り見物ができる。元寇の遺蹟少貳資時戦死のあとである壹岐神社、同じく守護代平景隆の遺蹟新城神社、北端勝本町の突角山上なる公園、鯨伏村の湯の本温泉——これは天草の下津深江の温泉と相似たるものであるが設備は劣つてゐる——國分寺趾、住吉神社等々は半日の行程で足りてゐる。途上に笹鬼屋といはれる大きな古墳がある、外郭高さ八間東西四十八間南北三十間の丘陵形で、石郭は四室に分かれ玄室は高さ九尺深さ七間、巨石を以て築かれてある。全島の古墳二百餘箇處に上るといふ、考古學者には何かの資料になる事と思ふ。支廳所在の郷の浦に近く、嶽の辻といふ丘陵がある。案内記では本島第一の高山とある、海拔は二百メートルである、ついチヨコチヨコと絶頂に上つてしまふと、壹岐全島波のうねりのやうな丘陵森林田畑、尖つて突き出てる岬、うねつてくぼめる入江、壹岐全島は脚下に朝してゐる、對馬、北九州の岬や島々も指呼の間にある、



對州では最高峰白嶽しらたけに登るのはむづかしいから、龜阪より大觀するが、壹州では嶽の辻で全島をパノラマ式に見る事ができる。

その昔朝鮮との交通路として使節の交換足溜りであつたさうした故實は一部琉球に似通うたところもある。吉備眞備など遣唐使も此地を通つたといふ、萬葉集には遣韓使節の歌も數多くのつてゐる。元寇の役から朝鮮征伐、徳川時代の朝鮮との修好、さては晩年ロシア艦隊の侵入など、さうした史談のくさぐさは他日の筆にゆづる事にする。

(旅、十四年十二月號)

世にも大切なもの？

命は別として

一、時

二、時

三、時

(モダン日本)

## 對馬の秋

對馬の秋？ そんな遠い邊鄙なところをと云ふなかれ。關釜連絡も大連航路も對馬のそばをながめて通るのである。

釜山と對馬と壹岐と博多又は平戸はそれぞれ三時間程の船路である。ひるすぎに博多をあとに夜對馬嚴原に着く、あくる一日島内見物におくり、その夜歸路につけばあくる朝は博多にかへつてゐる、それとも釜山へ志してもよい。又その途上壹岐に立ちよれば、これ又一日で島内くまなく見物ができる。

對馬はつつじの咲くころがよいといふが、秋晴れの旅にもよい。對馬の面積は七〇二平方キロメートルで淡路壹岐隱岐などの約五倍にあたるが、何分にも榮螺のやうな、さう高くも無いがけはしい岩山が林立し海岸に迫つてゐる。上縣と下縣二郡を通じ自動車道は敷へるばかりで、あとは



船か徒歩か馬背による外無い。

對馬の旅は數日滞在して、古くからの支那朝鮮との間のくさぐさの史跡をたづねるもよいが、一日の滞在ならば淺海灣の見物をおすすめする。淺海灣は上縣と下縣二郡の間に横はる内海で、灣口は西方に開け東は大船越の瀬戸及び久須保水道により日本海に通じる。灣内の面積七千町歩に近く南北三里五町、東西三里二町、灣の周圍五十七里、島嶼の數五十八を算へ、水深は四尋より四十一尋に及ぶ。かつて要港都として知られた竹敷も此灣内に在る。

淺海灣の全景は嚴原から程遠からぬ龜阪のピークから一と目である。いや淺海灣ばかりで無い、下縣郡の北半分と上縣郡全部が一望の下にある。對馬はいかに山角瘠せて榮螺のやうになつてゐるかが一と目で分かる。全島一町十二ヶ村、戸數九千餘、人口五萬四千、それで小學校の本校がなんと三十六……戸數五百位で本校五ヶ處といふ村さへある……分教場二十一それで學級は二百三しかないといふのだから、交通の不便なることを如實に物語つてゐる。

龜阪からながめた景色は、松島のそれでも無い、屋島や鞆や下津井から見た瀬戸の島々のそれでも無い。先づ天草の上島から天草松島をながめたそれにやや趣きを一つにしてゐる。

此風光は寫眞にしてもつくせない。まだ地圖で想像をめぐらす方がよいかも知れない。何より

も、ともかくにも實地に足をはこぶ事である。

淺海灣にくさぐさの史實も残されてゐるが、幕末オロシアの物語だけここにしるすに止める。

日本海の咽喉を占めてゐる對馬に、尤も食指を動かしたのはオロシアである。文久元年二月露艦ボサジニツク號は函館から長崎への道すがら、船に損處が出来たといふ口實の下に淺海灣内芋崎に碇泊し、艦體修理の爲め家を建てる土地を借りたい、それから一里四方は解放して散歩に便宜を與へるやうにと申込んだ。藩主宗義和は之を幕府に告げる。電信といふわけにもいかない、早馬か何かでお江戸へ注進すべくかけつけてるうちに、露艦の人々は木を伐り家を建てはじめた。或日露人はボートに乗り芋崎から東の奥なる大船越の堀割を日本海側へ抜けようとした。關守は村人と共に之を防ぎ止める、ロシア人はピストルをぶつ放つ。松村安五郎は即死する。吉野數之助は胸を傷けられる。

幣原博士の朝鮮史話によると、吉野はボートへ引き込まれようとしたから、身ををどらして海に投ぜんとしたが自由がきかない、そこで舌を嚙んで死なうとしたので露人も驚いて之をかへしたが、數之助は外夷に捕へられたのを耻ぢて藥を退け憤死した。

とある。ボートは遂に堀割を通る事が出来なかつたのである。露艦の芋崎滞在は七ヶ月の長きに



及び幕府と露國官憲との談判にて漸く芋崎を引き拂つたといふ事であるが、此史實はあまり世間に傳へられてゐない。

龜阪から見さぐれば左に芋崎の鼻も見える。右に大船越の堀割口も見える。その中ほどに海に添うて漁村らしいのがあり、赤煉瓦の煙突が只一つ立つてゐるのが、その昔、要港部として花やかであつた竹敷である。今は煙突一つが、かたみに残されてある。自動車を通ずるまま竹敷の要港都のあととたづねて見たが、今は戸數四五十ばかりの寒村にすぎない。このあたり廓のあとといふところも、枇杷畠となり丈にあまつてのびてゐる。

嚴原はじめ、元寇のあとなど語りつぐべき史蹟も少くないが、それはその地を踏んで感慨にふけるがよい。ここには極めて手近い關釜間の道筋に一日の行程にても足りる對馬がある、秋の旅のよすがにもと……。

(オール讀物、十四年十一月號)

## 和 漂

對馬の嚴原に舊藩侯宗家の菩提寺である萬松院といふお寺が舊城趾につづいた山のふところにある。

お寺の寶物といふので見せて貰つたのは小僧筆の漁樵問答と狩野常信筆の東照宮像の二幅であつた。漁樵問答の船なる漁人の顔はすつかりすりはげてしまつてる。傳ふらくお寺の小僧さんは毎晩漁樵の問答がやかましく耳について睡られない。それで漁人の顔をすり潰したのだといふ、吃の又平の傳説など思ひ合はされて、有りさうな言ひ傳へになつてるものと聞き流した。

常信の東照宮像の上に天海僧正の贊がある。徳川時代のお大名の家には常信の東照宮像は珍らしくないだらうが、天海僧正の贊のあるのは當寺だけであるといふ。何んでさうした破格のお取扱ひになつたのかとたづねたら、朝鮮からの遣ひがここまで見えると、此お像の前に拜禮する事になつてゐる、まあ調見式とでもいふのである、宗家の遣ひが對岸に渡つた時も先方から同じや



うな形式をとらされたさうである。式禮はそればかりでない、徳川歴代の御位牌にも拜禮した。だから破格の立派な大きな位牌の厨子が揃つてますといふ。いかさま御堂の右手の一間は位牌堂になつてゐる。位牌を納めた縦三尺有餘もあらうか黒塗金かな具つきの厨子がずらりと十五ばかりならんでゐる。

それから此のお寺の桐の紋の講釋とか、宗家は諸大名の中でも客分ともいはいはうか破格の取扱ひになつてるとか、いろいろとお國自慢のひとくさり二くさりがあつて一行お寺をあとにする。

その夜歓迎會の待合室であつたか、それともその前の講演會のたまりの部屋であつたか、萬松院のお坊さんの話から枝葉が咲いて國々のお國自慢話がつづいたが、何よりもおもしろくうれしく聞いたのは和漂談であつた。

對馬へは朝鮮からよく漂流民が着く、之を鮮漂といつたか、韓漂といつたか、いづれにしても支那の錢票や内地の干瓢と語呂がつづかるやうだが、とにかく朝鮮人の漂流民といふのに釣合？をとつて内地から對馬へ漂流した、いま漂流でなくとも内地から對馬住居になつた人たち、商人もあらう漁民もあらう、學校の先生もあらう、役場の役人もあらう、とにかく地方のものでない内地から見えた連中を對馬の土地の人々は、アアありや和漂だといつたものださうである。無論和漂といふ詞も今日此頃になつてはすたれてしまつてるとの事である。それで僕は今のう

ちに聞いておいてよかつた。遠くないうちに九州から壹岐對馬を経て朝鮮へ海底トンネル地下鐵道がかかるだらうが、その頃にはさうした言ひ傳へさへ忘れられるだらうと、土地の人々に言つたものである。

(モダン日本、十四年十一月號)

一、年末年始の生活刷新案？

二、興亞奉公日を如何にお過しか？

一、遺言を新につくるなり、又補筆される事をのぞみます。ひ  
しておのれに精神方面物質方面に通じての生活刷新が生れて來  
ます。

(厚生日本)



對馬の歌

海しづか長く引きたる丘の灯の

灯影水の面にこまかにゆるる

むらだてる岩山と云へばよけれども

どれもこれもさざえを伏せし如き山

村らしきが三つ四つはあれど此島は

海に迫りてむらだつ岩山

數知れぬ池散らばれりと見えてあれど

みなつながれる浅海湾はこれ

國分けの長き入江に舟は見えす

秋の日浴びてしづかにねむる

對州竹敷

枇杷畠ふかふか茂るこのあたり

軒をならべし廓町のあと

竹敷のみなとしづかに秋ふかし

秋晴れの海に小さき舟一つ

要港部のかたみにのこる赤煉瓦の

煙突一つ草むらに立てり



壹岐の歌

蘆邊港

星低き海一めんにいさり火の

またたく中を船壹岐に入る

五百噸の船の汽笛は眞夜中の

港一ばいに鳴りどよもせり

いりこ干すむしろの間まを我車

海に沿ひつつしづかに通る

壹岐島めぐり

平らけく狭しと聞きし壹岐の島

道は七曲り丘越え谷越え

自動車を振り向き振り向き同じむきに

うろたへうろたへ小牛ははしる

元寇の話はつきねど我車

半日にして島廻りせり

住吉神社

鉾杉のむら立つところ楠の木

しみ生えるところ大神まします



壹岐第一の高山海拔六百尺

一氣に登ればさすがに汗ばむも

無帽でゴルフ

私は瘦形である、夏は苦にならず、どうかといへば歓迎気味である。だから鍛錬法などと仰山らしく考へる氣になれない、暑いから薄着にもなる、冷たいものも口にしたい、しかしカンカン照りつけてる炎天に干される氣分も悪くは無い。私はゴルフをやる、炎天下のゴルフには帽子をかぶり、傘をさしてゐる人もあるが、私は傘は絶対にささない、帽子も無帽主義を一貫してゐる。ダクダクと汗の湧くのが悪くはない、さうした時に飲む水は猶悪くない。

一口にいへば消極的に暑さを避けるより、積極的に活動して思ひ切り汗かく方が適してるかと思ふ。

(旅)

白鬚明神

一 高麗の郡

この夏は三十年來の宿願である南洋へ旅立つ心づもりであつたが、三日にあげず物價委員會がいまだに引つづき開かれてゐるので、東京へ釘付けになつてしまふ。地方の夏季講演へといふ招きがあつても一々斷りをしてゐたが、たまたま秩父の町よりの申込は二つ返事で引うけた。

秩父ならば日がへりもできる、秩父はまだ足を踏まない町であり、さらに程遠からぬ三つ峯はケーブルもかかつてゐるから序でといつては失禮だが登山もらくである。さらに秩父への道すがらかねて志してゐる高麗こまの里へ立ちよる事ができるからであつた。

池袋から武蔵野鐵道は所澤をあとに、飯能をすぎ秩父連山の山ふところ吾野あがのに下車、それからバスで三時間足らず正丸峠を越えたと秩父の町にくだる。その飯能に遠からずそこに高麗川が流れ、高麗村があり高麗神社があり、高麗山勝樂寺がある。今は入間郡に併合されてあるが、高麗



高麗川の二村を中心に東西八里南北三里にわたる村々は高麗人安住の地であり、明治二十九年まで高麗郡と名乗つてゐた土地である。

## 二 高麗の歸化民

我等大和民族の祖先は原住のアイヌ族もあつた、黒潮にのつて來た南洋方面の民族もあつた、支那本土からもシベリア滿洲沿海州方面からもさらに朝鮮に至りては任那、高麗、百濟、新羅の各地から少からぬ移民が相ついで皈化されたのである。

その中で高麗國の黄金時代は滿洲南部から朝鮮の北部西部を包含し平壤に都して新羅百濟にまで迫つた。我國へは仁徳天皇の朝から高麗人の皈化が傳へられ、欽明天皇の末期頃から高麗は唐と新羅の挾撃をうけ、爲に我朝との往來も繁くなり、推古の朝には僧慧慈曇徴をはじめ聖徳太子の師となりし惠灌等が來朝してゐる。

天智天皇の朝に高麗は亡され、天武天皇の朝にいたりて皈化人多くなり持統天皇の靈龜二年には武藏國に高麗郡を設け、これまでに、駿河、甲斐、相模、上總、下總、常陸、下野等に散在したる高麗の皈化人千七百九十九人を收容したと傳へられてゐる。

近畿を中心として朝鮮の皈化民の多いのは當然すぎるが、關東方面にも皈化民が散在された。

甲斐の巨麻郡あり近くは相模の大磯の高麗山高來神社あり、高野郡は高麗郡の轉訛なりと傳へられてゐる。こんな事を書き立てると際限が無いから此邊でやめにする。

## 三 高麗神社と勝樂寺

高麗神社は高麗王若光を祭神としてある。蕃神といふので式内社には入れられないが、延喜以前の古い官居である。若光は祖國では王族の一人であり、我朝にても從五位下を賜り特に王の姓……王の字はコシキとよむ……を許され高麗郡の郡司に任ぜられた。若光も遠く異郷の下に同族を率ゐ、高麗再興の念止みがたきものがあつたらうが、故國回復の望みも絶え、終に此地の土となつた。同族諸方より參集門前にひさまづきて慟哭涕泣止まず祭神と仰ぎて高麗明神高麗大官などと稱へながら、若光は晩年びん髪眞白であつたので白髭明神ともいつたと傳へられてゐる。向島の白髭神社が同系であつて、武藏の國內には五十有餘の類社が數へられるとの事である。

大磯の高來神社も若光を祭つてある。若光は海より相模に上陸し大磯に居をかまへ、それから高麗郡に移つてゐる。高麗神社は今猿田彦命武内宿禰の二柱を合祀し縣社となり、さらに朝鮮に縁故ある人々相計りて資金をつのり、木の香新しき社殿が築かれまさに落成されんとしつつある。高麗神社に程近く、杉生茂れる中に高麗山勝樂寺がある、若光の墓は山門の右なる池のほとりに



ある。昔は神佛混合であつたから若光の子孫は官の別當と勝樂寺の住職を兼てゐた。若光の後はその姓が高麗より大官司、多門房、……此頃に新田義興の招きに應じ各地に轉戦してゐる……清乘院、官本院、梅本坊、を経て又高麗となり、現社司高麗明津氏は五十八世の孫となつてゐる。

#### 四 高麗歸化民の後

先づこれだけの豫備知識で東京から十二里高麗驛から十餘町なる高麗人の遺跡を、所澤なり村山池なり飯能よりの道すがら、一日の行樂をかねて歩をまげられん事を皆様におすすめる。

今や日鮮併合されて一つとなり、次で日滿一如が唱へられ、さらに日滿支を通ずる東亞の建設の聲さへ高まつてゐる。今日も今日とて拓務大臣官邸に於て滿洲開拓民審議會特別委員會が開かれ、委員諸君の熱論は午前八時から午後の五時に及び、さらに近く第二次會を開く事になつた。觀じ來れば高麗村の探勝には、そこに數々の示唆もあり感想がそれからそれがはれる。讀者諸君も又探勝さるる人たちも、先づおのれたちの姓に一應ふりかへつて見るがよい。

栗田寛博士の氏族考によれば、高麗人の後が四十四姓となつてゐる。重なるものは

高麗王の後 高麗 高倉 難波 三宅 鳥井 吉井 宮原 津 白河 安達 高井 狛 豊原  
高 御船

高麗人の後

御笠 新城 出水 清原 朝日 鳥野 高里 高井 日置 八坂 田河 松川

高田 高安 高島 葉原 三木 須々岐 豊岡 篠井 玉井

などがある。かうした姓の人々は皆高麗人の後なりとかぎられるわけでも無からうが、高麗人から出た氏名にはこれこれがあるといふのである。但し之は高麗の皈化民の氏だけである。別に任那、百濟、新羅の歸化民があるのである。(一四、八、一八、朝風莊) (モダン日本、十四年十一月號)

#### 創氏改名

朝鮮臺灣で内地式に創氏改名が認められる事となつた。さうしたくさぐさの記事の中から

全教團を擧げて東本願寺へ轉宗した朝鮮の舊彌陀教本部(現在大谷派興龍寺)所在地の一半島人警察官から「氏の決定は實に重大にして輕々に決定すべきでないから御佛の御下に於て自分の姓を附けて頂きたい」といふ感激的な願書が東本願寺に到着、半島に於ける氏制度確立に伴ふ民事令改正の床しい話題を提供した、願ひ出たのは安さんといふ警察官で、今回朝鮮民事令の改正により半島人に内地式の氏を設定し得る事となり、内鮮一體同祖同血の昔にかへる事になつたのを機會に、東本願寺に氏名を附けてほしいと家族十六名の名と生年月日を記して願ひ出たもので、本山教學課では之れに對し近く適當な回答をすることになつてゐる。



## 目黒の不動

雲州松江に開かれた關西醫師大會の講演をすませて五月二十二日の朝玉造温泉保養館を立つ。米子にて岡山行き列車に、新見にて津山經由姫路行きの列車に乗り換へ、東海道線の夜行列車に搭すればあくる朝は身は東都にかへる。

この日は將來發達の見込なき老ゴルフアースの集りである錦華會……金曜日と火曜日に相寄るを例とする金火會を錦華會ともちつてあるが、いづれかといへば餘命日に短い仲間である、錦華でなくて近火で御座るとシヤレノメしてゐる會合である……が駒澤のゴルフリンクスにて開かれる事になつてゐる。

いつもいつも御無沙汰つづきであつた駒澤は、田園調布から眼と鼻の間にあり、ことにその夜は目黒不動前なる角伊勢にて食事をとる事になつてゐるので、久々に老朋友と相ブレイすべくいや相語るべく駒澤へ出かける。

僕の錦華會參加の御目當てには目黒不動がある。といふのはこの不動さんにはかれこれ半世紀も御無沙汰をしてゐる。その昔中學生時代の事である、明治二十三年憲法發布のまだ前頃であらう、靴であつたか朴齒の下駄か、それとも草鞋ばきであつたか、そのへんはよくは覚えてゐない。とにかく目黒不動様參詣と號して遠足氣分に栗めしを喰ひに出かけたものである。

目黒の行人坂から見渡すかぎりは田園である、ところどころに雑木林がある竹むらがある。わら葺きに百姓屋が、點々散らばつてゐる。一ところこんもりと茂つてゐる森が目黒の不動様である。坂を下りて左に折れ小川にそうたりと思ふ、數町にして右手に竹藪がつづく、甘藷先生の墓入口といふ小さき石しるべが立つてゐる。藪の下道をだらだらと登ると、右の丘の上にささやかな先生の墓がポツンとさびしく立つてゐた。

不動さまに近くなるとさすがに瓦屋根わら屋根がゴチャゴチャしてゐる。不動前にはお茶屋がならんでゐる、角伊勢と大黒屋といふのが記憶に淡く残されてゐる。白井權八小紫の比翼塚は角伊勢の私有地の構への中にあるので、角伊勢のお茶屋に休まないと思つて貰へなかつたやうにうろ覚えしてゐる。

不動様は不動の姿勢でいついまでも昔のままにあらせられるべきだが、あの角伊勢にして未だに残つてゐるのは、僕にはとうの昔亡くなつたと思ひ込んでゐた、古い古い小學校の友達にで



もめぐりあふやうな心持ちがする。竹藪つづきであつた甘諸先生の墓、そのあたりも今はどうなつてゐる事やら、居を田園調布に移してからは目蒲電鐵で「不動前」といふ停留場を何度となく素通りしてゐる、どうか息の通つてゐるうちに半世紀振りの思ひ出にふけて見たい、さうした心持ちで駒澤のリンクスもワンラウンドで打ち止めにし、電車で「不動前」までやつて来た。

不動前必ずしも不動前ならずかなりに遠い、まだかまだかと思つたからかも知れない、左に右に五六町は歩いたやうに思ふ、心あての不動前に来た、昔馴染の角伊勢を通りすぎて不動様の境内に入る。左手に甘諸先生の大きな碑があるが之れは始めてお目にかかるやうな気がする。右手に築地活版所の故野村宗十郎翁の銅像も出来てゐる、ぶらりぶらりとうろついてゐると、うしろから水谷叔彦、佐竹義文の兩近火老人が見える、いづれもかれこれ半世紀ぶりになるといふ、その頃に見た不動の瀧は今見るととても小さい短い低いなあとといふ、さうださうだと相槌を打つ。

本堂から右にそれて甘諸先生の墓へのしるべがある。不動公園を右に二丁ばかりで先生の墓が見える。なんだか墓も大きくなつたやうである。石垣に囲まれて中には塔婆など林立してゐる、その昔とちがつてとても景氣が好い。竹藪などはもはや全く姿を消してしまつてゐる、何んにしてもうしろには環状道路が見え、前はアパートに面してゐる。昔の面影は見る影もなくなつてゐる。

その昔し藪の下道草分けて

丘のへに見いでし甘諸先生の墓

今はしも環状道路をうしろにし

アパートに面した甘諸先生の墓

角伊勢のお茶屋は不動前の町角になつてゐる、前が開け放して床几がならび、のれんの手拭が、風のまにまにひらひらしてゐたやうに覺えるが、今は格子窓になつてゐる。大分變つてゐるから女中さんに聞いて見るが分らない、いや分らうはずが無い、奥の間にチョコナンと坐つてゐるお婆さんに聞いて見ると、火事で焼けたといふ事であるが、それから建て直した家が既に古色蒼然としてゐる。それにしてもよく角伊勢は持ちつづけてきたものかなと感歎すると、近頃はこのあたりも小意氣なクォーターになつてゐる、御神燈をつるした置屋もある小料理屋もある待合もあるとの事、さういへば先程本堂で島田髷がお賽銭箱の前に三人ならんでゐた。



## 阿彌陀ヶ峰と靈山

### 上 阿彌陀ヶ峰

雲州松江に開かれる關西醫師大會の特別講演に臨むべく京都に下車。夜行までの京洛の一日は東山の墓詣でときめる。

空はどんよりと薄曇り、京の街は朧に霞んでゐる。東山七條博物館の東に電車道をへだてて、眞言新義派の總本山智積院と、天台座主三院の一なる妙法院との間に豊公廟道しるべの大きな石標が建てられてある。いつも電車やバスやカーの中から此石標をながめ、一度は參詣をと心づもりつつそこにはや幾十年の歳月が流れた事やら。

道筋の右手に新日吉神社がある。お詣りして境内を抜け、又參道に出る。三四丁にして一の鳥居があり、さらに三四丁にして二の鳥居がある。此あたりが、その昔莊嚴を極めた豊公廟のあとらしい。正面には阿彌陀ヶ峰は鳥居越しに聳えてる。初夏の東山は青葉に匂ひ、色濃きは松に杉、

淡きは櫻に楓、萌黄に燃えてるのは椎の木らしい。

拜殿をさぐれば一直線に石階が頂上につづいてる。櫻楓のさしちがへたる下枝のもとを一段一段と五百六十餘階、登りつめると頂上に高さ三丈一尺八寸といふ五輪の大石塔がある。明治三十年頃黒田蜂須賀など舊大名だちが豊國會を起し、此石塔が建立されたと案内記に記されてある。

京の街にはお登りさんが蟻の如く右往左往に眼まぐるしく動いてる。しかし此阿彌陀ヶ峰には登りにも降りにも人一人に出遇はない。太閤さんに人氣がないのか、左にあらず、七八町は入り込んで、さて石階が六百階近いので時間もかかる、年寄りや女子供の足弱連には一寸よりつけない、さて頂上に登りつめる。五輪の塔があるだけで、腰をかける茶屋もない、腰かけもない。さて腰をかけて見ても四方を圍む樹々に視野は妨げられ眺望が無い。それやこれやで尤も人氣あるべき太閤さんのお墓には、存外參詣人がよりつかないのぢやないかと思ふ。

樹々の間から京の街をすき見しても、とんと見當がつかない。お墓のまはりを何邊廻つても、何んの變哲もない。僕は墓前に立ちて朝鮮併合以來滿洲事變、さては日支事變につき、黙禱しつつ極めて簡明に言上して引下つた。我亡き骸は阿彌陀ヶ峰の頂上へと遺言された太閤さんは今どうした心持で此頂上に眠られてる事やら。太閤さんもかう樹木が茂つてゐてはうつたうしい、見晴しの好いやうにしてくれたならばなどと思つて居られるのでは無からうか。



清閑寺街道に出て右に仰げば、阿彌陀ヶ峰は青葉に匂つてる。清水寺の墓地から清水寺へ抜け  
る。御寺の舞臺高欄によれば、阿彌陀ヶ峰は眼の前に浮んでる。靈山から高臺寺から八坂から、  
杉の穂末に、藁の上に、いづこからも阿彌陀ヶ峰は霞んで見える。

あの山を散髪にせよ五分刈にせよなどは申さぬが、山のとつべんのお皿のところだけ、ほん  
のわづかである剃つてあげたい。

初夏の若葉に匂ふ阿彌陀ヶ峰

そのてつべんに太閤さんはねむる

京の街は人織るが如しこの峰に

人一人あらず唯蟬の聲

濃きは松淡きは楓椎の花は

萌黄に燃えてたわわに盛り上る

樹の間すきて夏日に光れる藁見ゆ

しかと分らねど建仁寺らしき

太閤さまに申し上げたり朝鮮併合

滿洲事變支那事變など

## 下 靈 山

京洛靈山に登る。

そこには幕末より維新にかけての志士の墓が數知らず並んでる。寺田屋、河原町、蛤御門、さ  
ては生野十津川など、それからそれへとくさぐさの思ひ出が湧いてくる。

開國に鎖國に、尊王に佐幕に、主義の相異があり、主張の争ひがあり、そこに數知れぬ人た  
ちの命が失はれたのであつた。靈山の丘から見おろす京の街、そこには保元の亂があつた、平治の  
亂があつた。應仁の亂は十餘年にわたつた。堀川の夜討もあつた。本能寺の變もあつた。

文化が開け交通が発達すると、世の中のスケールは次第に大きくなるばかりである。もはや問



題は京洛壺中における源氏平家や、細川山名のいがみ合ひの時代ではなくなつた。開國鎖國の争ひなども昔日の一夢と化してしまつた。

今日は支那事變に直面してゐる、しかし國策はさらに遠く歐米の天地を相手としてゐる。明治の初年に征韓論で血を湧かしたる時代にくらべて、日本の國威の伸張は今更の如く感得される。さりとは世の中のスケールも廣く遠く大きくなつたものである。靈山の丘に立てば萬感の胸を打つものがある。今更に我國體の有りがたさを身にひしひしと感じつつ。

日射しうすき木の下じめりささやけき

奥なる墓は吉村寅太郎

星巖の墓に詣でて見いでたり

角石に刻める宮川長春の墓

内閣顧問木戸孝允と刻みあり

ここにしてはよけれ桂小五郎といふが

靈山の丘に立てば思ひ出は

はしる寺田屋蛤御門

數知れず墓はつらなる一ところに

中岡慎太郎坂本龍馬

幼き頃の思ひ出はややによみがへる

玉松操の墓にむかひて

妻は病み子は餓になくと吟じ馴れし

梅田雲濱の碑の前にぬかづく

眞木和泉平野國臣など若きころ

血を湧かしたる名が次から次へ

(短歌人、十四年八月號)



## 洛東靈山

### 一

松江に開かれた關西醫師大會に臨むべく東京をあとに朝まだき京都に下車する。山陰線の夜行まで、京洛の一日を阿彌陀ヶ峰から靈山へと、東山の御墓まわりにくらす。

清水から祇園へ横ぎる道すがら、八坂の塔を左に見て靈鷲山へだらだら登る細道がある。一町ばかりにして天誅組墓しるべの小石が見える。右のすぐ眼の下立木茂れる下枝のもとに、高さ五尺ばかりささやかな墓が下段に六基上段は二列に、前なるが九基……その中には松本謙三郎の墓もある、後列が六基、その右の隅に別格に、小さな石の鳥居を前にせる吉村寅太郎藤原重郷の墓があり、左に牧岡次郎と伴林六郎の招魂の碣がある。

天誅組は七卿長門落の直後、文久三年の夏吉村寅太郎、藤本鐵石、松本奎堂等侍從中山忠光を奉じて兵を大和十津川にあげた。十津川は我郷里紀州と境を接してゐたので、子供心に當時のく

さぐさの思ひ出が残つてるだけに、低徊去りがたきものがあつた。

### 二

さらに三町あまりにして、格式は總本山とかいふが靈鷲山の小さな假りの本堂があり、その左手の丘陵が一體に墓處になつてゐる。梁川星巖の墓、そのうしろに宮川長春の墓もある。このあたり丹念に一つ一つしらべてゆけば志士名士の墓は數限りないのであらう。御堂の横を左に二町ばかりにして元治元年七月の變に戦死せる入江九一緒方彌左衛門等十三名の甲子戦死の墓があり、木戸公の墓につづくそのうしろに伊藤公の詩碑がある、このあたりが一番高くこれから下手への丘陵は、幕末志士の墓により全山埋れてゐるといつてよい。

靈山志士墓處のもとに招魂社が新に建立され、安政の大獄、寺田屋の變、天誅組及生野銀山の義舉、池田屋事件、禁門の變、河原町の變等々に殉難せる志士の靈が祭られてゐる。木戸公の墓處を少し下ると、安積五郎等三十六名の碑につづいて浮田一蕙、玉松操の碑があり、さらに下ると甲子禁門の變に戦死せる久坂玄瑞、來島又兵衛、寺島忠三郎、入江九一等長州勤王烈士の墓域となり、石碑が四列であつたと思ふ、長々と林立し、その南のはづれには、中岡慎太郎、坂本龍馬及僕藤吉の墓が列をはなれて石垣に圍まれてゐる。



梅田雲濱の碑から木戸公の神道碑、それから招魂社の廣場となるが、國防婦人會や愛國婦人會のシルシをつけた婦人達、京洛見物の老若男女三々五々神前に參詣してゐるのが見える。この御山の墓どころにも十歩に一人二十歩に二三の人影を見かけられる。

### 三

靈山の墓所から京洛の街が見おろされる。そこにはかつて保元平治の亂もあつた、鴨川の水とサイコロと並べて意の如くならざるものとうたはれた山法師があつた。吉野朝の前後京師は屢々兵火の巷となつた、室町時代となり、山名細川兩黨の修羅場となり、京洛の地は灰燼の巷となつた。足利の末年から元龜、天正に至りては天下麻の如く亂れ、徳川に至り漸く平靜に歸したが、幕末となりてそこに開國と鎖國の意見が相分かれ、尊王と佐幕の主張が對抗する。元治元年の池田屋事件は長州に非常な衝動を興へ、七月砲火は蛤御門にあり禁門の變となつたが、それは長州對薩摩、會津の戦ひであつた。それから、土佐の中岡、坂本等の薩長聯合運動となつたのだが、その各藩の中にも又それぞれ意見主張の對立があり、勢力争ひがあつた。

明治維新となりても、猶改進保守の意見の開きがあり、熊本に神風連の亂があつた。征韓論から下野した西郷南洲を推し立てた西南の亂には、薩の健兒父子兄弟互に相戦つたのである。

幸ひに動きなき我國體はさうした幾多の波濤を越えて、國際の舞臺に最後に乗り出し、日本を世界最強國の最前線にまで躍進せしめた。もし尊い有りがたい國體がなかりしならば、日本は海外に雄飛する代りに、薩長土肥會桑の各藩とか、東北、關東、五畿、九州とか、さうした間の勢力の對峙により、骨肉相傷けて内に疲弊困憊を來たし、外は侮を招いたのでは無からうか。

### 四

水は停滞すれば汚れる腐る。民族には清新潑瀾たる意氣が無ければならぬ。

勅語に拜讀するに「日進以テ會通ノ運ニ乗ジ日新以テ更張ノ期ヲ啓ク」とある。そこに民族の絶えざる眼覺めがあり緊張があり、寸時も止まぬ向上進歩がある。しかし波瀾曲折は彼岸への筋道であるが、目的では無い。

古今東西の史乘のあとをたづねるまでもなく、遠く我國の歴史のあとをしのぶまでもなく、幕末から維新の當時をしのびても、洛東靈山の墓處に杖をひきても、吾等には教へられるところが多い。さうして今さらながら、我國體の有りがたさと我民族の進みて止まざる精神を今更の如くしみじみと感得する。



第二篇 時局漫語篇



## 新しき東亞建設の道

(十四年の「週刊朝日」新年號に筆にせしものなれど、十五年の新春に猶その見るところ異なるなきを覺えて)

### 一 地球は狭くなる

明治節の近衛首相の放送に

「支那の征服にあらずして協力にあり。相携へて東亞の天地を導かんとす」といひ、さらに

「獨伊諸國と共通の世界觀の下に世界秩序の再建に協力せん」といへるは、どうした事を意味するのか。ここに「新しい東亞の建設」といふ題目の下に、經

濟、外交、文化、政治の各方面につき號を透うて解説がつづけられる。その總論として述べるに當り、ここに歐洲大戰以來の世界の大勢から、新しい東亞の建設の意味、また何故に建設を必要



とするかを説明し、ついで話さるべき各論の根本觀念を明かにしたいと思ふ。

交通の開けない時代には、狭いところでそこにも戦ひがあつた。日本の島内にもかつて源平の戦ひもあれば、吉野朝、平安朝の戦ひもある。室町末期には、東北には伊達、關東には北條上杉、武田、東海には今川織田、浅井朝倉、中國には毛利、九州には少貳、大友、菊池、島津など、それぞれに相角逐したのである。

蒸氣と電氣の發明は世界を狭くし、もはや内亂時代はすぎ去りて國と國の間の戦争となり、それも一國と一國の戦より、數ヶ國間の間に擴大され、國際間の交通關係が密接となり政治經濟文化の利害が一層複雑となるに従ひ、戦争のスケールもますます廣くなるばかりで、ソ聯を除けば北米合衆國よりも狭く、しかもその間に三十近い大小の國々が織り交ぜられてゐる歐洲大陸では、その一角にのぼる兵火は、その全部を延焼せすにはおこななかつた。現にこの前の歐洲大戰には歐洲列國を始め世界列國の大部まで、交戦國として渦中に引き入れられてしまつたのである。

歐洲大戰の戦禍の如何に甚大であつたかといふ事は、戦費は金の相場で變つてゆくからここに數字をあげる事は略するが、人命の損失だけで、十九世紀の百年間にわたり幾百回の戦争を通じ戦死約四百五十萬人と稱せらるるに對し、四年半に一千萬人以上を算せるを以て想像されるのである。

## 二 不自然な巴里條約

この戦禍があまりに深刻なりしたため、將來の平和を確保し、一面禍根を除く意味で、少數民族の自決を認める、一面戦争豫防のために國際聯盟、國際裁判所などを設ける事になつた。しかし世界の國々の人口なり文化なり實力は時と共に絶えず盛衰消長あるべきにかかはらず、パリ條約を以て不自然な國境をでつち上げ、之を千古不變の鐵則の如く動けなくしたところに、無理があるのみならず、少數民族の自決といふ事が、たまたまより多くの禍根を新に植ゑつける事になつたのである。況んや少數民族の自決なるものは、英佛伊等の戦勝側に適用せず、ロシア獨逸等の側にのみ適用した事であり、さらに新に自立自決した狭い國內に、又同じ少數民族問題を自國內にくりかへす事になつたのである。

由來バルカンには東南アジアからのハンガリーとトルコの東洋人種と、東からブルガリア、チエツコ、セルビア、ポーランドのスラブ人種と、西南から移動したギリキ、ルーマニアのラチン人種と北から進出したオーストリー即ちゲルマン人種があり、その各人種の中には言語宗教地域等からそれぞれに分派もある。さらにユダヤ民族が至るところに散在してゐる。このバルカン諸民族に對してかつてはトルコが勢力をのばしたが後退する。オーストリアハンガリー帝國が覇



をとなへる事になりスラヴの民族運動を押しつける。その一端がボスニア外二州を自國領土の併合に現はれる。ここにセルビアの青年の塊皇太子の暗殺となり、それが歐洲大戰の導火線となつたのである。大戰後は獨逸の力を殺ぐ事に急に、また之に反抗する少數民族の猛運動になり、そこに極めて不自然な無理な國境が新につくり上げられ、そこに小さい店が開業する事になつた。そのため、ここに手も足も胴ももぎとられ頭ばかりになつたオーストリーの六百五十萬のドイツ人は同じ民族のドイツに合併される。舊獨逸から獨立したチェッコ國にも又數多い異民族がある。その中からズデーテンの三百五十萬人のドイツ人もドイツへ割讓される。さうなるとチェッコから十萬人足らずのポーランド人在住のテツシエン地方がポーランドに割かれるとき、そのポーランドには又數知れぬ民族がある。百萬のドイツ人もあるといふ事を忘れてはならない。ましてそのポーランドがバルチック海に顔を出すため、ドイツの本國と東プロシヤの間へ割り込んで帯の如き廊下をつくつてある。

### 三 プロック對立時代

同じ人種は互に手をつないでゆくといふ運動は見のがせない。同時に又その民族も數が少なくては齒が立たない。従つてムツソリーニは一等國たるべく少くとも六千萬人以上の人口を必要と

すと叫べるが如く、いづれの民族も一億近い人口を抱へなければならなくなつた。現に歐洲戰爭に勝ちし佛國が敗けたドイツに頭の上らぬのも根本は人口が少ないからである。此度チェッコの分割にもドイツのいひなりに盲従して、ここに佛國が第二等國に落ちたのも結局は人口が少ないからである。

今日は小さい國々少數民族のむれは國際間に立つてゆけなくなつたのである。そこで一人前になれない國々は互に聯合してゆくか或は一等國についてゆく外はないのである。現におのれの手足をもぎ取られたチェッコが、今までのソ聯と同盟の手を解いて新にドイツと結ばんとするのもその一つの現はれであり、ポーランドが今までソ聯や佛國と手を握つてゐたのがドイツへふりかへ、さらに近時又ソ聯と握手してドイツに背をむけて來たのも、チェッコの現狀を見て唇やぶれて齒が寒くなつたからであり、佛國ともあらうものが唯々諾々一にも二にも英國にブラ下つて來てるのも時よと時節である。

今日ではその一等國でも獨りあるきは骨が折れる、さらに手をつないでゆく。つまりプロック時代となり、そのプロック同士すら、さらに手をつながねばならなくなつて來た。

北米合衆國とソ聯こそその面積その人口は優に一等國として立つてゆける。英國もその屬領を併せると、散らばつてゐるのは難點であるが、世界に日没の地なき大國である。そこへ日本は東



亞に滿洲と一體をなすことになつたから、大體世界に四つのブロックが出来たのである。之れに對して歐大陸の二十有餘の國々が、北米合衆國より狭い面積の中に入り交つてゐる。ドン栗の背くらべをしてゐる。これではならぬといふのが、グラフ、クレルギーの汎歐洲運動であり、さらに



佛の故ブリアン氏の國際聯盟へ歐洲聯盟案を提出した理由である。現状では北米合衆國はモンロードクトリン……南北米の外へ手出

ししない、外からは手出しをさせない。……にかへるらしいが、さて汎米といつても南中米は南中米で一つのブロックをつくる、少くともさう米國の意のままにはならないといふ心持ちは、近頃のメキシコの油田問題でも分る。英國は佛國と手を組んだだけではベルリン・ローマ樞軸……之に東京も手をつないでゐる……に押され氣味である。結局同じ英語の民族北米合衆國と款を通じ、今まで英ブロック内のみ關稅を下げてゐたが、このほど米の農産物と英の工業品と交換の意味で關稅引下げの通商條約を結んだ。イギリスやチャールが米國にゆく、英皇帝同妃も米國を訪問される。そこで歐洲大陸でソ聯と英のブロックの間に立ち數多い國々が獨伊樞軸に對して、どう動いてゆくか。又獨伊の樞軸がますます結束強化されてゆくか。ソ聯や英佛からさされる水が利いてくるか。いづれにしても今日のやうな各國の間に人間も資源も互に開放されず、移住は出来ぬ、關稅は高める、爲替は統制する。これでは互に相近きもの相似たるもの、互にブロックを結成してかかる。そのブロック間の聯繫さへ促進されつつあるに不思議がない。

#### 四 東亞建設と西亞建設

我等は世界の地圖により大きな亞細亞洲を見いでる。統計により數多い黄色人種を見いでる。六億の白人種は十二億の有色人種を支配しつづけて來た。世界陸地の約十分の九近くまでは白人



の天地である。それもこれもすべては實力の問題である。ここに我等は相次いで目覺めつつある。その後進の國々その壓迫されし民族は、どうしても互に手を握つていかなばならぬ事はあまりに當然である。

なほ東亞建設と相ならんで西亞建設といふ事についても付言しておきたい。

回教徒は實に三億に上つてゐるが、その七割は歐勢力の下にある。イギリスの下に一億……その内八千萬人は印度にある……オランダには六千萬人、フランスの下に三千万人、ソ聯の下に二千五百萬人、等がその主なるものであるが、獨立せる回教國は

一千七百萬人のトルコ

一千二百萬人のイラン

一千万人のアフガン

四百萬人のアラビヤ

三百萬人のイラク

二百萬人のシリヤ

などで、アフリカには一千三百萬人のエジプトがある。かつて七八世紀のサラセン、十五、六世紀のオスマントルコはアフリカ、ヨーロッパ大陸まで風靡したものであつたが、爾來振はず衰頹

の一路をたどつてゐた。それが歐洲大戰に獨逸側に加はり領土の削減に遇つたが、これに反抗して兵をあげたケマル・パシアが、新興トルコ黎明の聲をアンゴラにあげてより、回教民族の眼覺めとなり、トルコ、イラン、アフガン、イラクの四ヶ國はここに東邦同盟なるブロックをつくり、アラビヤ、エジプトなどもこれに結びついてゐる。もとより東亞のブロックに比してその實力に於てはそこに相當のへだたりはあれど、回教の信仰によりて結ばれる連鎖にはまた他の企及を許さざるものがある。ここにそれらの詳細について述べる時はないが、等しく有色人種として移住の戸からしめ出されてゐる、東亞も西亞も地理の上からは新疆西藏を通じて相結ばれてゐる。まさしく東亞建設への道は大アジア建設の道に通じてゐる。

## 五 人と詞と心

以上述べたところで新しい東亞建設の意義がほぼ理解された事と思ふ。しかし私も終りに少しく總論をはなれて、二三付言さして貰ひたい。

その一つは移民問題である。人間は一度植ゑつけられると子々孫々と長く長くしかもその數を増してゆく。しかるに今までの日清日露兩役の犠牲に對しそのあとへつづくべき日本民族の進出が鈍かつた。僅かに南滿洲鐵道會社が生きたる記念として残されたにすぎない。それだけでも今



次の滿洲支那事變に南滿會社がいかにか効果をあげたか、それは實に想像以上である。いふまでもなく善後策は一に民族の進出である。従つて日本民族が滿支の風土に馴れその體位を維持向上し得るやといふ事に重大關心がある。もし滿支の天地に住み馴れ得ない民族ならば、今までの日本の國策は御破算にし、新規建直しをせねばならない事になる。

その二は人間の五體のさらに奥の心であるが、この心を捉へるべき宗教方面に至りては日本人の工作は殆どゼロといつてよい。滿支方面に出かける僧侶達も多くは在任日本人を相手に日本語で葬式をやつてただけである。これは根本から眼覺めて建直しをしなければならぬ。

その三は如上の缺點の素因に同種同文といひながら、支那語には無關心すぎるといふ事を忘れてならぬ。歐米語にはかなり時と金と力を入れてるが、隣國支那の語には疎遠になりすぎてる。互に毎日侮支となつてゐる。これは内地の學校教育から根本より建て直して行かねばならない。今日ではなまなか同じ漢字を使ふ。しかもその發音は全くちがふ、そこへ日本讀みには音あり訓ありアテヨミあり、同じ漢字の發音が千差萬別である。なまなか同文である事が却つて互ひに邪魔になつてるといつてもよい。支那語に親しむと共に日本の漢字の濫讀の整理が急務である。それは日本自體のためにも大切である。(一三、一二、一二、丸之内)

(週刊朝日、十四年新年號)

## アメリカへの放送

私は近く海外放送を試みる事になつて居る。カナダから北米合衆國の西海岸及び布哇方面にわたる我同胞への放送であるが、猶録音にして南洋から支那方面へも放送する事になつてゐる。題目は十四年の十一月の便りといふのだが、私は次のニュースを主題にして話すつもりである。

それは讀者の耳へも通じておきたいし、又逆に海外の同胞の心持ちを讀者にも知つてもらふすがに  
なると思ふからである。ここに海外の同胞への放送の腹案を御披露する。どうかその積りで讀んで貰ひ  
たい。

### 一 在歐同胞の故國を思ふ情

海外の同胞諸君はその身内地にある吾等より一層日本に對する關心が痛切である、深刻である。それは内地の甲から海外の乙へ出す書狀よりも、海外の乙から内地の甲へあてた便りの方が、い  
つもすつと多いのでも想像がつくのである。



五・一五事件次で二・二六事件の突發した後の話である。私の友人の一人が歐洲から大急ぎで歸朝した。どうした急用でもできたのかといふと、いや歸朝せねばならぬ用事は無いのだけれども、日本の國狀はいかにも氣にかかる、憂慮に堪へない、あの地では外人は今にも日本で革命が起るやうな噂をしてる。そんな馬鹿な事は有りやうが無いが、しかしとにかく、犬養總理がやられる、岡田總理は襲はれた、齋藤内府も、高橋是清さんも露と消えた、こりや一體どうなるのかと氣が氣でない。一體どんな様子かと思つてかへつて來たのだといふ。それなら歸つて見てどう感じたかたづねたら、何んだこんな事なら、さうヤキモキ氣をもんで歸つてくるのでは無かつたと云ふ事であつた。

## 二 在米同胞の故國を思ふ情

この程又私の友人が米國から歸つて來た。その友人の話には米國にある邦人の故國をしのび故國を思ひ故國を憂ふるの情は想像以上である。本當に心配してる、氣にかけてる。一生懸命になつてゐる。あの實情を見て、日本へかへつて見ると、少く共東京の景氣はよくいへば落ち付き拂つてるといふのでもあらうが、どうかといへばあまりに吞氣すぎるといつてもよい。何んだか米の邦人に對してすまないやうな感じがする。まあそれだけ日本も大きくなつた、強くなつた

といへばそれまでだがなあとといふ事であつた。

故國をはなれて故國をふりかへつて見ると、萬里の孤客であるから大分敏感にもなつてゐようが、しかし何よりも日本で起つたあらゆる事柄が歐米の新聞に寫し出される時、かなり日本の不利のやうに誇張され細工される。日本にとり不利益な色眼鏡で見られる。喬木風多し強者に對する反感は反日抗日の氣分により、日本にくし不都合なりとかなり濃く塗り立てられてもゐよう。それだけに外からみなさんが日本を見ると、吾等が見てゐると、その間の感じに大分かけ離れのあるといふ事は否みがたない。

## 三 明治神宮國民體育大會

そこで十一月便りとして私は大日本體育協會會長の縁を以て明治神宮國民體育大會の話を披露する。

明治神宮國民體育大會は、今年から厚生省の主催となり、秩父宮様を總裁に仰ぎ、その第十回を明治神宮外苑はじめ東京市内市外、……ヨット競技は横濱港で行はれた……各所で開かれた。内地はもとより臺灣、樺太、朝鮮より學生生徒を中心に各官公署、工場會社、青年團等々男女を通じて參加するもの、實に四萬人を越え、十月三十日より十一月三日まで五日間に亙り、その第



四日である十一月二日には長くも 天皇陛下親しく行幸遊ばされ、われらは二時間半にわたりて天覽の光榮に浴したのである。

今や時局に直面して體育の重大性は益々朝野の間に深く認識せられし事は厚生省の創設によりてもうなづかれるが、此大會が又その重要性を裏書した事は殿下の御訓示を見ても知らるる如くであり、此大會のいかに盛大であつたかといふ事が如實に立證してゐるところである。皆さんは日本から郵送される新聞紙上なり又グラフィックなりで、せめても大會の状況を見られて、いかに新興日本の清新なる意氣の盛んなるかを心強く認識してほしいと思ひます。

#### 四 國際スポーツ親善

序でながら無言の國民使節、眞に飾り氣のない明朗な國際親善の使徒である我スポーツ選手達は、今次の歐洲大戰直前まで歐洲を巡遊してゐました。又極東では丁度歐洲大戰の宣戰されし時、滿洲國首都新京にて日滿華交驩競技大會の第一回は總理大臣張景惠總裁の下に花々しく開會され、次で奉天に、さらに朝鮮京城にても開催されました。北支の青年たちはさらに新興滿洲國又日本に合併されし後の朝鮮の實情を見、互に交情を温め理解をすすめる新東亞の親善の上にも少からぬ効果をあげました。

又日本へは此程レスリングでは比律賓及び濠洲の選手——此中には全英選手權の選手ガラード及びトレヴァスキも見えました——又昨今はユーゴスラヴィアのブンチエツク及クエヴィツチの兩庭球選手を迎へて仕合がつづいてゐる。さらに米國サンノゼ大學の選手を迎へて日米學生對抗拳闘競技も開始される事になつてゐます。

#### 五 人的資源物的資源不足憂

かやうなニュースをお話するのは日本の人的資源は綽々として餘裕ありといふ事を事實によりて立證する爲めであります。皆様はそんな事は萬々御承知かと存じますが、その土地の人々への話の種にしていたきたいからであります。此春比律賓へ日本からレスリング、ボクシング、バスケットボール及びゴルフの選手連が出かけた時に、先方ではびつくりした。といふのは日本は支那との戦が長引くので、老人や婦人や子供ばかりになつてゐる。若い男は皆戰場へ出かけてると計り信じ切つてゐたからといふ事でした。隣國の比律賓猶然かり、少々馬鹿念のやうですが故國に於ける士氣の旺盛である事を裏書する爲め申上げる次第であります。

物的資源とても近頃は朝鮮が大旱ばつの爲め産米の減收一千萬石といふ事は事實です。しかしさう心配するに當りませぬ、第一次歐洲大戰では食糧攻めとなり、ロシアで二百萬人とかドイツ



で八十萬人とか餓死者を出したといふ。又第一次にも現在の第二次にも、食糧は交戦國ばかりでなく切符制になつてますが、日本は有りがたい事にはまだ切符制にならずにすんでゐます。又一人の餓死者とて出す事ではありません。というて決して私共はノンキに調子をおろしてはゐません。又おろしてはならないのであります。折角長期抗戦に善處すべく努力をつづけてゐます。どうか皆様も此上とも母國の爲め有形に無形に直接に間接に御心添へのほどを願ひ上げます。

くりかへして申します、以上は在米の同胞への十四年十一月便りの放送の要領であります。

(二四、二一、六、海運日本)

#### 日支民族會議に對する諸家の意見

近きもの相似たるものは、長い間遠く且つ相異なるものから枷をはめられてゐた。

我等はさうした枷から脱れるべく、徹底的な協心協力を必要とする。

#### 曹達水

あのガスソーダ水は高級の喫茶店にをりをりに見うけられる。東京と大阪それに、僅ながら京都名古屋にもある。その他では見當らない。さうした喫茶店でかれこれ合して六千本位になるさうだが一疋に税金四圓五十錢之に一圓五十錢増しで此度六圓になるとかいふのだが、一疋約二斗は二百杯のソーダ水になる、コボレなどがあるから正味百八十杯になる。さすれば税金は一杯三錢となる勘定である。この中味はガスだから尻のやうなものである、オロシ一打いくら小賣なにかしと底を割つてしまふと他愛がなさすぎるからわざと筆にすることを差し控へるが、とにかくこれが一杯十五錢二十錢に賣れるからポロイとかどうとかいふのではない、今にかうした曹達水が日本の土地から姿を消してしまふといふ事である。

\*

二百ポンドのガスをつめる家は十二軒あるが、このタンクはまだ舶來を待たねばならぬ事にな



つて。このタンク一本の價格約九十圓、さうした値段が高い安いと云ふのでは無い、此タンクの使用期限は約二十年、しかも二年に一度は修繕を要する、その一回分の修繕費が十五圓で、これが十五回くりかへされる事になる。

そこで現品はといふとそれぞれもう相當の年限を経てゐるから、外來品輸入の禁止さるる限り、ここ六七年も立つとその姿は日本の土地から消すことになるといふのである。

\*

ガスソーダ水の愛好者も品切れとなりては益々渴を増すことにならうが、溜め飲みといふ事も出来るでは無し、さりとして又全部種切れとなる前には平和も克復、輸入禁止解除にならぬとは限られない。さすれば先づタンクの壽命のつづく間に飲めるだけ飲んで氣持ちのよいゲツプでも連發して胸をすかしたい人は自由にすかして見るまでである。

僕をして云はしむれば、日本の工業も随分發達してゐるのにどうしてあのタンクの國産位が日本で出来ないかといふ事である。いやさう不思議がるに及ばないのかは知らないが……。

(博覧沙、十四年五月號)

## 木炭と風呂

今やあらゆる物の需要がかさみ供給は之に伴はない。とかくに物價は上り氣味である。

その中にも農産物は一年に一作とか、或は數年を重ねなければならぬから一層供給に限りがある。そこへ地方から現地外地はもとより都會地へもかなり働き盛りの手合ひが進出して行く離村してゆく、それだけ勞力が不足する。そこへ時局に直面して需要は激増する。外からの輸入は止まつて、それだけに増産計畫を立てねばならない。

木炭を例にとつても内地の一年の消費があらづかみ約七千萬貫。そこへ時局により工業用に五千萬貫家庭用などにも五千萬貫、さらにガソリンの御身代りの木炭自動車にもかなり使はれる。かかる事態の下にありては、山元では伐木する炭に焼く荷造りする運搬する、この勞銀なり雜費なりが在來のまま据置きでは、増産どころか在來だけの供給がとても覺束ない。



それなら鮮満からは無理な注文だらうが、南方臺灣から移入したらどうかとも考へられるが、鮮満へは内地の方から松杉材など移出されてゐる。朝鮮への移出は八十萬石、臺灣へは百九十萬石價格にして一千九百萬圓ほど移出される。

いかさま臺灣には日光に恵まれてるから木材は多い、檜材などは内地へ毎年十五萬石位移入される。しかし臺灣の木材の蓄積は針葉樹に對し闊葉樹が倍額位になる。松杉材などは昔から臺灣へ移出される、ところへ近來は臺灣に工場がどしどし建つ鑛山などにも用木が多い、島民の家屋も土塊から木材にうつりつつある。だから内地ばかりか對岸福州からも杉材は三十萬石輸入されてゐた。その福州材は止まる内地材も移入の品がうんと狭まる。だから臺灣から内地へなどは夢のやうな話となるのである。

それなら結局内地の木材はどうなるのか、どうせねばならないのか。

工業材も木炭自動車材もさうした方面の供給に不自由させてはならない。というてかまはず木材の市價をせり上げては大變である。というて品不足となれば結局は闇相場になりやすい。落ちるところは需要をへらす一方である、家庭などの消費減である。

日本のやうに海外諸國に比して建築用と燃料用の爲め木材をふんだんに使ふところは無い。木

炭のいかに不經濟なるかは今更講釋するにも當らないかも知れぬが、燃料としての木材は重量の十分の八は煙りになつてしまふ、同じ重量の石炭と木材をくらべたら石炭は薪炭の十倍の熱を出す。木材の濫費はあまりにも勿體ない冥加につきる。その木材浪費の爲め外國から千萬石近い木材まで輸入したものである。

そこで我々は燃料特に木材の消費節約といふ事が考へさせられる。此重大時局こそ我等の木材消費の生活改善斷行のチャンスである。それには風呂の節約といふ事もあらう、無論風呂の燃料は木材に限らないが、兎に角燃料の節約といふ事も一つの方便である。

東京市二千八百軒の中で六百三十三軒の風呂屋は朝湯をわかしてゐたが、五月の末でやめる事になつた。爲めに一年に十八萬俵二十五萬圓の節約になるとある。

由來日本人は風呂には入りたがる。それにくらべて支那人は風呂には入らなすぎる。

大陸視察談としての挿話に、或る便衣隊を取りしらべてゐた時、あまり不潔だから一つ風呂に入れてやらうとしたら、その一人は首を吊つて死んでしまつた。

殺されるものと早合點したからだといふ。それは又どうした事かといふと、支那人は産湯と結婚の時と死んだ時の湯棺の時の外はめつたに風呂には入らない、だからこの世の暇乞に風呂に入



れて殺されるものと早合點したのだといふ。

何も一生に風呂は三度と限るには及ばないが、日風呂は隔日にする、隔日は二日おきに三日おきにと、その度数をへらして可なりである。

僕は近頃東京の郊外に至るところ、立木のバタバタ伐り倒されつつあるを見て、一面に風呂の節約を思ふ、一面には木材濫伐に伴ふ水害とあの山火事の頻發を思ふ。

せめては機會ある毎に場處がある毎に、苗木を萬遍なく植ゑつけてほしいと思つてゐる。

(一四、六、二、朝風社モダン日本)

世の中は廣い、二本三本のマッチを一つにしてする。リンのついでる方に火がうつり、一箱ファイにし序でに火傷する國民もある。さうかと  
思へば一本一本すつてしまった軸木を元の箱に納めて道路などへ取り散らかさないやうにし、序でにタキツケのたしにする國民もある。

## 醤油問答

### 一 醤油の樽代

B 醤油屋は困つてますよ。小麦の値段があがる、工賃はあがる、樽代瓶代があがる。このままでは持ち切れないといふので……

A さうだらうよ、戦地行きの明き瓶や明き樽の戻りが少い、そこへ木材の値上りも大きいからな。

A 一袋四十錢位で印度からきた砂糖のガンニュー袋が止まつてしまつてる、古い袋でも一圓の呼聲を聞くやうになつた。だから代用品に近頃紙袋もできて来たが、醤油ではまさか紙袋といふわけにもいかないし……。

B あの樽がもともと大分立派すぎる仰山すぎる念が入りすぎるといふ事ですが……。

A 樽代が生産原價の三割も占めてる、容器代と原料費とそれへ製造費プラスの營業費で丁度



生産費が三分してゐるのだからね。

B もちろんあの大きなタガや頑丈さうな樽の見ばが値をもち上げてゐるのでせう。

A さうした氣味もあるが、さてあのタガの竹を細くしたり、樽板を薄目にするとう度はシマリがゆるくなる。そこへ古樽といつても一度きりで不用になるわけでない。古樽も六度位は出直して使はれてゐる。一年に三千萬樽の中で新規の分は五百萬樽位だといつてゐるから、一がい高い高いとばかりはいへない。そこへ近頃はビン詰めが段々はやり出してね。

## 二 醬油のビン詰

B ビン詰の方が衛生的にたしかなやうな氣がしますな。

A 龜甲萬や山サなどでも半分位はビン詰になつてゐるらしいね。

B あの明きビンを一々醸造元まではこんでゆく、そこで醬油をつめてから又逆戻りするこの手數だけでも相當なものですな。

A 同感だよ。醸造元は下總の野田や銚子とか、伊豫の西條とか播磨の龍野たつのとか瀬戸内海の小豆島どよとか、いづれも消費地帯から相當はなれてゐる。だから京阪神とか京濱あたりへ出張つて、そこで明きビンへつめるのがよいと思ふのは、素人考へでは無理もないが……。

B いけないですか？

A さてしらべて見るとどうもむづかしいやうだね。といふのは四十石も仕込んであるあの大きな桶をそのままでは運んで來れない。

B モチですよ。

A だから都會地であつて見るとどうもむづかしいやうだね。といふのは四十石も仕込んであるあの大きな桶をそのままでは運んで來れない。

B なるほど……。

A その數知れぬ四斗樽を送る又戻す、この手數や運賃は生やさしいもので無い。

B 大きに……。

A そこへ四斗樽につめる時には又一々消毒せねばならない。ビン詰にする時にも再度消毒せねばならない。消毒の手數が倍になる。

B なるほどね……しかし小賣店でもビン詰にする事がありますよ、あれは消毒してゐるのでせう？

A そんな手數は小賣店ではできない。大體小賣店では、白米小賣店の店先に一等米二等米とならべてあるやうに、銘柄別でなく値段付で等級を分けて賣り出してゐる。全國で醬油の銘柄は



一萬種にもならうといふのだから、それぞれにしかるべくまぜてな……。

B さうした賣り方もあるが、今の商標付の分をビン詰にもしてますよ。

A それは間もなく使用されるから消毒しなくてもあまり問題にならないのだよ。だから古くなるカビが生える、吾々の若い頃は醤油はカビの生えるものときめてゐたね。

B なるほど、さうでしたな……。

A だから業者も此際値段をあげるより、費用を節約するやうに相當苦勞はしてるが、中々簡単にはいかない……。

### 三 仕入れの思惑買ひあふり

B というてこのままではいけない……。

A そこで第一に考へられる事は銘柄の單純化規格の統制だね。

B といふと？

A 何分大小とりまぜ八千餘の醸造家それぞれの銘柄をもつてから品種別が多すぎて混雜する、手数はますますばかりである。だから品質より大體五六の階級に整理してしまふ。現に織物類をはじめそれぞれ規格單純化にかかつてる、醤油も五六の格付に單純化する、その上で府縣は府縣

で組合により生産高なり貯蔵高なり配給の現況なりをまとめてしらべておく、そして中央へ報告する。中央では各府縣の報告により、其間不足してる方へは餘つてる方から振りむける、つまり有無相通じて品物の偏在をさける、品物のサバキをよくする。

B それは思ひつきだね。

A 實際今日では世間の人は何となく品物が段々拂底しはしないだらうか、今に無くなりはないか、品質はますます下るだらう、分量はますます減少するであらうといふので、つい買ひいそぐ、買ひだめする嫌ひがある。

B 嫌ひどころぢやないですよ。その通りですよ。

A 小賣商なり問屋になると猶更の事、今の内仕入れておかぬと品切れになつてはと思ふ。將來の品不足と値上りを氣がまへして、今のうち出来るだけ多額の注文を出す。思惑で引つ切りなく注文する仕入れる。だから國全體の品物の需給は大體辻つまが合つてはすであるが、事實品物が偏在するのと、問屋小賣屋などに存外品物がかくれてるので、とかく品不足の聲が次第に高くなる。

B なるほどそれもさうだね……。

A だから商人達もこれこれの額だけはたしかに引渡すといふ保證さへついてゐれば安心して



居れる。結局割り當にしないと、小賣商人が不安になる、世間もみな不安になる。小賣商は注文しすぎる、消費者は買ひあふるといふ事になる。

B これは一醬油の問題ではありません。

A さうだよ一方で歐洲大戰勃發と共に物資は益々不足を訴へる。外へ注文しても中々もとのやうには手に入らない。外から注文が追つかけて來ても、お手もとは品が手薄といふ情景だからな。

B 要はお互の消費節約の徹底といふ事になりますな。

A その邊だね、だから割り當てといふ事が醬油だけに限らない、又製造元と問屋や小賣店の間のみに限らないと思ふね。(一四・一〇、五、經濟知識)

大きな醸造元もある、中位なものもある、小さいものもある。醸造専門のものもある、卸賣をかねるものもある、小賣りをかねるものもある。まちまちになつてゐる。一律に論じがたい。

## 本多博士と鐵

本多光太郎博士が主宰せる東北帝大の金屬材料研究所は、日本の否世界を通じての特殊なる存在である。

同研究所に於て研究されたる事項は四百件を越え、既に内外に八十の特許を獲得してゐる。

膨脹の係數一千萬分の一程度の不變合金は二種まで發見され、その一つは不銹性である。さらに約等量の白金と鐵との合金により負の膨脹係數……熱すれば反對に縮み冷せば反對に延びる……を有するものも發見されたといふ。さらに防彈鋼に至りては二、三百米の距離にて彈を防ぐに厚さ一・五耗で充分である。その硬くしてしかも粘氣を有する特性は諸外國の優秀なるものに比較しても、厚さに於て二割三割ほど有利である。それだけ薄くてもよいといふ事である。

その他世界一といはるるK・S磁石鋼、さらに一層強力なる新K・S磁石鋼の如き或は帯磁率の高き合金を以て名あるパーマロイに對して超パーマロイであるセンダストの發見等々、僕のや



うな素人にはその業績の偉大さについて之をはかるべき尺度すら持たないが、兎に角世界的の優秀なる發見が續々と現はれて來たのである。

\*  
なんでさうした畠ちがひの問題にペンをはしらせるのかといへば、今中央物價委員會では鐵、石炭、纖維品等の價格につき論議が重ねられ、耳學問眼學問をつづけてゐる。さうした機會から刺戟をうけて本多博士の「鐵と文明」なる冊子を通讀し、かつて盲の垣のぞきをした仙臺の研究所見學の當時をしのび、くさぐさの雜感が湧いて來たからである。

硬い物質は脆い、さりとて粘氣あるものは軟かである、鐵の特色は之に與ふる熱量なり冷却の程度により、さらに之に加ふる他の少量のかすかすの元素により、お好みの鋼となる鑄鐵になる、特殊鋼となる特殊合金となりうる點にある。その日本刀について説く處によれば

日本刀は通常硬軟二種の鋼を鍛へ合せてつくる、

双部の炭素量は高く棟部の炭素量は低い、

焼入れの後双部は非常に硬いが、棟部は靱性を帯び爲に良く切れるが折れない。しかし北支のやうな寒いところでは低温の爲に脆くなる、

爲にニッケル、クロム鋼の如き特殊鋼を用ゐねばならない。

ところで今日は多數の特殊鋼が發見された上に、鋼の温度もパイロメーターなる測温器にて正確に測定される。だから今日の冶金學では切味と耐久度に於ては正宗に勝る刃をつくる事も難かしくは無くなつた。それだけにさうした手段の見出されなかつた昔時にありて、經驗にのみよりにて名刀を鍛へあげられた事は推服すべきもので、刀鍛冶が暗いうちに起き、齋戒沐浴して仕事にかかり、暗いうちに主なる仕事を終つたといふのも、精神統一の爲めであり、又火色により温度を判定するに便なるが爲めであつたからであると説かれてる。

\*  
本多博士の冊子を読みつつ東西いづれの世相を通觀しても、今更に硬くて粘りのあるべきは獨り日本刀ばかりで無いといふ感じを深くするものがある。一面には長らくの經驗のみによりても、一心こりては正宗の銘刀が鍛へあげられる。さうした古人の不斷の努力に對し推服の外ないが、同時に日進月歩時も止むなき科學の發展には驚服する外が無い。

近頃は外國の發明品をそのままそつくり頂戴して、只その名前だけ日本式に改稱しいい氣持になつてゐる事例も見ないではないが、さうなると日本で發明された始めから日本で命名された發明が次第に芽生えて來た事こそ快心の極みである。

たとへばK・S磁石鋼といふのは研究費を寄贈されたる住友吉左衛門氏の厚意に酬ゆるためそ



の姓名の頭字を取つて名づけたものであり、パーマロイドより優秀なる磁性を有する合金センダストの名は仙臺で發見され、且つ粉状になり易い合金といふ意味から命名されたといふ事である。

\*

いふまでもなく先進の國は一ヶ國でない。數多い國々が互に競争意識に燃え、強い刺戟を直感しつつ不斷の研究を重ねてゆくのである。英國の科學工業の近時多少遜色を見るに至りしはその保守にすぐる氣分その自國第一といふ驕りの心持が妨げをしたのである。さうした點からは日本の著しき進況を見るに至りしはいつもいづれの國たるを問はず、苟くも彼れの長所はあげて之を攝取するにあるといはれてる。近頃爲替統制などにより海外との交通が多少共疎隔される狀況があり、又歐米依存の弊風除去の大勢に伴ひ、海外科學の研究の足取りまで、おくれをとりはしないかと憂へる科學者の聲を耳にする。本多博士のパンフレットの末に

近來日本の工業は著しく發展して最早歐米人の世話にならないでもよいといふ人もありますが、實際は中々それ所ではありませぬ、殊に化學工業精密機械工業に於て著しく劣つて居ります。と明言してゐる。何よりも驕らぬ事である。どこまでも研究をつづける事である、我を知り又彼を知る事である。

(一四、七、一〇、新聞紙)

## 店先き

店員諸君に與へる言葉

### 一 積極的な熱

店先きには人が居ても、居睡つてゐない方がよい。眼がさめてゐても毛糸の編ものをして、將棋を指してるなどといふ態度は、お客さまに好感は與へない。ましてや行きすりの客足を引きつける道としては正反對になる。

お客さまも千差萬別であるが、いつも「何を下さい」と、注文をつけてくるお客だけ相手にしてゐるのでは、あまりに受動的である受け身である。商賣の繁昌するゆゑんでは無い。行きすりのお客を、ぐんぐんと引きつけようとする、さうした積極的な熱がなければならぬ努力精進が無くてはならぬ。



## 二 眞面目な態度で

かりに「何を下さい」とか「何があるかね」とたづねられた時にしてが、名指した品物が無いとする。「有りません」とぶつきらぼうにいふのは拙の拙なるものである。折角流れ込んできたお客を突きはなすのである。「お生憎さま」と氣の毒さうにいふ事にしてが猶拙たるを免れない。一應さがして見る、無いと分つてゐてもさがして見る、その間に頭を働かせる、さうした品物は將來仕入れおくべきものかどうかといふ事を考へる。そして仕入れおくべきものと思へば、「生憎今切らしてゐます、申わけがありません、早速仕入れておきますから、どうか又御注文を願ひます」と丁寧な挨拶をすべきである。少くともその客の好感を買つておく、將來たとへ同じ品物でなくとも他の品物でも、ついその店で求めて見ようといふ氣分を植ゑつくべきである。その店への因縁をつなぐべきである。つまりお愛想がよいといふ外に勉強してるといふ眞面目な態度をお客さんの胸へしみ込ませるべきである。

## 三 サービスいろいろ

お客が店先に立つた時に、どこで風が吹いてるかとは無關心の態度をとられるのも、あまり嬉し

くは無いが、さりとしてすぐそばへやつて来て、ヤレ「これはお徳用です」とか「これは割安です」とかツベコベシヤバラレルのはとももうるさい邪魔である。

尤もこれは客種にもよると思ふ。

私の友人でホテルはどうしてもイヤだといふのがある。

日本旅館では遅く歸つても女中がまつてる、風呂はもうおしまひになつてゐても、お茶でも出す寝巻の着かへの世話をしてくれる、あれがよい、ホテルではガラン堂の中へ獨りポツネンと歸るので、淋しいと云ふのである。

私は又全然反對である、おそくかへつて女中を待たし世話を焼かせるのが氣の毒である、ホテルであれば遅くかへる、鍵で自分の部屋をあける、風呂が無ければ入らぬだけである。あれば自分で栓をねぢる、都合のよい湯加減にする、あれが日本旅館の「一寸今ほかのお客が」とか「一寸お加減を」などと待たされたりするより、どれだけ安易な分らないのである。

## 四 人間完成の途

話が横途に入つたやうだが、つまり僕のやうな氣分の者は店の人がそばへよりそうてツベコベいはれるのはとてもイヤなのである。



正札と品物を見くらべてゆつくりと考へてるのである、不審があれば、その時にたづねるまでである。

というて店先にお客が立つてゐても平氣で編物したり將棋をしてゐてはよくない、つまり不就不離の態度でありたい。

店先には大きな關心は持つてゐる、さうしてお客の顔色を見て、つまり關心を拂ひながら、お客とどれだけかの間隔を保ち、どうした態度で居るのがよいか、それがお客の顔色を読むといふ事になる。

人間は社交動物である、人間は共同生活を營む、一家内にしても、友人の間にも一般の民衆の間にも、いつもお互に顔色をよみ、人の邪魔にならぬやう爲めになるやう、互に同情を以てすれば、そこに人間としての人格の完成がある、一事が萬事である。すべての途への成功の鍵である。何も店先の品物の賣れ行きがどうの、商賣が繁昌するのどうのといふ問題に限られるのでは無い。

(商店界、十四年十二月號)

## 科學より見た日本精神

### 一 素手と機械

いづれにしても人間も素手では全能を發揮する事ができない。物を運ぶにも素手では目方も容積も距離も時間も知れたものである。しかし風呂しきやざるや籠や箱があり、肩にかつぐ棒があり背に負ふリュックサックがあり、さらに手押しの小車もあり前引き後押し荷車がある。牛あり馬あり船あり自轉車も出来ればリーヤカーもできる。電車汽車汽船トラクターと機械化が複雑になり發達するほど際限なく輸送の能率が上つてゆく。

古今東西を通じて人間には争鬪性がある。相うつ相争ふ相戦ふそれにも赤手相角する時もあるが、刀槍弓矢によるに越した事は無い。さらに銃砲が發明されてからは戰術も一變したが、その銃砲にしてが、その威力に於て際限なく發達するそこへ防禦すべき城郭要塞トーチカも之に對應して進展して來たが、さらに空軍によりてここに又一大劃期がゑがかれ、戰爭は高さに於て立體



戦となつた、距離を超越して爆撃機は第一戦を乗り越え遠く敵地の中樞を衝く事になる。毒瓦斯などの發明により數百數千數萬人の生命さへも一舉にして断ちうる事となつた。

こんな事は今さら管々しく筆にするまでも無いが、少くとも現狀にありては飛行機を以て例しても、その速度なり持久力なりその攻撃力は時々刻々に進歩して止まるところが無い。

## 二 來るべき機械化世界

さらに將來を考へると我々は自動車を操縦する程度に滑走などの爲めに廣い場面を要する事もなく、ビルの屋上などから自由に飛ぶ着陸もする、飛行しても音響もなくする速度はうんとのびる、爆撃の威力も幾百倍にもなる時代も遠くはないであらう。螢の光などからヒントを得て光なり熱なり力なりが今までの電氣とか水とか石炭石油以外からも得られるであらう。毒瓦斯のやうなものぐベラ棒に發達して、何トンかの瓦斯を落下すると一舉全市民をちつ息せしめる。さらに息の根も絶つてしまひうる時代も遠くは無い。限りある地球上に限りなく人間がふえる、といふてこれが目白押しに息づまつては生きてゐられない。一體地球の行末はどうなるだらう、どこへ落ちつくのであらうなどかなり御せつかいな取越苦勞をして見ても、一舉にして大都市が全滅できる時代となつて來たのである。ミュンヘン會議ではヒットラー總統はチャンパレン英首相に

いざとならば何十機か何百機か機翼をならべ、アツといふ間にロンドンを灰燼にして見せると、おどかしたとかいふ噂もある。現代に於ても有りうる事である。さうなつては之に對抗する機械化國防が備はらない限り、いくら人間の頭數が多くとも、いかにそれらの人たちの精神力や肉體力が絶大であつても齒が立たないのである。角力にならないのである。人と物と二者ならび立たねばならぬ時代となつたのである。

## 三 波蘭は何故負けたか

しかも機械化となると飛行機でもタンクでも戦艦でも有無の問題の外にその間に多少共機能の上に相違があれば、いかに早くなつたとてより早いものには追ひ付かないのである。大砲の彈着距離に長短があれば、たとひ一町が半町三十間が十間でもより短かいものはより遠い先方の砲彈に見舞はれても、當方の砲彈は先方へは届かないのである。機械化となれば一秒時又一メートルの何百分の一の相異が勝敗の岐かれ路にもなるのである。

なにも支那事變さらにノモンハン事件を引證せずともポーランドは何故ドイツに負けたのか。ポーランドの要塞はあまりにも貧弱であつたといはれてる。ヤブロンカ要塞地帯にはカルパチア山脈が天然の防塞になつてゐる、最少限の要塞を構築しても、此地域は難攻不落とする事ができた



と云はれてる。又全線の通信網が最初の數週間を除いては殆んど杜絶したのみならず、英佛兩國はポーランドに殆んど飛行機を送らなかつたから、ドイツは樂々と制空權を把握してしまつた。さうした事がポーランド軍は愛國心に燃え生命をなげうち戦つたに拘らず、さらに世界の専門家たちが先づ六週間を支へうであらうといふことに意見が一致してゐたに拘らず、僅か二週間で全面的に崩壊したといふ事である。

#### 四 東西科學界の展望

今日日本は眼覺めつつある、今まであまりにも歐米に依存した心持ちを脱却する事は誠に結構である。しかし行きすぎてもう日本は凡ての方面に通じて第一位である首位であると高慢心を増長し獨りよがりの天狗となれば、之ほど寒心すべき事は無い、少くとも現在科學の大部は我々の日常生活に見ても電信電話ラヂオとか、電車汽車汽船飛行機などはもとより、瓦斯も電燈もさては新聞も雑誌も、齒磨もシヤボンもマツチも、寫真も映畫も蓄音器も、事實海外の發明に依存してゐるのである。多くの内外科の醫藥も手術もヂフテリア、チフス、天然痘などの豫防注射も、先進國の發明に依存してゐるのである。日本民族の特色は慢心を起さない。しかも安逸を食らない、絶えず研究努力彼れの長所を攝取し我短處を捨てるに吝ならざるにある。まだまだ日本の科學は彼

れよりも勝るところか肩もならべて行けないのである。何よりも日本人の平均壽命にしてが彼に比して十年十五年と短いのである。

我等の考へねばならぬ事は、先進國はその數の多い國である。その多くの國が歐洲では相近く相隣りし、互に直接に刺戟され強い競争意識を以て肩をならべ一歩々とツバゼリ合ひで緊張努力をつづけてゐるのである。我等は遠い極東にあり、見渡す限り刺戟を與へてくれる國の無い境地にありながら、遙かに歐米の刺戟を敏感に感受するところに日本民族のエラサがあるのである。明治維新となり國際場裡の舞臺に最後の國として引き出され、それから新日本は晝夜兼行あらゆる國を追ひ越し追ひ越し、遂に世界の第一線まで躍進したのも、よく世界の文化を吸収し消化した爲めである。

#### 五 科學より見た日本精神

近頃多くの科學者の口から屢々次のやうな事を聞くのである。それは少くとも我々科學の上から見て、まだまだ日本は研究努力をつづけねばならない。何よりも先方は列國相競うて日進月歩しつつある。此間に海外の科學知識を吸収すべく、吾等の歐米に遊び彼の地に留學すべき外遊の脚は釘付けとなつて來た。朝野を通じ一般國民の科學に關する認識ももう日本はエラクなつたの



だとばかりに次第に薄くなるやうである。科學界の外にある人たちの心持ちは吾等には分らないが、次第に海外と連絡が薄くなり彼を知るの機會の遠くなつてくる事は、我國科學界の將來の爲め寒心に堪へないといふのである。我科學者たちの念願は、どうか今日まで我等の先人が努力をつづけしが如く、ここまで築き上げし我科學界の進歩發展を今後とも鈍らさぬやうにする事である。世界列國はみな日進月歩しつつある、平時にも非常時にも、我國の足並が遅れてはならぬ。さらに精進努力研究をつづけ、幾多の大きな發明を爲し、過去の返禮をかねて少しは海外へ我等がつくりあげた文化の光澤をあまねくしたい。國民あげてさうした心持ちになる事が、まさしく紀元二千六百年を迎へたる吾等の倦まず怠らぬ自強不息の眞の日本精神ではあるまいか。

(機械化兵器、十五年一月號)

近頃は外國語廢止の聲が高い。しかしそれは彼を知らなくともよいと云ふ意味にとられては大變である。さうでなくとも日本人は海外の事情を知らなすぎる。

## 外國語の學習

日英會談に兩國各自國語を話す事になつたのは、當然すぎる徑路であるとはいへ、國際語となつて居たフランス語の中へ、英語が仲間入りすべく割り込むまでに、いかに長い茨の道をたどつたかといふ事に想到すれば、それは極東における日英兩國會談の場合であるとしても、日本のため、日本語のため、只々うれしいといふ感激にあふるるばかりである。

しかし、それをもつて直ちに英語不用、英語排斥といふに至りては、あまりにも的が外れすぎて居る。

世界に英語を話す人があまりにも少くなつた。英語を話す國が世界の四流、五流の國に落伍してしまつたといふならば、われらはバルカンやバルトの國々の言葉の練習を必要とせぬが如く、英語も亦必要とせぬであらう。しかし何といつても、英語は最も多くの人々の口にする言葉であり、英國は世界一流の國として存在し、世界の文化に大きな分野を占め、あらゆる角度において



彼我の交渉を持つて居る。それなればこそ、既に日英會談なども起つたのである。

日英會談の席上で、先方の側に日本語をあまりにもよく知り抜いて居る人が居る。當然當方も英語をよく知りぬいて居る人が居なければならぬ。只通譯に任かしておけばよいと納まつて居られない。先方は先方で耳語もする。それまでも小耳に挟まなければならぬはずである。聞きわけの事が出来る。話す事が出来るといふ事と、聞く話すといふ事は別である。さうした意味で、新東亞の建設といふ大きな標的には、我等はせめて片言でも、滿洲・支那の言葉に通じるといふ事が大きな關心事であらねばならぬ。日本語は日本の國運に伴うてひろがつて行く、それだけに一層日本の言葉を正しく統制すべしといふ事は正しいが、しかし自國語がひろがつて居る。又ひろがつていくから、先方の國語を知つてはならぬ。知らなくてよいといふ事は飛んだ筋ちがひである。我等につねに我を知り、又彼を知らねばならぬ。(國語運動、一四、一一)

イエーメン國と英佛伊などの通商條約文はアラビヤ語一本である、  
英語も佛語も伊語も使つてゐない、イエーメンのいふがままにウッサ  
ウカサウカと大まかにうなづいてゐるのである。

## 郵貯五十億

郵便貯金五十億の聲を聞く事となつた。

かへりみれば日清戰役から日露戰役への約十年間には、貯金の現在高に差引減を示した年もあつたかに記憶する。増加するにしても平均して一年に差引預け人増約十萬人預け高増約百萬圓に過ぎなかつた。

しかし一國の興亡を賭したる日露戰役となりては國民は極度に緊張した。時局の刺戟により今まで一年に増加した十萬人の預金者、百萬圓の預金が、毎月にくりかへされる事になつた。爲めに郵便貯金の現在高は今まで毎年百萬圓内外増したのが、千萬圓臺となり、四千萬、五千萬、六千萬と鰻上りとなり、事業創始より三十三年を経て、明治四十一年の六月に郵貯一億圓を突破する事となつた。

ところが其後十五年ならず到大正十二年に十億となり、七年ならず昭和四年に二十億となつ



た。更に六年ならず十年には三十億圓となり、三年二ヶ月にして昨十三年七月には四十億圓を突破し、今や一年ならずして五十億圓の聲を聞く事となつた。

日露戦役當時、今まで一年かかつて百萬圓の増加が千萬圓になつた。二千萬圓になつたと手を額にしたのが、一年に一億圓となつたのである。それも今は半年になり、三ヶ月になり、一月になり、半月になり、更に旬日を出でずして一億の増加を見る事になつたのである。金の相場も變つてるとは云へ、それにしても如何に我國富の伸張のあまりにも偉大なるに驚かざるを得ない。

今にしてかへりみれば、日露戦役當時あの急激な事務の膨脹に對する關係吏員の迫力、氣合といふものが忘れられない。事業増進に伴うて増加さるべき豫算はいつもあとからあとから順おくれになる。その上に貯金の利子元加をすべき年度決算、それも年度末の見越利益制と改められるまでは臨時の増員を待つ外がなかつたから、中々さばけ切らない。掛長、部長の多くは貯金原簿室に泊り込む。掛員は居残りはもとより早出、それも時刻が早過ぎるから氣の早い連中はみな門柵を乗り越えて事務室に駆け込んだものである。さうした慌ただしい中に原簿をカード式に書きかへる。筆書をペン書にする。日本數字をアラビア數字にかへる。年度末見越利益の制度にかへる。更らに日露戦役行賞賜金貯金組入れ事務を始める。さうした當時の心意氣は獨り遞信部内に限らず、あらゆる方面を通じ國民あげて張り切つてゐた。人間の彈力の如何に強く大なるかを如

實に示したものである。

さて今次の支那事變勃發後預金人員は如何に増加したか。事業創始以來約三十五年、明治四十三年に一千萬人の聲を聞いた。それから十年足らずに千萬人づつ増して來てゐる。昭和十二年四月には三ヶ年と十一ヶ月にして四千萬人となり、次いで十三年十月には四ヶ月にして七千萬人を突破してゐる。誠に驚くべき激増振りである。

多少とも此事業に關係した私は、只その數字の激増に驚くばかりでない。さうした短期間に千萬人の新規口座が激増する。事務室にカードに箱に異常に膨脹せる仕事がいかにさばけゆくのか、そこに人間の恐ろしい迫力彈力のある事を聯想せざるを得ない。近時貯金局の規模が著しく大きくなつたから、その彈力も亦大きくなつたと云へばそれまでであるが、よくかくまで激増して止まざる仕事を追つかけて追つかけて処理されて行つたものである。只々驚嘆の外が無い。

今や長期抗戦に入つて戦は何時果つべくも見えない。貯金は各種の方面に通じ一年百億をスロガンとして公債の消化に充てられなければならなくなつてゐる。かりに戦争が濟んでも、論功行賞賜金が少くともその一部は公債なり貯金なりで給與される事も豫想される。それは一時の事ではあるが容易な事でない。さらに東亞新秩序の建設に邁進するからは貯金は此上とも激増を續けてゆくであらう。又続けられねばならない。



しかも今日は戦地へ少からぬ將士が出征してゐる。占領地といはず滿洲一帯まで、官公署に銀行に會社に工場に、農に工に商に、さては移民に、少からぬ青年壯年の人々の進出を見つつある。更に内には重工業等々に限りなく勞力が要求されつつある。何處を見ても喉から手の出るほど人に渴してゐる。一にも人二にも人三にも人の世の中に、この遞増して止まざる貯金事務を裁きゆく爲め擴大さるべき事務室の供給と従事員の増員と補充とに當局は少からぬ苦勞がある事と思ふ。ここに日露戦争當時に體驗せる思ひ出を録して、夢想だにせざりし五十億貯金の記念を祝し、之までに仕上げて來た歴代當局諸君の勞を多とし、更に銃後經濟戰の第一線に活躍される現當局の一方ならざる勞苦に對し深甚なる同情を表し、益々健全なる發達を遂げられん事を期待し、心より五十億貯金の御喜びを申上げる者である。

（通信協會雜誌、十四年八月號）

日露の役の時の貯蓄獎勵委員では水町理財局長、永濱神野兩大藏書記官、吉原床次兩地方局長、井上清野兩内務書記官、小松通信局長いづれも故人となり、中川望君と僕を残すのみとなつてゐる。

## 淺間丸

「今は非難されても仕方がないから、じつと忍ぶまでだ。何時かは時が來れば解つてくれるだらう。」これが藤田新淺間丸船長が事務引繼の時、渡部前淺間丸船長より聽かされた詞である。藤田新船長はさらに「その時の悲壯な表情は忘れられません。私も同じ職業の者として苦しさがよく分かる。同情で一杯だけれど言葉が出ず、後は引きうけたとだけしか云へませんでした。今でも渡部さんの宅には脅迫状や何か舞ひ込んでくるさうです、實際お氣の毒です」と詞を足してある。精しくは二月六日の都新聞社會面の

物言へぬ辛さ

痛恨の日英會談奇しく經過發表の日

淺間丸、再起の船出へ

といふ見出しの記事について見らるるがよ。



かうした記事を見た筆者は、随分浅間丸についてのくさくさの新聞記事や茶談私語を目見耳聞した。帝國議會ではその浅間丸につき一再ならず議員と有田外相との間の問答も耳にした。同じ議壇上に松野鐵相からの大阪市に於けるガソリン車の事故の報告もあつた。

浅間丸とその前に又その次に横濱に入港した船とは一と便のちがひである。大阪のガソリン車にも三輛中前の二輛が無事であり、あとの一輛が二百人餘の犠牲者を出してゐる。前の二輛に乗つた人、あとの第三輛目に乗りはした人、それもおくれ走せに駈けつけて辛うじて無理無體にその第三輛目に入り込んだ人もあれば、やつとの事にかけて間に合はず、汽笛一聲？ あとに残された人も少くは無いであらう。そこに人間の運命の岐れ路がある。

浅間丸の場合にしても、ああした場合に二十名の獨逸人の引渡しといふ事件から、之れが悪くからみ合ふと、どこかへ浅間丸が引つ張られるといふ事にもならう。萬一であるが船自體と全船員全乗客の運命といふ事にまで擴大もされよう。さらにそれが日英兵火を交ゆるの端を發する事とならぬとも保しがたい。たとひ日英兵火を交へたいのであり、兩國交戦の絶好のチャンスであるとしても、商船の船長として、それまでの大きな運命のかぎを握る岐れ路に立つたとして、之れが交戦國相互が軍艦同志であり、乗組は皆自國の戦員であり、己れが艦長であるのとは全然

立ち場が違ふから、南米モンテビデオ港における獨逸軍艦グラフ・シュペー號又その艦長ラングスドルフ大佐とは著しくその境遇がちがふのである。さればこそ物言へぬ辛さもあるであらう。いや世の中には物が言へても辛さがあるはずである。

あらかじめ如何様に打合はしてあつたのか、事前の事情についても今ここに論議しようとは思はない。又どんなに打合はしておいても、その打合はした條項以外にわたる場合も起らう、かりに該當しても之が認定となると、そこに程度の問題にもなるであらう。

此の問題によりて取りあへず當面の問題はどうにか片づくであらう、又近き將來を通じて、彼の心構へも又打合せも何とか片が付いてゆくであらう。さらに將來世界各國間を通じて一貫したオキテといふ者も定めらるべきものと思ふ。たとへば中立國の船に交戦國の人として乗りうる者、乗り得ざる者の別も國際共通的にハッキリと立てねばならないのであらう。日本が交戦國となりし場合に中立國の船に乗りうる日本人の範圍は廣きを便なりとすると共に、敵國人ならば狭きを便なりとする。交戦國となればそこに利害が錯綜してくるものと見ねばならない。

世の中には物言へぬ辛さは、いつも随時隨處に起りつつある。渡部前船長が悪いくじを抽いた



のは事實である。しかしまだまだより悪いくじが澤山に有る。私は日本郵船の寺井重役が或る新聞に數行なれども淺間丸につき話した記事を散見した。あの詞により數知れぬ讀者の中に何等かうなづかさされたと思ふ。渡部前船長は特にうなづかさされてる事と思ふ。

人間はおのれの命をなげ出す事によりて始めて片のつく時ほど有りがたい事は無いと思ふ。獨のシニペー號艦長ラングスドルフ大佐の自殺の如きはその一例である。只世の中には勿體ない無意味な自殺も多い。ガソリン車の顛覆をまたすとも毎日東京だけでも自動車事故により何人かはいはば闇から闇へ命を失つてゐる。觀じ來ればラングスドルフ艦長を羨しいと思ひ、渡部前淺間丸船長はお氣の毒と思ふ。もとよりいづれは時が解決するであらう。靜に時の來るを待つべきである。淺間丸事件そのものはいかに解決せられようとも、その結果がいかやうにならうとも、どうかそれが將來の一貫したる國際條規制定の上にも何等か役立つ事になるやう、又將來の船長船員に對し精神的にも又その職務を執行する上にも何等か役立つ事になるやう深く期待する。

(海運報國、十五年二月號)

## 支那事變の意義と覺悟

支那事變の意義なり、その重要性については、すでに度々聞きもされ、讀みもされた事と思ふ。もちろん戦争となれば只勝利あるのみである。どこまでもがんばつて勝ち抜くばかりである。お互ひが喧嘩するときでも、取り組んでる最中に、なぜ喧嘩してるのか、その喧嘩の重要性を詮議して、それなら少し調子をおろしてみよう。それならうんと氣張つてみようなどとそんな呑氣な手加減のあらうはずはないのである。

歐洲では毎日のやうに戦争になりさうな事がらが起つてゐるがまだ爆發しさうにない。極東では日支の間になぜ爆發する事になつたか。それは支那では朝野あげて抗日侮日をつづけて來たからである。支那では小學校の教科書にまでれいれいと抗日侮日のかどかどをくどくどと書き立ててある。新聞も雑誌もいつもさうした記事を滿載してゐる。國民黨の大會も學生の大會も速かに



兵をあげ日本を破るべし、日本を挫くべしと決議してゐる。

さうした空氣になつてゐるから、昭和十一年より翌年の事變勃發までに、日本人に對する射殺、襲撃、放火、爆彈、殴打、傷害等暴狀の數々は九十四件の多きに上り、前後數知れぬ死傷者を見るに至つたのである。一般の民衆にして猶然り、まして兵隊に至りては機會あらば日本と戦はんと氣構へてゐた。

この空氣が十二年の七月に蘆溝橋事件となりて爆發したのである。いつ爆發するかといふ時の問題で、大勢は日支の間に事なくしてはすまなかつた。どうしても避けられなかつたとすれば、むしろ絶えず戦争の準備を進めてゐた國民政府に對し、戦争の一日でも早くはじまり、それだけ早く治まる事がむしろよろしかつたとも言ひうるのである。

當時日本では不擴大方針をとつたが、先方では蔣政權は、今まで相戦つた共產軍と抗日の旗印の下に手をつなぎ、事變は次第に擴大して遂に今日に至つたのである。それだけに萬が一にも蔣政權が勝つたとしたならば、その後の抗日毎日の暴狀は想像するだに恐るべきものがあると思ふ。

又さらに支那が赤化され、極東に相隣れる日本と支那の間に大きな溝が出来、全々相容れざる民族となり、極東の内互ひにひしめきて、外侮をうける事となるのである。故に此事變を因縁として、相近きもの相似たるものは手を取りて新東亞を建設せねばならない。

だからどこまでも徹底的に蔣政權を打倒せねばならないが、日支の民族は將來共存共榮せねばならないのである。

\*

日露の戦役には各國は日本に同情をよせた。それは相手のロシヤが強かつたからである。今度は日本が強いから防共により日本と手を組んでる獨伊の外は支那を援けてる。だから一年四ヶ月にわたる日露の戦争には直接の戦費が約十五億圓、一ヶ月約一億圓であつたが、當時その中で約十億は英米などから借金したのである。

今度は事變起りてより既に二年に近いが、外國からは一錢の金も借りられない。國民の貯蓄奨励につとめ、一年の募集公債に應ずる爲八十億圓を標的としてゐる。

一面石油とかゴムとか皮革とか棉花とか羊毛とか、どうしても外國より巨額の仕入をしなければならぬ品が少くない。それらは日本から外國へ輸出する品物と差引いて、その差額だけは現金



で支拂はねばならない。だから國內の金の産額増加につとめてゐるが、何よりも外國より輸入せねばならぬものは、軍需品以外につき使はないやうにする、さうして止むなければ、國産品の代用に心がけねばならない。

いづれにしても注文が多くなると物價が高くなる。もし物價が倍高くなれば、金の値打ちが半分になる事になる。それでは軍用金ばかりでない、お互ひの貯金も収入も皆半分になるのである。だから貯金してその金で軍用金に充つべき公債に應じるやうにせねばならない。もし貯金せずに品物を求める方にふりむけると、それだけ軍用金が不足になるばかりでない。品物の値段をせり上げる事になる。

しかも此事變は長くつづくものと覺悟しなければならぬ。事變は片付いても澤山の軍隊は現地に駐めて置かねばならない。さらに支那や滿洲で新に數知れぬ建設の仕事がある。だからお互ひに生活改善をする。事變前よりも生計を引きしめ建て直しをしなければならぬ。

さらに考へさせられる事は物ばかりでない、人の事である。現地で兵火の爲に亡くなられた人もあれば、病氣にかかられた人もある。澤山の人が現地へ出かけたから、その間に内地における妊娠の率は減じてくる。そこへ重工業などで新規に人手が澤山に注文される。

滿洲や支那へ戦争以外の仕事の爲、又移民などの爲に出かける人も少くない。

だから物を無駄使ひせず、簡易生活により消費節約するやうに、人も二人前三人前と出来るだけ有効に活用されねばならない。現に澤山の人が地方から都會地や海外へ出かけてる。しかし地方では事變前とかはらぬ植付も收穫もできてゐる。隣保互ひに助け合ひ合理的に活動してゐるからである。事新しく考へるまでもない、今までのお互ひの生活には時の無駄があつた、物をつくり上げるにも、物を使ふにも無駄があつた。かかる折に人も物も無駄をやめ、出来るだけ有利に有効に活用されるやう心がけねばならないのである。

私はいつもよくも日本に生れ合はした事であると心から感謝してゐる。その日本とてもある時代には源平となつて相戦つた。吉野朝の時代さらに室町時代には、應仁の亂は十數年間京洛の地を兵火の巷とした。元龜天正の頃には日本至るところ麻の如く亂れた。江戸時代となり平和となつたが、鎖國の中に閉ぢ込められし民衆は、士農工商といふ井桁の中に釘づけになつてゐた。

今我々は日本の明治大正昭和の御代に生れ合はしてゐるのである。聖代の限りなき恩澤に浴し



つつ陛下の赤子として、日本の國民として戦ひつつあるのである。建國以來振古未曾有の重大事局に直面し、新東亞建設といふ輝かしい舞臺に乗り出して活躍してゐるのである。死生天にあり、いづれは限りある玉の緒である。只絶ゆるまで男も女も老いたるも若きも、國民をあげて、時局の一線に向ひ力の限りつくすまでである。

それが御國の爲である。數ならねど我々御互ひのためである。國も政府も市町村も我々個々につきても、まさに大に目覺めて、大に建て直り、奮ひ立つべき時は來たのである。

勇ましい事である。喜ばしい事である。有りがたい事である。（ほまれの家、十四年五月創刊號）

世の中は駕に乗る人乗せる人

腰の痛さよ肩の痛さよ

## 皇紀二千六百年を迎へて

私の生れたのは明治八年であつた。徳川幕府が倒れ封建政治は壊はれ四民平等國民皆兵となつて間のない頃である。明治維新後年猶新らしく、ここに新日本が呱呱の聲をあげたばかりである。乳離れした赤ん坊の時代上へ下へとゴツタかへして混沌たる最中に、驚や虎や狼や獅子が四方から隙を覗つてゐる。お隣りの清國も日本を馬鹿にしてゐる、朝鮮又然りである。だから征韓論も起つたのである。たうとう西南戦争にまで爆發して兄弟垣に相ひしめいたのである。

さうした累卵の危機を通り越すと、丁度高等學校時代の事である。今度は明治二十七八年の役俗に日清戦争が起つたのである。その頃の清國は日本より強いといはれたのである。丁汝昌提督が戦艦定遠鎮遠などを率ゐる江戸灣を蔽うてのり込んだ時は、日本にもあつた軍艦がせめて一隻でもあつたならばといつたものである。その清國と戦つて見事に勝つたのである。この時の新日本は赤ん坊時代からはや幼年時代となつてゐた。その幼年日本は我より強いといはれた支那に勝



つたが、さて馬關條約に對し露獨佛三國から干渉をうけると、その横車に對して之をはねる事ができない。齒を喰ひしはつて無理無法な干渉を鷓呑にし、遼東の還付となつたのである。當時の日本の危かしさはその頃來朝した露國皇太子を一巡査が襲うたあの天津事變を起した混雜状態など追憶して、今更夢のやうな感に打たれるのである。

次で新日本の壯年時代となつて明治三十七八年の役俗に日露戰役となつた。此度は私は歐洲から急行し、逡信省で戰時の貯金事務や野戰通信事務にたづさはり、それへ電報檢閲といふので役所に宿直する事も多かつた。通信事務に携つてゐるから、かなり戰爭には早耳でもあり裏の裏も相當に心得てゐたから、あの日本海海戰の頃はとても心配もした緊張もした。もともと世界ではロシアが勝つときめてかかつてゐる。しかし日本は存外強い。そこへ列國は強者への反感弱者への同情がある。何よりも御國の御稜威によりこれ又見事に勝ち勝つたが、さてあの當時の心づかひ緊張振りは、今にも忘れられぬ深い深い思ひ出である。

その新日本がそれからすつと第一次の歐洲大戰を経て、ぐんぐんと壯年期にのび、世界の最大強國の一つとして全世界に雄視する事となつた。かの滿洲事變支那事變に至りては之れを乳兒時代幼年時代青年時代にくらべたならば、まさしく雲泥のかけへだたりであつて、新日本はまさに世界一の男盛りで眼覺しい活躍をつづけてゐる。此度は戰そのものには負けるといふ懸念は微塵

ない。そこに今までの戰爭と大きな相違がある。しかし第一線の戰には萬が一にも心配は無いが、戰爭は第一線だけでなくつた。銃後經濟戰の重要性はますます大を加へて來た。日露の役に列國が露國に反感を持ち日本に同情したのが、今度はうらはらになつて列國は弱者支那に同情して日本に反感をあふつてゐる。ここに今次の時局の重大性がある。さて此時局の結末は一體どうなるのであらうか？

時局は本年中に收拾できるのか、それとも來年中か猶先きへのびるか。轉々と眼まぐるしくかはる世の中、複雑怪奇といはれる列國の動きは神様にも見とほしがつけかねる事と思ふ。しかし事變も足かけ四年となればおそくも來年皇紀二千六百年あたりにはケリがつくのでは無からうか。もともと戰爭は長引くのが能でない。しかも新東亞の建設といふ。年内ならねば明年あたりには片がつくべきものかとも思ふ。

いづれにしても日本といふ活き活きとぐんぐんのびて進んで止まざる國は、人口の増加と國運の進展は因果の關係を以て互にせり上げてゆく。されば西南の役も日清の役も日露の役も支那事變も、みな國運進展の爲めにハリ切つて破裂された現象とも見られる。西南の役は實に征韓論によりて廟議が岐かれた結果である。日清の役も日露の役も支那事變も膨脹する日本の自衛權の發動であつた。うけて立つたが屈して退いたことは無い。常に刺戟されて反撥する敏感性を持つ日



本人は、黙々として唯々諾々押されるままに尻込みし自屈自縮する代りに、ぐんぐん反撥して進んでゆく。そこに國民の清新なる元氣がある。もとより長い間には一起一伏もあらう。起てば伸びるまでである。もし伏したならばさらに反動的に大に伸びるまでである。そこにユニツクな強氣な進んで止まざる國民性がある。

觀じ來れば過ぎし日本は多事多艱であつた。しかしそれはいつも元氣に充ち充ちての民族の活動の爆發の結果である。目前の支那事變はいづれは何んとかケリがつくであらう。問題はむしろそれから先きにある。私は日本はどこまで進んでゆく、寸時も止まず活動し、ぐんぐんとのしてゆく、時に或は頓挫する事もあらうが、その時はそこに一度屈せる何倍かにさらに躍進してゆく特異性があると思ふ。

私は明治維新以來乳兒から幼年青年壯年時代とぐんぐんとして來た躍進新日本を親しく體驗してきたのである。たまたま人間に生れた、しかも日本に生れた、それも明治大正昭和の御代に生を受けた。何んといふ有りがたい事であらうか。そして今や壯年期新日本のかちどきをあぐる皇紀二千六百年を迎ふる事となつた。只々感激あるのみである。

新興日本はいつも若い潑刺たる生氣を以て、絶えずましくらにその歩武を進めて止まぬであらう。

(二四、一一、八 モダン日本)

## 伸び行く日本

皇紀二千六百年を迎へて

日本の伸びて來たことは事實である。それも只の伸び方と伸び方がちがふ。最後に世界の舞臺に登場して、見る見る躍進又躍進、いつの間にか世界列強の中に伍してその第一線に進出したのである。しかもそれが有色人種であるといふので、白色人種から大きな奇蹟として驚異的になつたのである。

しからば何故に、さうした超速度の伸び方をしたのか、先づそれを検討して見る要がある。

吾れらは先づ、日本が極東の一角なる島國であつたといふ事を認めねばならない。交通の發達せざりし時代には、地理的に日本は孤立した隔離された存在であつた。それが建國二千六百年を通じて、未だ一度も外國から侵略をうけないといふ金甌無缺の帝國をつくり上げ、萬世一系の皇室を上にとにかくに至つた一つの大きな原因である。一つの獨立國家としては、その國內に多數



の異民族が混住してゐるよりも、單一民族によりて組成される方がよりまとまりがよい。より堅實であるといふ點から、近頃のドイツの猶太民族排斥、ドイツ民族の血の純潔を叫べる原因も分れば、舊埃匈帝國の崩壊によりてもうなづかれる。しかし異民族の集合は、必ずしも絶対に否認すべきでは無いと思ふ。現に九州大のあのスキスが、獨佛伊の民族よりなり、その用語まで相異をしてゐる。それであの通り強い結束を保ち平和をつづけてゐる。それにはアルプスといふ地勢の關係もあらう。獨佛伊三國の間に介在し、遠心力の作用で持ちこたへてるとも考へられるが、いづれにしても異民族だから一つになれないといふ事は絶対にない。

さらに遡れば、日本民族の祖先には、原住民族の外に日本海を渡りて北より西より、さらに黒潮に乗りて南よりも、數知れぬ民族が日本の島に渡來し移住してゐる。しかもその數多い民族が、相融和して渾然たる日本民族を生み出したところに、まさしく日本の特異性がある。

彼等は地理的にそれぞれ故國との交渉は殆んど絶縁せられ、長い長い間にいつの間にか一つの大和民族を結成するに至つた。近くは琉球、ことに徳川初期の島津の征伐により、琉球より割き取りし奄美大島、徳之島、沖の永良部の諸島民の如き、今日同じ鹿兒島縣民として、同じ大和民族として、その間に何等の差別を認めない。臺灣とても朝鮮とても歳月の移ると共に、又同じ徑路を踏むものと思ふ。又踏む事になつて伸びゆく東洋民族の將來に光明がある。

異民族の混血にいろいろの弊害のある事は事實である。同じ町村のうちにあつても、釣り合はぬは不縁のもとといふ。釣り合ふまでは長い歳月を要する。その間に段々と釣り合つてくるのである。しかも段々と釣り合ふ以上は、混血必しも避くべきで無い。之を裏からいへば近親間の結婚は、倫理の上はもちろん、體位向上の上からも喜ばしくないから、結婚には等親の差が認められてゐる。固より相異なるものの間にしても、その間に程度の差もあらう。又その民族にもくさぐさの長所短所もあらう。しかし相異なるものが相集まりて渾然たる一體を爲す時は、そこに優秀なる民族を生み出すといふ事が、いつも必然の成果かどうか分らないが、日本では現實に認められたのである。

さらに考へられる事は、日本の風土である。熱帯地域でもない、寒帯地域でもない。さりとして自然の資源に恵まれない。しかも地震や颱風に見舞はれる。山嶽重疊、狭い狭い島々はみな「さざえ」を伏せたやうで殆んど平野が無い。そこに民族をして安逸を貪らしむる餘地を與へない。自然の試煉の連続に絶えずぶつかつて、日本の國民性が鍛へられて來た。此民族は應仁の亂以來、麻の如く亂れた中を江戸幕府となりて三百年の平和を得た。此間に相當な潜熱レーテントヒートを蓄積した。そして國際舞臺に出場した時が、同時に封建政治の崩壊であり、王政復古、版籍奉還、四民平等、國民皆兵となつたのである。ここに新興日本はスタートを切りて、四六時中、晝



夜兼行躍進又躍進をつづけて来たのである。

國運が振張する。人口が増加する。人口が増加する。國運は振張する。互に因果の關係をなし、白色人種萬能のきづなから脱出して、日本は超速度の向上發展をつづけ、今や大陸に新東亞の建設を呼びかけてる。それは、英佛手をつないで、さらに北米合衆國に呼びかけ、獨伊相組んで我々と防共協定をむすび、猶百八十度の轉回により獨ソと手を握らんとするのと相同じきものがある。交通の發達に伴ふ國際關係の複雑性と、擴大化に伴ふ自然の數であつて、いづれも互に相近く相似たるものが、互に提携して、ブロックをつくつてゆくといふ事は當然の歸結である。

支那事變は遠からず終りを告げるであらう。しかし問題はそれからである。果して滿支に出かける日本民族は、その體位がその地の風土氣候に堪へうるや否やといふ事である。さらにその性格に於て、東洋民族互に手をつないでゆくまでに包容性を持つてゐるか、共存共榮眞に新東亞建設の實をあげうるや否やにある。

支那事變、滿洲事變、三十七八年の役、二十七八年の役、西南の役、觀じ來れば伸び行く日本には幾多の山嶽があつた。波瀾があつた。今や、さうした數知れず拂はれたる犠牲に對して、その結末をつける時が来たのである。眞に東亞民族結合協和の時が来たのである。伸び行く日本の將來は多望である。それだけに、國民の責は益々重大である。

(實業之日本、十五年一月號)

### 第三篇 厚生放言篇



## 優生問題

### 上 斷種か不妊か優生か

近頃斷種とか優生とかいふ問題につき厚生省で特別委員會を設けて附議されるので、折々新聞に散見されてくる。

ノドから手の出るほど人のほしい時に斷種とは何事ぞ天から授つてゐる人種を斷つとは何事ぞ、と頭から反對の聲もある。無論さうした人たちも氣狂ひでもふえるがよいといふ積りでは無いと思ふ。問題は遺傳といふ事につき或は誤解があつたり又解釋を異にする者があるからである。

ノドから手の出るほど人のほしい國は何んといつても第一歐洲大戰後のドイツであつた。植民地を全部とられたのは暫くおいて、何よりも苦痛であつたのは本國の領土が切りちぢめられた事である。さらにその切りちぢめられたドイツは大戰で約二百萬人を失つてゐる、この方はいづれも少壯血氣な階級である。さらにドイツの敗因をなした食糧攻めの爲めに、國民あげて榮養不良と



なつた、動物園の動物の餓死位は愚かな事、その動物まで食事のたしにされて、栄養は不良から不足となり、四年半の大戦の末に結局八十萬人の餓死者を出したといはれてる。

されば休戦後のドイツは一にも人口の回復である、その數をとりかへず、その質を回復する。その爲めには老幼男女國民の體育スポーツに全力を注いだ、その頃はそのままでは人口で波蘭に壓倒されると叫んでゐたのである。そのドイツが優生運動には歐米を通じ一番強氣になつたのである。悪質遺傳者には男女とも手術を施して、さうした悪質者のあとを絶ちたい、その悪質遺傳と見るべき病種目なり、又その斷種を強制するとか任意にするとか、そのやり口には歐米各國にそれぞれ相違はあるが、結局ドイツのやり口が一番手きびしいのである。かなり高壓的に勵行して、約四五十萬人近い遺傳性悪質者を全部根絶やしにしようといふのである。ヒットラー總統の一方に猶太人排斥一方にはドイツ民族の血の純潔を叫ぶとき、そのドイツ人に悪質者があるといふ事は一つの矛盾であるからである。悪質者の増加は一般體位の低下を來たすのみならず結局は人口の減少となるからである。

人口の増加といふ事は正しい人丈夫な人賢い人の増加でなければならぬ。殺人放火さうした犯人の存在は少からぬ人と物の損害になり、さらに警察も裁判所も刑務所も大もの入りである。馬鹿も困るが氣狂ひは爲めに保護監禁する人を必要とする。さうした人たちの増加は却て二重に三

重に人口の減少損害と同じ事になるのである。

世間では斷種が性慾不能になるやうに誤解する人がある、交接能力と生殖能力とはちがふのである。交接能力をなくするのは去勢であり、斷種は生殖能力をなくするので性慾までなくするのでは無い。又斷種といふとなんだか大げさな手術でもするやうに思ふ人もある。それは女子の輸卵管なり男子の輸精管を切るので極めて輕微な手術であり、又は放射線照射などによる方法もある。それで斷種手術といふと男子に對しその種を斷つ、不妊術といふと女子に對して妊娠せぬやうにする、いづれも一方に偏するやうであるから優生なる語がよいといふ意見が多い。

### 中 現に附議されてる優生法案

今回政府から諮問に附しての優生制度案の要綱によると、大體適用をうける病は遺傳性の精神病とか精神薄弱俗に痴呆といはれるもの、その他強度且つ悪質な病氣又身體の疾患とか畸形などで、手術を行ふには本人なり又配偶者親權者さらに精神病院少年教護院矯正院刑務所等命令を以て定められたる者の申請をまち、中央又地方の優生審査會の審査により決定される事になつてゐる。更に法案の中には何人を問はず生殖を不能ならしむる爲の手術又は放射線照射は之を受け又は之を行ふ事を得ざる事とし、之にそむく者は手術せる者もうけし者も三年以下の懲役又は三千



圓以下の罰金に處せられる事になつてゐる。といふのは近時避妊せんが爲めには手術を求め又さうした手術をする醫師も少くないので此機會に之を取締る事にしてある。つまり一面には健全なる素質を有する國民の減少、及び不健全なる素質を有する國民の増加を防止し、民族の優生を期するを目的としてゐるのである。

海外では北米合衆國など四十八州中三十二州まで優生法の實施を見、その中で強制が十八州に及んでゐる。ドイツでは千九百三十三年七月に制定を見たが病質により任意と強制に分たれ、斷種の外に去勢をも認めてゐる。翌年末までに

	申請數	斷種可決數
男	四二、九〇三	二八、二八六
女	四一、六六二	二七、九五八
計	八四、五二五	五六、二四四

といふ數字を示してゐる。

### 下 癩は傳染病なり遺傳ならず

さらに付け加へて置きたい事は癩病である。此病は傳染病であつて遺傳でない。しかし世間で

は皆遺傳にしてしまつてゐる、多くの外國では癩の患者を全部隔離してしまつたから、それらの患者の死亡と共に癩病が絶無になりつつある。中にはもう實驗材料が無くなつて困るといふ國もある。そこになると日本は驚くなかれまだ二萬位の患者があり、實驗材料は頗る豊富である。春先は患者の多くが四國廻路の旅をつづけてゐる。癩患者の浮浪人は大都會地にでも白晝横行してゐる。現に癩病院に收容されてゐる子供たちの半以上が傳染であることを思ひ、又癩患者の子供でも生れるとすぐ隔離し未感兒童として立派に育て上げられるを見れば、癩の傳染病である事は疑ひもなく又初期であれば大楓子油により全治する事もあるから、不治の病遺傳の病甚しきは天刑病などといはれるのは氣の毒千萬な話である。それだけに小泥棒でも刑務所に收容しておまんまを喰はしてゐる事を思へば、癩の患者の隔離收容はあらゆる角度より見て之を隔離し精神的にも慰安の道を與へ、せめてはその餘生を平和におくらしてあげたい。同時に現在遺傳と思ひあやまられてゐる爲め世間を狭くしてゐる、患者の家族親族は氣の毒千萬である。尤も癩病も梅毒と同じく重病患者の婦人が受胎すると胎内で胎兒が傳染する事があるから萬全を期する爲め重い癩病の婦人には又不妊手術をしても可なりである。

いづれにしても、吾等は一方には人の數を増す、一方には悪質者をのぞき全體の質の向上をはかる。それが時局に直面してゐるだけ一層その急を見るものである。



## 癩と社會問題

### 一 優生制度案と癩疾患

我等は數十年筆に舌に癩の傳染病であるといふ事を力説してゐるが存外に効果は薄い。貴族院における軍事援護に關する法案の特別委員會席上に於て出征兵士の中に癩が発生した悲劇につき、之が善處策につき當局と質問應答を試みた。事實凱旋しても發病しては歡迎の人たちに顔が出せない、というて戰死したとも病歿したともいへない、殊にそれが遺傳の天刑病といはれるだけに、問題は當人だけに止まらないのである。故に僕の質問には癩病は傳染病であるといふ事をかなりくどく話して、將來癩患者隔離の徹底について力説したが、もちろん醫師出身の當局の答辯には何等、それも無かつたにかかはらず、癩病につき素人である當局の答辯には矢張り癩病に遺傳々々といふ詞がからまつてくる。それだけに一層、癩の遺傳で無い傳染病であり、隔離の徹底を必要とする事を席上で縷説した。

今厚生省の國民體力審議會に民族優生制度案要綱が諮問されつつある。その第三項目に

癩ニ罹レル者ハ本制度ノ規定ニ依リ斷種ヲ行フコトヲ得ルコト、但シ斷種ノ申請ニ付テハ命令ヲ定ムルコト

とあるが、第二項目には

左ノ各號ノ疾患ノ一ニ罹レル者ハ其ノ子又ハ孫ガ醫學的經驗上同一ノ疾患ニ罹ル虞極メテ大ナルトキ本制度ノ規定ニヨリ斷種ヲ行フコトヲ得ルコト云々

とあり、遺傳性精神病をはじめ、五種の遺傳性疾患をならべてある。だから玄人を見ると癩は此種の遺傳疾患と別にしてゐるから差支はないと思つてゐるであらう。

又法律家は第一に

本制度ハ専ラ遺傳的疾患ヲ防遏シ優秀ナル民族素質ヲ保護スルヲ以テ目的トスルコト

とある。「専ラ」といふ字にお目をとめられたい遺傳的疾患のみに限らないと云ふかも知れないので、かたがた僕は癩患者の子供は受胎中又生れてから傳染の機會が多すぎるから、必要に應じ斷種するといふ事に異議は無いが、此法案がこれから屢々問題にのぼると、既に既に癩は遺傳とのみ思ひ込んでゐる大衆に、更に遺傳であると太鼓判を押して裏書きする事になる。之は何んとか處理してくれねば困るといふ事を一言した。



事實今でも癩は遺傳だとして八百屋駄菓子屋の主人が菓子や青物を指の無い手で平気で手渡しする、又平気で受け取るのだから物凄くも亂暴すぎる。

## 二 癩は傳染病—遺傳でない

なぜ我等は癩の傳染病であるといふ事を、廣く民衆に認識してほしいかといへば、傳染病と分ればさうした患者を全部隔離するといふ事も存外早く實現され、日本から少しも早く癩患者を根絶しうるからである。癩病は俗に天刑病といはれる、カツタイといふ俗稱もある、恐らく四百四病の中でこれほど精神的に肉體的に残酷な惨な病氣は無い。しかもこれがインフルエンザなどのやうに傳染力は強くは無いが傳染病である。しかし遺傳である「すぢ」であるとあきらめられてゐるので、さうした患者は家族と共に家居することが世間體で許されなくなり止むなく家出してお通路などに廻はり、至るところに放浪生活をおくる。現に大阪に約千人位も居つた事がある。二千軒の錢湯には二軒に一人當りといふ事になるのである。僕はいつも口癖にしてゐるが五圓か十圓の金を盗んでも窃盜の罪にははれる。犯人は警察や、裁判所に少からぬ手数をかけ、さらに立派な刑務所に收容してくれて朝夕おマンマを喰はして貰つてゐる。その五圓や十圓の金をとられる事にくらべて、癩にかかるといふ事はいかに残酷な手重い苦痛であるか。精神的に命とりで

ある、それから肉體の命も亡くなるがそれもすぐは死なしてくれない。長い間人交はりの出来ぬところで悲痛極まる生活をつづけ、多くは失明となり、更に喉頭切開といふ關門までくぐつて結局息の根が止まるのである。さうした病菌を持つてゐる者が白晝乞食などになつて放浪してゐる。又は通路の旅をつづけてゆくのである。之をしも等閑に附してゐるといふ事は政府も政府なら一般民衆も民衆である。くどいやうだが、も一度傳染病である事を實例で披露して見よう。

千葉縣の銚子在で通路の癩患者が一夜の宿をと泣きついた。癩は「すぢ」で、うつるもので無いと信じてゐた慈悲深い主人は患者の爲めに裏の納屋の片隅をあてがつた。二年たつてその患者は亡くなつたが、その陰徳に酬いられたのはそれから四年を経て主人の六歳の双兒が相次いで癩の發病となつたことである。

又丹波の大江山の在で九人の子供を抱へた後家さんは三番目の子を鍛冶屋へ奉公に出した。その鍛冶屋には癩患者があつたが、癩は遺傳と信じ安心して奉公に出したのだが、三男が實家にかへると發病する、次の娘も發病する。びつくりして二人をつれて四國通路に出る。歸つて見るとその又下の娘がかかつてゐる、順々に傳染してたうとう自分も感染する。一家九人中隣村へ養子に出した一人を残して全部癩になつたといふ事である。



### 三 癩患者の願ひ、癩の國日本

僕は村山の全生病院へ出かけて、癩少年のボーイスカウトの歓迎をうけた時、この少年、罪のないとけない子供の七割までが傳染したのだと聞いた時に、これは何んとしても傳染病である事を廣く認識して隔離の徹底を期したいと思つた。さらに療養所の患者とても昔は家族から逐ひ立てられてさまよひ出たものもあり、又世間から忌みきはれ同情の無い扱ひをうけて、かなり白眼を以て反抗し、家族や世の中を呪つた事もうなづかれる。

患者の希望はどうかといふにいづれも癩病は遺傳で無いといふ事を汎く世間で認識してほしいといふのである。それは「すぢ」だといふのでは家族との音信も思ふやうに出来ないといふ心細さばかりで無い、癩が遺傳であり「すぢ」であると誤認されてゐる爲、いかに家族や親類がいひ知れぬ悲しい辛い苦痛をなめさせられてゐる事か。どうかさうした苦しみから家族や親類を救ひ出したいといふのである。さうした患者たちの願ひを聞いて私はさらに此不幸なる患者の隔離收容の徹底を急なりと深く心に念ずる事となつたのである。癩は傳染病である、故に癩の患者は之を收容してしまつたなら、その患者が亡くなると共に全然患者は種切れになるのである。それだけに英佛獨はじめ北歐諸國ではもはや患者は百人以下となり、中にはもう患者が種切れにならな

とし、研究材料が亡くなると困つてゐる。そこへくると日本は資料極めて豊富にして支那印度に次ぎ世界第三位になつてゐる。誠に盛んなりと言ふべしである。公稱一萬五千人前後であるが、實数は倍以上にもならうから研究材料としては多すぎる。一日も早く癩患者は收容する、少くとも病菌携帶の放浪者は全部隔離する。さうでもしなければ、不幸なる患者は日本の國に絶えな

### 四 癩療養所に對する註文

現在では一部には療養所を誤解して忌避する患者があり、又誤解せずともさうした窮屈なところよりもと放浪にあこがれる者がある。中にはかつての琴平のレブラギヤングの一團の如く不良のあつまりで、二三名の妾を抱へてゐる團長もあつた。殊に癩病特效薬とふれ込んでポロイ金をしぼりあげる、それには又御用をつとめる癩患者がサクラになつて一面では薬の効能をとき、一面では療養所の悪口ばかり嘘八百ならべ立ててふれ廻はる。さうした事で收容の要ある患者にして收容し得ざる場合も少くない。

その又内容に立ち入れれば癩の患者の中にはおとなしい害にならぬ邪魔にならぬ者が大部を占めてゐるが、時には平和を害する不良な者も無いではない。それだけに癩者の爲めの刑務所も必要



であるが……朝鮮小島島では癩患者の刑務所もある……猶不良癩連中もその他の連中と差別する  
要がある。さうした連中は療養所から脱出したがる。又在所してゐても役員や患者仲間を手古す  
らせる事が多く、療養所の平和からいへば出てほしい連中である。又さうした連中は浮浪してゐ  
ても警察でも迷惑がり敬遠したがる氣味もある。それだけにさうした連中を特別に收容する設備  
も考へられる。

又現在の公立国立の別は一向に意味をなさない。いやいづれかといへば事務をとるものさらに  
患者たちまでなんとなく公立の方が一段下風に立つやうな感じを興へて面白くない。之は問題な  
く一律に国立療養所とすべきである。又私立の療養所は草津のバルナバ病院、駿東御殿場の神山  
復生院、熊本の回春院も待勞院も、いづれも基督教徒それも外國の宣教師たちの篤志のもとに救  
護されて來たもので、佛教に至りては前後只一人綱島龍妙師の深敬病院あるのみといふのは耻か  
しい次第である。近頃何事にも日本は世界一とか第一線に立つとか第一位にありとか誇稱されて  
ゐるが、癩患者が歐米列強に比し斷然桁ちがひに多すぎて遙に冠絶してゐるなどは感心しない。  
どうか一日も早く療養所を増設して此不幸なる患者の凡てを收容し、その患者の死亡と共に日本  
から癩病を根絶してしまひたい。さうして日本の方から支那や印度や南洋や南阿南米方面まで遠  
征して、其地の患者の救護に迄進出する日の遠からざる事を切望する。(科學知識、十四年十二月號)

### 歌人明石海人と看護婦和久井さん

#### 上 癩者の遺詠

盲ひては幾年ならむ明暮を

己が顔さへ思ひ忘れぬ

わが癩の極るらしも酸き甘き

舌の味さへ日にうすれつつ

日の暮に語るを聞けばうつし世に

浴ゆするてふ慣ゆるひもありき



髯を剃りシヤボンをつかひ背を流す

なべて他界の記憶の如し

歌集「白描」以後にうたひし癩者故明石海人が遺詠二十餘首の中からぬきいでし歌であるが、岡山縣長島の愛生園に三十九歳を一期として、まさしく浮世をあとにした故人とその歌集「白描」につきては、近刊短歌研究にかなり精しく筆にしてあるからここには省略する。

僕は故人が熊本の療養所に亡くなりし島田尺草と相ならんで癩者として短歌界に其第一步を印し不朽の名を長へに残す事がせめてもの心やりであるといふ事を筆にしたが、故人の遺詠の中に

癩は君に幸せりと人の云ふに

病みて歌のいくつはありとも世の常の父親にこそ終るべかりしか

といふのがある。長い間業病と戦ひつづけた精神的のかなしみ肉體的のくるしみを思へば左もこそとうなづかれる。しかし既に業病にかかりしからは、それが明治大正昭和の御代であり、かたむよ天刑病よと世の中からさいなまれずに明石病院以来の大野先生の肉身の母に代りての世話と病友達の兄弟に劣らない看護により、故人は安らかに天國に歸る事ができたのである。しかも

歌道に入りて自からなぐさめられるばかりか、歌集「白描」を長へに残したのである。されば遺詠中六月九日に亡くなりし故人が五月中によみいでし次の如き絶味四首がある。

夏はよし暑からぬ程の夏はよし

呼吸管など忘れて眠らむ

起き出でて寝汗をぬぐふひとしきり

水鶏の聲は近まさりつつ

梅櫻つつじいちのはつ矢車草

枕頭の花に年たけむとす

起き出でてさぐるしびんのまへうしろ

かかるしぐさに年を重ねし



昔から法悦といふ詞があるが、ここにまさしく歌悦に入りし故人のおもかげがしのばれるのである。癩者が受ける關所が三つある。最初が病の宣告であり、次が失明であり、最後が喉頭切開である。喉頭切開三年といつて喉頭切開をやり呼吸管によりて辛うじて呼吸をつなぐときは長くとも餘命三年を越えずといふのである。

### 中 明石海人の臨終

同じく失明せる病友にして又歌の友なる長野節雄氏の故人を思ふ一文をよむと次のやうな一節がある。

昔の明石さんを知つて居る者も少ないが其の晩年を知つてゐる者は少ない。それには多くの原因があげられるが晩年の數ヶ年と言ふものは、所謂藝術三昧境とでも言ふか、殆ど常人には近づき難いと見えた。其の頃は既に盲目になつて居り、毎日床に就いて居る程健康の方も衰へてゐたので、人の處に遊びに行く様な事もなかつたし、偶々人が遊びに來てもいつも書記を相手に勉強をして居るものだから、ゆつくり話しこんで行くと言ふ様な事が出来る筈もなかつただらう。兄の私生活、附添や書記の代筆代讀、其の他身邊の煩はしい雜事一切を引受けて、全く獻身的に、最後迄やり通して呉れた松村兄でさへ要談が濟めば、すぐに引上げ

て終ふと言ふ風であつた。

いかに故人が見えぬ眼に語る事さへ苦しい不自由な境地にありて、歌の道に精進し歌の道に心魂のかぎりをささげ、歌の道に救はれてゐたかといふ事がうかがはれる。その文のつづきに、

明石さんは靈の不滅を信じない人であつた。それでは淋しいでせうと言ふと勿論淋しい、夜中に獨り眼が覺めて、子供の事、母の事、妻の事、等考へてゐると苦しくなつて來る、じつと寝てゐられないので、床の上につき上つてゐると、油汗が染み出て來る様な事も度々である。「精神的の苦しみが、肉體に及ぼすものも随分強いものだ」そんなことをよく云つた。それ程に思ひ乍ら醜い病氣の身體を見せて嘆を與へてはならないと思つた明石さんを憶ふと、自分勝手な事許り考へてゐる私などは、只々頭が下る許りである。

寡言沈黙殊に人前で厭世的なことを云ふ様なことは決して無かつた明石さんの、心の奥の悲痛な叫びは、歌や詩の上のみ表現された。かうした人であつたから、現世に對する執着は強かつた。本人の口からもよくそんな話を聞いた。それだのにいよいよ死期が迫つた時の從容たる態度は、眞に敬服すべきものがあつた。未來を信する人ならともかく、此の世限りに、すべてが終ると信じてゐる人が、あのいううたる態度、それこそ眞に海人の海人たる所以ではあつた。



此一節をよむと故人の遺味の中なる

夢ぬちの夢にささやきうつつなく

ものを言ふこそわりなかりけれ

面會に來よと我言ふ身の果に

老づく妻が聲を聞くべし

の二首がしのばれる。

### 下 女神和久井さん

さらに一文の末つ方に次の如き記事が見える。

それからすつと調子が悪くて咽喉切開に至つた。然しいよいよ補助看護がつく様になつた時に、御世話出来ることも、せめて寝ずの番だけでもと思つて、一夜を枕頭に當直する事が出来たのはせめてもの慰めで其の翌晩が最後の日であつた。補助看護と云つても私と妻は唯寢

ずの番をするだけで、用があれば附添の和久井さんを起した。馴れない妻の手などではとても用が足せない程重症だつたからである。それでも耳元に口をよせて來意を告げると「有難う有難う」と靜かに答へて呉れた。呼吸管の奥でかすかに、然しはつきり聞えた其の聲が、私が聞いた明石さんの最後の聲だつた。妻の話によると「和久井さんの看護振は真に至れり盡せりで、呼吸管に痰がつまつてゆつくり掃除が出来ないと見ると、自分の口を明石さんの呼吸管にあててつまつた痰を吸出してやつたりした」さうである。時に人に誤解された明石さんにかうした真心を示す人があつた事も、眞の明石さんがどんな人であつたかを知るに足るだらう。

このところまで読んでくると眼頭があつくなくなつてくる胸が一杯になつてくる、和久井さんは患者の呼吸管がつまれば鳥の羽根でやるのがもどかしく、自分の口で吸ひとつたのである。光明皇后のふる事はここに申さん事もあまりにかしこし。和久井さんの記事は涙なくしては讀めなかつたのである。僕はかねがね癩療養院に見舞つては業病にかかりし不幸なる兄弟を思ひ、又そのあはれなる人々のために身を挺してゐる醫師看護婦などの尊い行跡を見て、見舞どころか自から教へられるところが多いといふ事を、いつもくどくど口にし筆にしている。

恰かも七月號のMTL (Mission to Lepra) 誌に杉田鶴子さんの「癩と女醫」なる一文がある。



小川正子さんの「小島の春」が多くの心ある人の胸の扉を叩いたが、そこには服部けさ子、三上千代子、西村つぼみ、五十嵐正子、松田よし子さんたちの尊い救癩の業蹟があるといふ事を語つてゐる。恐らくまだまだそこにかくれたる尊い人たちが少くない事と思ふ。僕は「小島の春」にも「白描」にも因縁を持つるので既にそれぞれ筆にした事であつたが、今和久井さんの看病の記事を見ると、更に之を筆にせずには居れなくなつたのである。

世の中は廣い無常である千差萬別である。かうした癩者又癩者を救ふ人たちの世界もある、どうか一顧を與へてほしい。

此時局が生むくさぐさの悲劇もあらう生死流轉もあらうが、かかる世界のある事を思へば又何かあらんと頓悟一番すべきであると思ふ、ここに、明石海人の續篇として和久井さんを紹介する次第である。(二四、八、四)

愚痴を云ふ人不平をもらす人は癩療養處に行け。さうして世にも不幸なる患者を見よ、その患者の爲めに身をささげていそしめる醫師、看護婦を見よ。

## 阿片とコレラ

南支廣東は人口百二三十萬人と稱せられてゐたが、皇軍占領の當時は残れる市民わづかに五萬人にすぎず、それが今は七十萬人から八十萬人位になつてゐる。

奥地とすつかり斷ち切られてゐる廣東として七八十萬人の人口は既に飽和點以上であつて、廣東の平和克服の状態がうかがはれる。

それでもまだ安心がならぬといへば、廣東で占領早々蛇の道はへびで通貨問題は正金の連中に一任したからであらうが一面軍票を發行しながら、法幣も省發行の紙幣も香港ドルもみな流通を認めたのであつた。無論はじめのうちには軍票の方が法幣にくらべて歩がわるかつたが、この一月ごろから軍票百圓に對し法幣は百十ドルとなり、昨今はさらに百七十弗から百八十弗まで下落した。上海で法幣が下落したがそれでも軍票に對し百十ドルであるが、之にくらべて廣東では軍票の相場が馬鹿に好い、それで奥地へも通用する、軍票で奥地より仕入れた品物、たとへば昨今



月に四五十萬圓位の絹物が輸出されて、なにがしか外貨獲得となつてゐるのだから話が相當旨すぎるといつてよ。

さうしたやうな事情で、廣東の人口が今七八十萬人になつてるといふが、その數字は日本總領事館より交付されるコレラの豫防注射證明票の交付數により、大凡見當がつくといふのである。廣東には僕が臺灣在職中に設けられた博愛病院がある、そこでは約五六萬人に注射したが、あと六十萬人前後は軍の方で強制的にやつたのである。逃げ廻はつていやがる市民を逐つかけて、片つ端から注射を強行したのである。誠に痛み入つた親切と申すべきで、さうまでせずとも思ふ位であるが、潔癖な日本流博愛な日本流で、市民の凡てに豫防注射を強行したのである。さうした事は北支にもあつたので親切も度をすぎるといふ評判まで立つた、注射をいやがる市民の間に日本軍が豫防注射と號して藥液をさし込むと、すぐ病状は現はれないが三年以内には命がとられるのだなどいふ評判まで立つ、一方で逃げ廻はる市民があれば、一方でさうした市民に注射済みの證明票を賣りつける爲め、商賣づくで三度も四度も注射をうけて斃れた市民もあつたとやら。いづれにしても相手がいやがらうが迷惑がらうが、我が親切は至れりつくせりで、爲めに香港ではコレラが一日に百人二百人と發生するが、廣東では十人二十人しか發生しなかつたといふのである。

僕がさうした事をここに書き立てるのは、その香港はどうして英領となつたかといふ事である、廣東へ持込みし阿片焼きすてが原因となつた阿片戦争の結果である。人間の健康を削ぎ壽命を縮むる阿片を押しつけて、償金と號して大金をとり、香港も割き取つたのである。支那四億の民衆は阿片の爲め約百年前から長い長い將來に通じて、いかに心身を蝕ばまれつつあるか、今さら古い歴史にさかのぼりて、他國の舊惡をさらけ出すのもいがかと思ふが、阿片の害は現實に根深く將來にわたりてしみ渡つてゐるのである。

阿片とコレラ、彼を思ひ是を見れば萬感の胸に迫るものがある。今日岡崎廣東總領事の廣東の話を書くがままに、その談片を披露する次第である。(二四、八、二二、朝風莊、弘道)

日本では鹽酸モルヒネの中毒者は約百人、カルモチンの中毒者は約二千人、アダリンの中毒者は約五百人である。(昭和十二年)



## 厚生茶話

此小包一つ何某のところへ届けてくれといふ。一里足らずのところでもかなりおくくふである。しかし二里三里でも気軽に散策は試みる。五里六里の坂道へ杖をひく。富士山、御嶽、白馬、鎗、穂高、頼まれもせぬに汗だくでうんうんなりながらよち登る。

同じゴルフコースをプレイしても、二百ヤード飛ばしたボールのあとを逐ふ時は足の運びは忘れてる。それが見當外づれに飛ばした爲め草原の中をあちこちとボールをさがし廻はる、俄に草臥れを感じる、ボールはどうしても見つからない、ロストボールときまつて元打つた場所まで戻るときは、五十ヤード位でもとても長く感じるのである。

氣の持ち方一つで氣輕くも感じられる氣重くも感じられる。そこに氣の持ち方いや持たせ方がある。

いはゆる厚生といふ事も何も今日此頃はじめて歐米から輸入した舶來品ではない。日本にも昔

から劇もある音楽もある舞踊もある。相撲もある。競馬もある。くさぐさのスポーツもあつた。お伊勢詣りもある。琴平詣りでもある。大峯山上もある、富士登山もある。日光に善光寺に、宮島に松島に、三十三ヶ處八十八ヶ處至るところ靈場めぐりもあつた。鎮守の祭りもある、盆踊りもある。問題は文化の發達に伴ひ時勢の推移によりいかにさうしたくさぐさの催しが時と共に動いてゆくかといふ事である。要は同じ仕事振りも同じ餘暇の使ひ振りも、それを精神的に肉體的に面白く楽しく朗かに愉快に運んでゆきうるかといふ事にある。

ドイツでは労働美化といふ事を旗印にして、より健康的なより安全なより愉快な明るい工場をつくるため、酒保、休息室、廣場、浴室、洗場、更衣室、運動場、水泳プール、食堂、集會室、洗面場、圖書館、地上並に屋上の庭園、椅子、照明、曰く何曰く何。清潔に美しく明るくするために一年に二十億マルク以上を工場美化に使つたといふ。要はよりよく能率を上げるにある、より愉快に健全に仕事を運ぶにある。

音楽や劇に興味の深い歐洲にして、シーメンスの伯林工場の九割弱の男工八割強の女工はまだオペラを見た事は無い、六割強の男工七割強の女工はまだ劇を見た事の無いといふ事がしらべ上げられた。それからベルリンの七劇場は新に體位向上團體だけを相手にして絶えず開場される事となつた。列車による移動劇場と二十五輛のトーキー車はドイツの模範音楽並に文化を寒村僻地



にまで運んでゆく事となつたのである。

\*

イタリーでは愛劇組合ができる、見物だけでない各自もアマの劇をやる。地方に州に全國に競演會も催される。七百平方メートルの舞臺觀覽席を二三時間に組み立てうる道具と三百五十人の座員を運ぶ八輛連結の貨車は國內を巡演する、一年の上演アマチュアの分だけで三千二百回に上つたといふ。

更に労働者の休養となり同時に常識と趣味の養成に役立つのは旅行である。日本の今までの旅行は金と時を使ひ過る、かなり脱線する嫌もないではなかつた。ドイツの旅行部では旅行の延回数一年五百萬を超えるといふ。十五萬人近いのが百回以上大洋航海を試みてる。極めて安價に旅行の効果を百パーセントに上げてゐる。東京でオリムピック大會開催の議がきまると、二萬五千噸の船が六隻新造され、二萬人の労働者が日本へ旅する事になつてゐたのである。一人の旅費は僅に四百マーク労働者はまだ見ぬ極東の夢の國にあこがれて、楽しい希望に充ち光明を仰ぎて働きかつ貯蓄してゐたのであつた。

要は楽しく愉快にリクリエートされるといふ事である、希望に充ちて仕事する働くといふ事である。能くつとめ能くあそぶといふ事である。之が能率をあげる、しかも各自の精神力體力を長

く強く向上してゆくといふのである。かうした點ではムツツリーニ首相もヒットラー總統も政治といふ事が分つてる。人心を把握するといふのが政治のコツであり又厚生のコツである、いや厚生も一つの政治である。まあ以上筆にしたやうな心持ちを名古屋の厚生大會壇上に立つて述べたのであるが、さてここで新國策の誌上に筆にすると、どうしても五、六行つけ加へておかななくてはならぬ事がある。

それは人心の把握といふやうな事は日本人には不向きであるといふ事である。朝に野に武に共に然りであるが、お役人方に一層不向きな度合の濃厚である事はいふも管である。官僚獨善とか何んとかいふさうであるが、とかく草書どころか行書もかけない、その又楷書がごちないのだから、かりに他國の例を襲うて見ても、いつも蠟をかむやうな儀禮挨拶で固めてる日本では何事もほんの型ばかりで味も色もつやも抜けてゐる。すべてのまつり事は只窮屈に堅苦しく、四角四面に重箱の隅までつつき廻はしてゐる。どうしたら不愉快に憂鬱に澁面してやれるかと折角苦心してゐるらしい。内地猶然かり、同じ寸法で外地に滿洲に支那にまで折角痒くないところまで手が届きすぎつつあるのである。



## スポーツと戦闘

### 上 イートンの校庭

ウオータルーの大勝はイートンの運動場により得られたといふのはカンベルの有名な詞であるが、それはウオータルーばかりではない。過ぐる歐洲大戦に於ても英國の精銳は、イートンの校庭より出でて、戦場に勇ましくその名聲をあげたのである。

僕のイートンの校舎をおとづれたのは、大正十年の晩秋であつたが、英國の長い傳統のシムボルとなり、あらゆる朝野の名士を輩出せるイートンの校舎にはまだ電燈がない、古い蠟燭立が昔のままに使はれてる。教場の柱はネルソン提督の武勇傳に知られたるトラファルガーの英西海戦の折のスペインの軍艦インヴァンシブル・アルマダの艦材によりて造られたと傳へられてる。教場内には生徒をむち打つ竹箒もある、懲罰として起立せしめられる臺もある。さうした硬教育を受けた英帝國上流家庭の生徒達は、講堂の戸板に手づから卒業紀念としてそれぞれに己れが名を

刻んである。そこにビット、グラッドストーン、ローズベリー、シェリー、フォックスの名も見えた、近くはカーゾン、バルフォアの名も刻まれてある。

歐洲の大戦には義勇軍として英國の議會からも出征の議員があつたが、イートンの學校からは約六千人の校友生徒が出陣の帳簿におのが名を録し、黙々と大陸に渡つたのである。戦死せる者前後約一千人、さうした勇士の名は校庭の廊下の壁に刻まれてある。日本は長期抗戦と建設に直面し、體力の振興が一層その急をつけつつある。しかも非常時で物資の統制は運動用具にも大きな影響を與へつつある。ここに資源の愛護、國産の奨励、輸出の増進、代用品の研究さうした目的を以て大日本體育協會は、丸之内商工奨励館内に運動具愛護展覽會を開催することとなり、四月の二十八日に開場式が舉行された。場内を巡覽せる折、蹴球部に長文の宣傳文が記されており、その始めの文句にウオータルーの大勝はイートンの運動場よりとあるのを見て、僕は曾遊の思ひ出を呼びかへしたのであつた。がその文句のあとにサレー軍の突撃蹴球戦の記事がつづいてある。それは次の如くである。

### 下 サレー軍の突撃蹴球

一九一五年全英蹴球選手権大會決勝戦に臨場した募兵統監ダービー卿は、



諸君ハ優勝盃ノ爲又御五ノ爲ニ「プレイ」シテ來タガ、今ヤ大英帝國ノ爲ニ御五ニ「プレイ」スベキ時ガ來タ。

と宣言した。しかしそれは單にスポーツ精神を戰場にも發揮すべしといふ意味に止まらなかつた。事實蹴球をプレイする青年たちの義勇兵に加はりし者は多かりしのみならず、それらの青年は戰場を蹴球のグラウンドと心得、彈丸雨飛の中をプレイしつつ奮進したのである。

蹴球青年の多きを以て有名なりしは、ミッドルセックス及び東サレーの聯隊で、いづれも Fororballs Battalion の名を冠せられてゐた。此等の聯隊の將士は疲勞した時もボールをキックして疲れを回復したのである。退屈した時もボールをキックして無聊を慰めたのである。さらに敵陣に突撃するに當り、砲彈の散らばれる戦ひの野は蹴球のグラウンドとなり、蹴球のボールが襲撃の先驅となつたのである。ロイターの通信員は東サレー聯隊の蹴球による敵軍突撃につき次のやうなニュースを送つてある。

コンタルメーゾンの獨逸塹壕襲撃に、某中隊長は各半小隊に一つづつ四つの球を與へ、該中隊に一マイル四分の一の距離をドリブル競争により獨軍へ突進すべく命令した。命令を受け取つた各半小隊長は直ちに塹壕の上に現はれ、ボールをキックオフし、ここに死線を越ゆる試合が開始された。勇敢なる中隊長は襲撃の早期に名譽の戦死を遂げたが、多數の勇士は彈丸雨飛の中に機

關銃口の標的となり、相次でボールのあとを追うて突進する、ボールは前方へ次ぎ次ぎに飛んで獨逸軍の硝煙の中に消えてしまつた。

それからは手榴彈と銃劍による白兵戦がつづいた、遂にサレー軍は敵軍を掃蕩し凱歌をあげたが、さて球の行衛はどうなつてゐるか、敵陣の中をくまなくさがし、占領せる横牆の中から二箇のボールが発見されたのである。

當時サレー軍の獨軍突撃蹴球戦につき、デーリー・メール紙には次の如きタソチストンの詩をのせてあつた。

勇敢なる戦友の續々と斃れ血しぶきは瀧津瀬の如く注ぐ。殺戮叫喚の裡に彼等は血に塗れたボールを押しすすめる。彼等の前には恐怖ものかは祖國愛に燃えてサレーは試合を争ふ。

ロンドンのテームス河畔キングストン聯隊本部では、毎年紀念日に官民を招待する。その會場ではコンタルメーゾンの陣地に於てキックオフされた二箇のフットボールは、主賓として議長のすぐ前の席の臺上に安置せられるならはしになつてゐる。

かうしたスポーツ精神は當時英國に限らず、獨逸軍側にも英佛伊軍側にも數多くあつた事と思ふし、又英國の士氣が當時と今日と相同じきや又かはつて來るかそれも分らないが、たまたま展覽會場に見るところを紹介する次第である。(文藝春秋)



## 日本一健康児

少々話が堅くなる。

双葉山は又全勝した、強い。しかしあれまでになる双葉山の長い間のかくれた苦勞は買つてやらねばならない。人氣の立つてる角力取りが、積極的にみつしり稽古をはげむのはもちろんである、しかし同時に消極的に酒に女にバクチ、さうした數々の誘惑から身を引きしめてゆく事は、何んでもないやうで何んでもあるのである。

此前の將棋の名人獲得戦で最後に残つたのは木村花田の兩八段であつた。木村八段の勝ちとなつて、ランキングでは花田八段はまさに第二位となつたのである。然るに本年の名人への挑戦に選抜さるべく、オール八段が決戦してゐるが、花田八段は第一回戦で失格してしまつた。これにはたしかに花田八段の健康といふ事が原因をなしてゐるに相違ない。同時に木村名人は體質が丈夫であり、又平素養生のよいといふ事を見のがしてはならない。

ゴルフ界で今年のオールアマチュアは、新進久保田三好が評判に上つてゐた。しかし既に二回優勝をつづけてる強豪佐藤儀一選手の王座は揺がないであらうといはれてゐた。ところが年少ではあるがかなり古い、しかし勝味のおそかつた原田二世が、躍進して見事佐藤に砂をつけ優勝名乗りをあげた。

原田二世は弱くはなかつたがしかし今までは一向に芽が出なかつた。然るに此度斷然躍進したときに、我等は彼れが千葉縣松戸在なる藤が谷ゴルフコースのクラブハウスへ一と月ほど前から泊り込み、連日精進潔齋血の出るやうな猛練習をつづけた事を見のがしてはならない。

此度朝日新聞主催の全國健康兒童表彰會は過日その第十回の式をあげたが、健康兒童の成績が一年と新しいレコードをつくり上げてゆくところに、我國將來の第二世に對し、邦家のためいひ知れぬ喜びがある。小學六年生の兒童で今年の女子日本一となつた兵庫縣魚崎の山田和子（十二歳一ヶ月）さんは第一回の日本一とくらべると次の如き相違がある。

	第一回	第十回
身長	一四九、五〇釐	一五七、三釐
體重	四三、五〇斤	四八、〇斤
胸圍	七三、五〇釐	七五、〇釐



座高	七九、一〇厘	八五、五厘
走力	八、二秒	七、二秒
跳力	一、九五米	三、八五米
投力	一五、七〇米	二三、四〇米

かうした和子さんの體位も、只偶然に出来上つたものではない。無論素質もよいには相違ないが、何よりも母親の子供の育て方に並々ならぬ苦勞があつたのである。和子さんのお母さんは次のやうに日本一の健康兒育て上げの秘訣を話してゐる。

「産湯をつかつた時の體重は九百五十匁でした、育兒法は書物をあさりましたが、錢湯で同じ年恰好の赤ちやんを見つけては、そのお母さんから着物の厚さや食物のことを教はり、あの娘の六つころまではこの經驗に學ぶお風呂知識で育てました。」

それから  
「離乳期にうつかり風邪を引かしましたので、その後は乾布摩擦をはじめ、今では毎朝冷水摩擦をさせてゐる。」

こんな事は百も承知といふかも知れないが、この一事だけでも勵行するといふ事は容易でない。それから

「朝五時半の起床と九時の就寝を勵行してゐる。食事は夕食よりもお晝の辨當に御馳走をしてやります。おやつは軽いものまた學校から歸宅と同時に牛乳を一合與へます。魚肉類より野菜、海草が好きで、あまり淡泊すぎる心配から肝油を飲ませてゐます。學校へはお茶をつめた水筒持參で登校させますが、宅では御飯の際も生水主義で、就寝前も嗽ひをし齒を磨いてのち、井戸水をコップに一ぱい飲んでから休みます。芥子、山葵、胡椒など刺戟物は一切用ひず、果物は少しでも多くいただかせてゐます。お通じにとくに氣を配り、一々いはせることにしてゐます。」

どうです、これだけの心づくしの數々を見てこの中の只の一つでさへも出来てゐないのが世間並ではあるまいか、和子のお母さんの平常のなみなならぬ苦勞が積り積つて花が咲き實とみのるのである。誠やローマは一日にしてならないといふ。塵も積れば山となるといふ、軒滴岩を穿つといふ。古今東西おしなべて古い諺によくいはれてゐる如くである。

日本では乳幼兒の死亡率が、歐米のそれにくらべて約二倍に上つてゐる、今や數知れない若い人たちが戦地に出かけてゐる、爲めに内地の出産率が低下し、人口の増加率は著しく減じつつある。此際一層兒童の死亡率を減じ、さうして一層丈夫に育てねばならない。昨今僕はさうした氣持ちで一杯になつてゐるので、廣くみなさまの家庭に訴へるべく、此一篇を筆にして見た。(二四、七、二)



## 自動車漫語

時は東京大會會場の豫定地が外苑から駒澤にうつり、さしあたり鐵材の供給につき大藏商工兩省當路の方面へ運動をつづけてゐる頃の思ひ出である。

體育協會の事務所は虎之門滿鐵ビル内のオリンピック事務所の間借りをしてゐる。理事會の席上にて鐵材問題などにつき僕が當局へ顔を出すといふ事に打ち合はせたが、その日はとてもひどい吹き降り、風邪氣味の僕は自宅へ引きかへさうと思つたが、木戸厚相と用談の打合があつた。わざわざ時を割いて貰ふより、この日厚生省に簡易保險資金運用委員會が開かれる。さうした折に氣輕に顔をはす事は双方願つたりかなつたりである。とはいへ吹き降りはますますはげしい。とかく思案にあぐねてゐたが、たまたま瀬川昌世君が駿河臺へかへるから厚生省まで送りませうといはるるままに、歸宅の方を見合せ、瀬川君の自動車に便乗し厚生省へかけつけた。

會場に出席して見ると、そこに村瀬商工次官も見えてる石渡大藏次官も見えてる。いづれも時

節柄寸時の暇もなく忙殺されてる連中である。役所へ面會に押しかけると、待たされる當方も感心しないが、會議打合せうした最中から、時を割愛せねばならない先方としても迷惑千萬である。それがかかる委員會場で、いはばユトリのある氣輕な氣分の折に話し合ふ、まさに効果百パーセントである、御互に餘分な時間や手数を省き得たといふ消極的な満足も手傳はれるからである。同じ席上で石井勸銀總裁から駒澤の地所の問題につきいろいろとアドヴァイズを與へてくれたが、これ以てわざわざたづねてくれたり、わざわざ書信にしてまで傳へてくれたかといへば疑問である。丁僕僕の顔を見て思ひつくまに耳打してくれたのである。かかる委員會などに出席した時の副産物として有りがたい收穫である。まさしく瀬川君の車のおかげといつてよいのである。

\*

體協事務所が滿鐵ビルから東日會館に移り地理的に便宜を得る事になる。さらに知友の厚意により自動車を常用する事が出来る。なにかとその有りがた味が深く心に刻まれる。永井松三君のIOC問題前後には大藏省へかけつけて丁度石渡藏相の退廳がけを廊下にバツタリ遇つたときもある。厚生省で約束した體力局長もあまり時間がおくれたのではや退廳となつて、たまたま玄關口で岡田次官に出あふ。一緒に次官室へ引きかへした事もある。いづれも車のおかげにて危ないところで面會の間に合つたといふ事になる。



その前後の事であつた。國際文化振興會の岡部子樺山伯に面會の用が起つた、澁谷驛までのかへり路に岡部邸をたづねると不在である。それから同じく不在と覺悟されるが車の自由がきくので、大崎の樺山邸まではしらせる、ところがはからず在邸である。此時にも全く車のおかげであるといふ事が痛感された。

\*

こんな事をだらだら筆にする事になつたのは、六月の二十三日の一日に朝から八ヶ處めぐつたが、いづれにても日滿華競技會の話が話題に上つたからである。

午前の如水會館で鮮人問題につき臨時開かれたる人口問題研究會理事會に、關屋貞三郎君が近く朝鮮に出かけると聞き、京城にて競技が開催される場合を想像し、今までの交渉経過につき打ち合はせをした。

正午には日本俱樂部の拓殖大學評議員會にのぞむ。同校出身者が今盛んに滿洲に進出してゐるので話題として持ち出して見た。

次で大阪ビルの國策研究會における戰時國民生活委員會に於ては、たまたま厚生省の同人たち數名見えてるので同じ話題を投げる。

次で體育協會に顔を出して同じ問題を中心いろいろと打合せもする、手紙も數通したためる。

それから夕方の寄り合までの時を活かして興亞院まで車をはしらせた。

次で鐵道ホテルの日本旅行協會の總會に出席する、觀光局はじめ鐵道船舶にたづさはれる同人たちに又々同じ話題を持ち出す。

それから日本俱樂部の國語協會の寄り合に出席する。此度文部省から召集された臺灣朝鮮滿洲北支中支等の國語關係の人たちを、好き機會として招待したのである。食後の雑談に同じ話題に花を咲かせる。さて最後が夜十時近くなつての山田三次郎君邸への弔問である。山田君はその昔日露戰役直前白國ブルッセル市における留學生仲間である。平素は無沙汰がちであつたが此程山岸選手のデヴキス大會の外遊問題にふれ、君を旭ガラスの社長室にたづねた。それがはからず君と最後の面會となつたのである。

といふのは此朝俄かに亡くなられたのである。山田邸は青山の南町とわかつたが、いまだ私邸をたづねた事は無い。時刻も大分おそいがいづれお通夜でもあらうから、あのへんに行けばわかるであらう、いづれは澁谷へのより道でもあるからと、山田邸へむけ車をはしらす。

そこで話が分かれる。

今日の體協の事務所で同じ話題を中心に滿洲重工業の吉野信次君へ話し合つたらばといふ事でもあつた。吉野君は親友ではあるが此度の話の筋は必しも通つてゐない節々があるといふので、



僕はその座かぎりに話を打ち切りにしてあつたのである。

ところが山田邸の控へ室に故人をしのびつつ話し合つてゐる同人の中に吉野君が見えてゐる。同じやうにつれ立ちて邸を辭する、門前で僕はつい話す積りでなかつた話を吉野君に切り出したのである。

まあ此邊で筆の方も打ち切る事にするが、要するに自動車といふ足がなくなれば、二十三日の行程中その半は廻はり切れなかつたはずである。車があつたればこそである。車のおかげで毎日かけ廻はる場處がうんと多くなつてゐる、それだけ用が餘分に足りてゐる事は争はれない。もちろん至るところ話題にのぼしたからというて、右から左へとどれだけ効果をあげうるかといへばそれは知れたものであらう。しかしいづれにしても宣傳の世の中であるからマイナスにはならない、ゼロでもない、なにがしかのプラスにはなる事とおもふ。それだけに自動車の功德といふ事はしみじみと考へさせられるのである。

\*

しかし物には表がある裏がある。それは何かといへば自動車病といふ事である。僕は六月十五日の夜行汽車中で下痢をはじめ、翌十六日の午前の三重高等農林午後の名古屋帝大の講演に通じ服薬もし食養生をした、歸京後もお醫師さんに見てもらふ、いまだに服薬をつづけてゐるが、マン

性になつたと見えいまだにくだし氣味である。あまり忌々しいからこの二日にははじめて程ヶ谷のゴルフコースへ出かけて見た、それは近頃の運動不足が腹下しの大きな原因であると信じたからである。程ヶ谷では下痢腹であるためにクキックアップもクキックダウンも緩和されて幾分スローにでもなつたのか、粥腹にしては出来栄えがよすぎたのである。しかしおなかの方はまだくだりつづけてゐる。というて昨今中央物價委員會は殆んど連日午前午後にわたり開會されてゐる。消極的に宅に引きこもり養生するまでの決心もつかない。そのうち腹下しの経過により相當考慮せねばなるまいと思つてゐるが、いづれかといへば適度の積極的抵抗療法により、出来るだけ運動に出かける、それから車にも乗らずにすめば成るべく徒歩勵行にとりかからうと思つてゐる。

世の中は眼鏡のかけ方でいろいろにうつつし出される、車のありがた味をおぼえたと又そこになにがしか文句が出てくる、身勝手なものである、我ままなものである。



## 柔道と拳闘

### 上 柔道選士権大會（十月二十一日二十二日の講道館）

日本柔道選士権大會はもう第九回となつた。第一回るときから僕がかつて朝日新聞社に在社してゐた關係から、かなり深い宿縁を持つてゐたが、その取組が専門と一般の二種に大別し、更にその各部における年齢別の小分けにしてあつた、その小分けをやめる事は豫選の選舉區擴張と共に随分古くからの懸案であつた。今親しく大會に臨んで小分け廢止の成效をたしかめ得た事は、かねて期したる事ながら僕として大きな喜びである。

會場も神宮外苑の相撲場などよりも講道館の道場の方がどれだけ風格が備はり落ちつきがあるか分らない。慾をいへばさらに此道場が廣くあればと思ふ。さうしてそこに年次を逐うて優勝選手の寫眞額なり姓名なりが掲げられる事になつたらばなどと、思ひはそれからそれへと走つた。

専門で木村政彦五段の技の冴えは水際立つてゐる。かうしたのが柔道だとなうなづかしめる。

これに對して目に立つた強道も少くなかつた。決勝戦に遊田常義五段と荒井健雄四段が、延長二回に及んだが勝負つかず、結局引分けといふ事になつたが、此引分けに對し僕としては不満がある。

二十七貫の遊田三十貫に近い荒井兩選手は體格に於て大きな差別が無いが、より軽い方の遊田選手は絶えず攻勢をつづけた。内股大内などかなり仕かけたが三十貫の巨軀は頑として倒れなかつた。しかし荒井選手は防禦専門であつて巨軀強力に任かせた強道と見る外が無い。もし荒井選手にしてしたたかに倒されるだけの師匠を得て、そこに柔術の極意が體得されたならばと思ふが、それだけの盤根にあはず風波にもまれず、此まま只いつも倒されないといふままで年を経る事とならば惜みてもあまりありと思ふ。

話は横にそれたが僕は攻勢をつづけた遊田選手に判定勝ちを與ふべきではなからうかと思ふ。さらに廻れば荒井四段は第三回戦でも宮島龍治五段に延長戦勝になつてゐる、準決勝戦でも石村謙三五段に延長戦勝ちになつてゐる。此場合攻勢の遊田五段を判定勝ちとしても見物も荒井選手自身もうなづく事と思ふ。防ぐといふ事もおろそかにできぬが、攻めるところに武道の要諦があるべきと思ふ、識者の高見をまつ。



下 拳闘、對米選手豫選大會（十月二十一日の神宮外苑）

拳闘については此前も筆にした事があるが、アマでもどうもプロらしく見える。すべての雰圍氣が見世物といふ感じを與へやすい、ショウの一種といふ氣分がついて廻つてくる。それには拳闘そのものの本來の特色として、同じ系統に屬する柔道やレスリングの場合と必しも一律にはいかない。しかし少くともできるだけショウらしく無いやうにつとめなければならぬ。

その一つに服装の改良がある、審判者も審判者らしく制服がほしい、相撲や柔道さらに剣道の場合の審判者の服装を想像すれば分かる。さらに選手の服装も制限したい、そしてその色合も白とか黒とか素朴なのがよい。派手な色の染め分けなどは感心しない。上下とも眞紅の服装をつけたのを見たが、いかにもケバケバしい感じを與へる。

その一つに見物連中の自肅を要する。大體職業の相撲でもレスリングでも、選手の名を叫ぶ、「しつかりやれ」とか、「フリーフリー」とか、「それ押せ突つ張れ」とかいふ聲を聞く、それは耳に障らないが、拳闘の時は大分詞が亂暴になる、「頑張れ」とかいふならば聞きやすい、僕のうしろで頻りにナイスナイスといふ聲もあつた、それはフラインでもマニフィックでもよろしい。しかし「やつつけろ」「のしてしまへ」「たたんじまへ」となると聞苦しい。さらに僕の

横に居つた男は、盛んに「馬鹿野郎」を連發する、之れは無禮である、「いつまでぐすぐすしてゐるのだ三十錢かへせ」？ とかいふ聲も聞えた、いかにも興さめたる野次馬連中である、困つた事だが拳闘では、さうした事も仕方がないとあきらめてしまへばそれまでであるが、それでは他の競技とならんで出るところへも出られなくなる。自然と自分で世界を狭くする事にならう。紐育のマチソンスケヤーで拳闘を見た古い思ひもある。拳闘では見物が熱狂してくるのは東西同じ事であるが、しかしこれはひどすぎる、あまりにも野卑な低級な野次を飛ばす事だけは止めてほしい、アマの場合に於ては猶更の事である。（一四、一一、體育日本）

ヤンキー・スタジアムで褐色の爆弾ルイス對ラインの槍騎兵シユメー  
リングの世界選手権試合は、開始のゴングから僅に二分四秒一回目打  
倒といふ稀有の記録を残した。百萬弗試合だから一分五十萬弗になる。



## 神宮體育大會

第十回明治神宮體育大會は厚生省の主催により秩父宮殿下を總裁に奉戴し、十月三十日より十一月三日まで五日間に亘り、凡て豫定通り進行無事終了を告げし事は、誠に感激に堪へざる次第である。

殊に十一月二日には、天皇陛下親しく行幸遊ばされ、文武百官陪してここに天覽競技は滞りなく執り行はせられた、總ては秩父宮總裁殿下の御令旨につきてゐる、又何等私言を挿むべくもない。我等かつて、陛下が攝政の官にいます頃、駒場の競技場に親しく御迎へ奉りし當時をしのびて萬感胸に迫るものがある。同時に嘉納岸兩先輩今健在ならばといふ感を禁じ能はない。

何んとしても支那事變勃發以來ここに三年にわたり、重大時局に直面せる今日、此盛大なる競技大會の開催せられし事が、如何に世界の列國に響いた事かと思ふと胸が一杯になる。又スポーツを識らざりし人、能くは識らざりし人、或は誤解してゐた人、さうしたあらゆる人たちもここ

に、陛下の御行幸に際して體育競技を親しく陪觀する事となつた、その結果がどうした感銘を興へたであらうか、とにもかくにもスポーツの如何なるものなるかを親しく見る機縁をつくつた事はスポーツの爲め欣懐とする處である。

競技そのものは極めて嚴肅にしかも整然と手際よく運ばれた、當局の人たちの御苦勞の程が察するに餘りがある。いかに時間が切りつめられ勵行されうるかといふ事が立證された。……ここまで切りつめるがよいかどうかは二段として……バスケットとヴァレーが同時に一つ場處で催されたのは焦點が二つになつてどうかと思つたが、體操がはじまると柔道の一團はうしろに控へてゐる、集團體操の女子の退場行進と入れちがひに、男子の入場行進がはじまる、その行進自體が既に大きなアツトラクションである。之を活動に例するならば日本のフィルムはあまり感心しない場面まで長すぎてとかく間がのびたがる、西洋のフィルムには今少し見てをりたいと思ふ場面、それは多人數の大仕掛なときに多いが、それが惜しい惜しいと思はれるものがぐんぐんカットされてゆく、それらにくらべて天覽競技はまさしく思ひ切り切りつめられてゐる、その個々については云ひたい事もある。ことにレコードをつくるといふ點から見れば意見もあらう。しかし競技に觀覽は切りはなされぬ。殊に天覽競技にありては特別である。いづれにしても大成功であつた。ことに前面芝生の人たちが座を立つたあとの始末のよかつた事は、特に注意したからとはいへ、